

講義科目名称： 心理学入門

授業コード： 5P001

英文科目名称： Introduction to Psychology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	(一部ワークやグループワークを行う) 講義 (15回)		担当者
授業計画	第1回	<p>心理学の成り立ち 本科目の授業計画や到達目標について確認する。心理学の歴史、成り立ちについて学び、心理学が対象としている「こころ」について考える。 key words：哲学における心理学, 実験心理学の始まり (ヴント), ヴント批判 (ゲシュタルト心理学, 行動主義, 精神分析)</p>	伊藤 栞
	第2回	<p>心理学の研究法と心理学のアプローチ 心理学が採用する研究方法と心理学が対象とする領域における5つのアプローチによる展開について話をする。 key words：実験法, 観察法, 調査法, 検査法, 面接法, 生物学的アプローチ, 行動的アプローチ, 認知的アプローチ, 精神分析的アプローチ, 人間性アプローチ</p>	伊藤 栞
	第3回	<p>感覚・知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、人が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚, 視知覚, 錯覚</p>	伊藤 栞
	第4回	<p>学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、学習の原理を概観する。 key words：古典的 (レスポデント) 条件づけ (パブロフ), オペラント条件づけ (スキナー)</p>	伊藤 栞
	第5回	<p>記憶 私たちは一生の間に数多くの様々な事柄を自らの記憶にとどめ、時に応じてそれらを思い出す。しかしながら、思い出そうとして思い出せないことや、忘れようとしても忘れられないことも多くある。本講義では、心理学における記憶の知見について学ぶ。 key words：記憶のしくみ, 記憶の種類, 記憶の多重貯蔵モデル, 記憶の障害</p>	伊藤 栞
	第6回	<p>動機・欲求 私たちが行動を起こそうとするとき、そこには感情や動機 (づけ) が関わっている。本講義では、動機づけの諸理論について学ぶ。 key words：動機と欲求, 動機づけ, 欲求階層説</p>	伊藤 栞
	第7回	<p>感情 私たちが行動を起こそうとするとき、そこには感情や動機 (づけ) が関わっている。本講義では、感情・情動について学ぶ。 key words：感情と情動, 古典的な感情理論, 現代の感情理論</p>	伊藤 栞
	第8回	<p>脳の働き／こころの生理学的基盤 1 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造, 脳の働き, 高次脳機能障害</p>	伊藤 栞
	第9回	<p>脳の働き／こころの生理学的基盤 2 前回に引き続き、脳の働きについて学ぶ。本講義では、睡眠について学ぶ。 key words：脳波, 睡眠活動, サーカディアンリズム</p>	伊藤 栞
	第10回	<p>パーソナリティ 1 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方, 感じ方, そして行動の仕方 (行動様式) を持っている。このような考え方や行動の仕方は、時や場所のような状況を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちには、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「パーソナリティ」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である類型論と特性論について学ぶ。 key words：類型論, 特性論, 性格の5因子モデル</p>	伊藤 栞
	第11回	<p>パーソナリティ 2 前回学んだパーソナリティを捉える検査について学ぶとともに、臨床の現場で用いられる性格検査を体験する。 key words：パーソナリティ検査, 心理検査の信頼性と妥当性</p>	伊藤 栞

	第12回 こころの発達 1 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では、身体的な発達、こころの発達について学ぶ。 key words：身体的な発達、認知的な発達（ピアジェ理論）、心理社会的発達理論	伊藤 栞
	第13回 こころの発達 2 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では、感情や人間関係の築き方などを発達の面から捉えていく。 key words：愛着、人間関係の発達の变化	伊藤 栞
	第14回 社会 1 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：対人認知、対人感情、対人関係の成立基盤	伊藤 栞
	第15回 社会 2 人は生きていく中で、様々な他者と出会い、交流しながら関係を築いていく。人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである。しかし、他者とともにあることは、人生を豊かにする半面、様々な苦悩の源泉ともなる。本講義では、私たちが他者をどのようにとらえ、関わっているか、他者からどのような影響を受けているかを学習する。 key words：援助行動、攻撃行動、集団内過程・集団間過程	伊藤 栞
科目の目的	心理学を学ぶことを通じて、社会を多角的に見つめる感性を育て、現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。また、自己および他者への理解を深め、社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の基礎知識を身につけるとともに、経験則や多数意見や権威者の主張に頼らず、科学的根拠に基づいて物事を客観的に考察する力の育成を目的とする。	
到達目標	1. 心理学の主要領域の基礎概念を説明できる。 2. 身近な出来事や経験を心理学の視点から捉えなおすことができる。 3. 多面的な視点から人間の行動を理解できる。 4. 経験則や権威に依存せず、科学的根拠に基づいて考えることができる。 5. 心理学の知識を根拠として論理的に述べるができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	【教養・共通基盤科目群】教育学、コミュニケーション学入門、哲学、人間と宗教、多職種理解と医療コミュニケーション 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、人間発達学、生涯発達心理学、学習・認知心理学、心理測定法、チーム医療とリハビリテーション、臨床心理学	
成績評価方法・基準	成績評価は次のように行う。①授業時の小レポート（30%）、②期末レポート（70%） なお、授業時の小レポートに対するフィードバックは、講義の冒頭に行う。期末レポートのフィードバックは希望者に伝達する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスを確認し、講義内容に関連するトピックについて参考書などを用いて、どのような内容について学ぶのか事前におさえておく。不明な点や気になる点があれば、授業時に理解がすすむようにノートなどにまとめるなど準備をしておく。予習・復習時間は各2時間程度。	
教科書	使用しない	
参考書	繁杵算男（2018）「公認心理師の基礎と実践 2 心理学概論」遠見書房 内山靖・藤井浩美・立石雅子（編）（2020）リハベーシック心理学・臨床心理学 医歯薬出版	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	履修上の注意点として、2年次に臨床心理学が必修もしくは履修希望の場合、本科目を履修することを勧める。	
アクティブ・ラーニングの実施	双方向アンケート（リアクションペーパーによるコミュニケーション）	
ナンバリング	PBa-101	

講義科目名称： 教育学

授業コード： 5P002

英文科目名称： Education

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
安藤 哲也			

授業形態	講義（グループディスカッション、グループワーク等を含みます） 15回		担当者
授業計画	第1回	なぜ「教育学」を学ぶのか？ 本講義の目的、展開予定、受講上の注意に関する説明と本講義の到達目標の展望。 自分にとって教育学を学ぶことの意味について考える。	安藤 哲也
	第2回	教育とは？ 人の学び方の特徴や潜在的なカリキュラムが及ぼす影響など、教育を受ける側に視点を当て教育という行為を見つめ直すことにより、その困難さや奥深さなどについて考える。	安藤 哲也
	第3回	戦後日本の学校教育 学習指導要領の変遷を基に、改訂当時の社会状況などを知ることを通して、それぞれの時期に目指した学校教育の有り様の背景について考える。	安藤 哲也
	第4回	現在の学校教育 近年の中教審答申や学習指導要領を基に、自身が経験した教育内容を振り返ることを通して、現在の学校教育が目指す教育の有り様について考える。	安藤 哲也
	第5回	現代的な学校課題 近年、継続的な課題となっている「不登校」を取り上げ、その特徴や傾向、想定される要因など、多角的に調べることを通して、求められる支援の在り方を具体的に考える。	安藤 哲也
	第6回	新しい教育の在り方 「特別の教科 道徳」を取り上げ、教科書に基づく授業を具体的に体験することを通して、従来の指導方法から「考え、議論する道徳」への転換を図る指導方法の意義について考える。	安藤 哲也
	第7回	世界の教育思想Ⅰ ※提出課題あり 代表的な先人(コメニウス、ロック、ルソー)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤 哲也
	第8回	世界の教育思想Ⅱ ※提出課題あり 代表的な先人(ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ)の教育思想について調べ、交流することを通して、社会の有り様と教育との関連や現代の教育との関連について考える。提出された課題は、学習資料として全体で共有し、学びを広げる。	安藤 哲也
	第9回	子どもの思いに基づく教育 子どもの自発性や主体性を大切に幼児教育に焦点を当て、その基本を理解することを通して、教育の原点といわれていることの意味を考える。	安藤 哲也
	第10回	子どもの思いを理解する ビデオ映像を基に、一連の保育場面における子どもの思いを読み取ることを通して、子ども理解の方法とその重要性について具体的に考える。	安藤 哲也
	第11回	活動を通して学ぶということ 自身の学校経験を振り返るとともに、特別活動を具体的に体験することにより、活動を通して学ぶことの意義を見出す。	安藤 哲也
	第12回	集団で活動することの意義 小集団での活動を具体的に体験することにより、特別活動を指導する上で重要視する3つの視点から、子どもにとっての困難さや意義について考える。	安藤 哲也
	第13回	特別活動で何を育てるのか？ 特別活動を具体的に体験し、活動を通しての学びを実感することにより、教師の視点から特別活動の意義や指導の在り方を考える。	安藤 哲也
	第14回	チームの重要性 前回までの活動に基づくカンファレンスを通して、教職員同士の協働性や同僚性、学び合いの大切さについて考える。	安藤 哲也

	第15回 「教育学」をどう活かすか? ※課題レポートあり 「教育学」で得た学びの活かし方に関する考えを交流することを通して、自身のキャリア形成について幅広い視野から考えを深める。	安藤 哲也
科目の目的	学校教育を中心とした自身の教育経験を対象化し、教育内容や教育方法、教師の資質などについて、幅広い視点から振り返り、具体的に考察することを通して、対人援助職に共通して必要となる知識を見出すことを目的とします。	
到達目標	本授業で得た教育に関する学びを自身の専門領域に引き寄せ、何を、どのように活かせるかについて考えを深め、自分の言葉で述べるができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	人間発達学 生涯発達心理学 学習・認知心理学	
成績評価方法・基準	①毎回の授業のリアクションペーパー（振り返り）の内容と②課題レポートの内容を総合して評価します。配点は、①が80%、②が20%です。 ①は、毎回のめあてに近づく思考がなされているか、鍵概念を理解できているかという観点で評価します。そして、次回の授業の冒頭で、参考例を示しつつ評価の観点から解説を行い、個々の学びを深めていきます。 ②は、本授業のまとめとして作成し、本授業での学びを自分の将来像(生き方)に意味付けているかという観点で評価します。第15回に他者と交流することを通して、幅広い視点から自分の学びを見つめ直します。その上で、評価の観点に基づいたコメントを付し、後日、個々に返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料を基に予習をするとともに、授業中に記述したワークシートを基に復習をしましょう。予習・復習に必要な時間の目安はそれぞれ90分程度です。	
教科書	教科書は使用しません。必要な資料は適宜配布します。	
参考書	参考書は授業内で適宜、紹介します。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	講義で使用する資料は、原則として前回授業の翌日にActive Academyにより事前配布します。各自、事前に取得しておいて下さい。	
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッション、グループワーク等	
ナンバリング	PBa-102	

講義科目名称： コミュニケーション学入門

授業コード： 5P003

英文科目名称： Introduction to Communication

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
諸星 聡美			

授業形態	演習（各回、個別／グループワークを予定）（8回）		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション，コミュニケーションについて	諸星 聡美
	第2回	知覚プロセス	諸星 聡美
	第3回	自己と他者	諸星 聡美
	第4回	オーラルコミュニケーション	諸星 聡美
	第5回	ノンバーバルコミュニケーション（1）	諸星 聡美
	第6回	ノンバーバルコミュニケーション（2）	諸星 聡美
	第7回	自己開示と自己呈示	諸星 聡美
	第8回	現代社会における対人コミュニケーション	諸星 聡美
科目の目的	私たちはあたり前のようにコミュニケーションを行っている。しかし、コミュニケーションについて体系的に学ぶ機会はありません。 「コミュニケーション不全」「コミュニケーションの失敗」による人間関係上の問題は多くあり、”うまくコミュニケーションを行えていない”現状があると思われる。本講義を通じて、人と人が大きな齟齬なく理解しあったり、問題を共有し、問題解決のために考えたりするための基礎とするための教養としてのコミュニケーションについて学ぶ。		
到達目標	1. コミュニケーションとは何かについて説明することができる。 2. 実際にコミュニケーションスキルを用いることができ、社会生活において適切に活かすことができる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	多種職理解と医療コミュニケーション，心理学入門，臨床心理学		
成績評価方法・基準	授業内小レポート（授業回毎）：100%（次回講義にてフィードバックを行う）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：参考書などを利用しコミュニケーションに関する興味関心を高める（2時間程度）。 復習：配布された資料や講義を受けての各自のメモなどを用いて復習し、わからないことは調べたり、次回授業で聞くことができるようにする（2時間程度）。		
教科書	使用しない		
参考書	岡野雅雄（2008）．わかりやすいコミュニケーション学：基礎から応用まで 三和書籍 藤田依久子（2022）．新版対人コミュニケーション入門 ナカニシヤ出版		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	1）授業計画は受講学生数と受講学生の希望で一部変更することがあります。変更の場合は事前に周知します。 2）原則として初回授業に出席していない学生の履修は認めません。履修するか悩む場合でも必ず初回授業に出席してください。 単位取得後、「公益財団法人日本パラスポーツ協会」の所定の手続きをとることで、公認パラスポーツ指導員初級の申請が可能になる科目のひとつである。詳細は学生便覧「履修の手引き」を参照すること。		
アクティブ・ラーニングの実施	実施する（個人ワーク，グループワーク）。		
ナンバリング	PBa-103		

講義科目名称：健康スポーツ理論

授業コード：5P004

英文科目名称：Sports Science

対象カリキュラム：2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
岩城 翔平			

授業形態	講義 (計12回) [普通講義室] 演習 (計3回…第2回、第10回、第12回) [アリーナ]	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・目標の設定と達成 受講のルール説明、全15回の流れを解説。自身の大学生活についてのアフタマー ションを行う。</p> <p>第2回 運動、スポーツを通じたコミュニケーション アリーナでミニ運動会を行う。心と身体の健康と運動・スポーツのつながりを体感 する。</p> <p>第3回 形態計測 メジャーを用いて四肢と体幹の周径囲を計測する。自己の身体に関心を持ち、運動 継続のモチベーションに繋げる。</p> <p>第4回 生涯を通じた運動・スポーツの実践 生活の中に運動を取り入れるきっかけづくりとしての意識を学ぶ。また、人はなぜ 運動習慣を作ることが難しいのかを知る。</p> <p>第5回 トレーニングの基本理論① 筋収縮の様式やトレーニングの原理原則について学ぶ。</p> <p>第6回 トレーニングの基本理論②、トレーニングと栄養 トレーニングが身体に与える様々な影響および基礎的な栄養との関わりについて学 ぶ。</p> <p>第7回 初心者のためのトレーニング 身体の各部位における代表的なトレーニングを簡単な実践を交えながら学ぶ。</p> <p>第8回 様々なトレーニング方法 HIITの実践方法やウェイトトレーニングの実践テクニックを学ぶ。</p> <p>第9回 トレーニングプログラムの考案 班活動を行う。それぞれ設定された課題に対して、適した運動を班で協議し、ト レーニングプログラムを作成する。</p> <p>第10回 トレーニングプログラムのプレゼンテーション① アリーナにて、第9回で作成したトレーニングプログラムを用いて班別プレゼンテ ーションのプレテストを行う。その様子をビデオ撮影する。</p> <p>第11回 コーチングの基本理論 コーチングの基本的な理論を学ぶ。その後、第10回のプレゼンテーションを録画し たものを視聴し、班内で話し合い、プログラムおよび発表方法を改善する。</p> <p>第12回 トレーニングプログラムのプレゼンテーション② (演習試験) アリーナにて、第11回で改善したプレゼンテーションのテストを実施する。班別プ レゼンテーションは演習の成績評価に該当する。伝えようとする姿勢 (声の大き さ・トーン、目線、身振り、セリフ) の評価は撮影した映像から採点する。</p> <p>第13回 健康スポーツと行動変容・試験説明 健康スポーツが心に及ぼす影響と、行動変容との関わりについて学ぶ。 試験の内容等について説明する。</p> <p>第14回 授業内試験 (講義内容の振り返り) 授業内試験は試験の成績評価に該当する。 これまでの講義で学んだ知識が身についているかどうか、確認する。</p> <p>第15回 試験結果のフィードバック、まとめ 試験結果および課題についてフィードバックする。また、本講義で得られた成果を 今後どのように生活へ役立てるのかを改めて考え、自身の健康とスポーツのかかわ りについて具体的にイメージする。</p>	<p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p> <p>岩城 翔平</p>
科目の目的	<p>本学の体育系実技科目は必修の単位でない上、1年次後期のみの開講である。多忙な医療系学生にお いては特に、主体的に運動機会を作らなければ運動時間は減少していく。卒業後、未永く現場で活 躍することを目標とすれば、心身ともに健やかでいることは必須条件であることから、自己の健康 管理能力は極めて重要なライフスキルであるといえる。</p> <p>本科目では、現在から将来にかけて、多忙な生活の中に自らの意思で運動・スポーツを取り入れ、 生涯にわたり健康で豊かな運動・スポーツライフを継続していくための実践的な知識を学んでゆ</p>	

	く。運動を続けるモチベーションの維持はなぜ難しいのか、どのように工夫すれば望ましい運動習慣が身に付くのか等を、具体的な方法論と軽運動の実践を交え、仲間とコミュニケーションをとりながら学習していく。その過程で、一人ないし複数人での運動が心に好影響をもたらしたり、仲間との協力・協調を育むきっかけとして機能したりすることを実感し、運動・スポーツが心の健康に及ぼす影響についても理解する。
到達目標	自身の心身の健康を保持増進することはもとより、身の回りの人が健康で豊かな生活を送るサポートができるような知識と協調性を養う。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	演習（35％）：基礎的な運動について理解があるか、また、適切な表現方法でプレゼンできているかどうかを、班別プレゼンテーション内で評価する。 試験（65％）：講義内容を理解できているか測る授業内試験により評価する。 課題：講義中に課すリアクションペーパー（2点）および期末レポート（0～12点）を追加点として取り扱う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内で学習したアフメーションやトレーニングについて1週間に計180分程度実践し、運動習慣の形成に努める。
教科書	教員作成のPowerPointを用いる。
参考書	「生涯スポーツ実践論：第4版」川西正志・野川春夫 編著 市村出版 ※「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識」日本語版総監修 森谷敏夫、監修 岡田純一 ※非常に高価ですので、購入は必須ではありません。運動・スポーツ・ウェイトトレーニングに強い興味を持ち、今後ジムに通い実践しながら学んでいきたいと考える学生については、購入して損はありません。
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	第2・10・12回は運動を伴うため、運動するのに適したスタイルで参加すること。 第3回は半袖(肩まで捲れるシャツ)、半ズボン(大腿部の50%まで捲れる)で参加すること。 また、第3回以降、毎回の講義で形態計測を行うため、各自の選択した部位を正確に測定しやすい服装で臨むこと。
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク
ナンバリング	PBa-104

講義科目名称：健康スポーツ実技

授業コード：5P005

英文科目名称：Practice in Sports Science

対象カリキュラム：2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岩城 翔平			

授業形態	実技(15回)	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション・からだづくり運動 受講のルール説明、学生自己紹介カードの作成、全15回の流れについて解説をしたのち、低強度のHIITトレーニングを行い、今後の授業に向けて身体を慣れさせる。班と班長の決定。	岩城 翔平
	第2回 班編成・からだづくり運動・球技（バレーボール①） HIITトレーニング、アイスブレーキング、バレーボール、球技補助	岩城 翔平
	第3回 第1回「新体力テスト+」実施 新体力テストの種目を若干改変したものを実施する。種目：20m走、立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げ（男子：バスケットボール、女子：ハンドボール）、上体起こし、プッシュアップ、握力、背筋力、長座位体前屈	岩城 翔平
	第4回 班別ミーティング、球技（バレーボール②） アイスブレーキング、班別ミーティング、バレーボール、球技補助	岩城 翔平
	第5回 班別トレーニング①、球技（バレーボール③） アイスブレーキング、班別トレーニング、バレーボール、球技補助	岩城 翔平
	第6回 班別トレーニング②、球技（バドミントン①） アイスブレーキング、班別トレーニング、バドミントン（ダブルス）、球技補助	岩城 翔平
	第7回 班別トレーニング③、球技（バドミントン②） アイスブレーキング、班別トレーニング、バドミントン（ダブルス）、球技補助	岩城 翔平
	第8回 班別トレーニング④、球技（バドミントン③） アイスブレーキング、班別トレーニング、バドミントン（ダブルス）、球技補助	岩城 翔平
	第9回 班別トレーニング⑤、選択球技（バスケットボール・フットサル・ラグビーから選択①） アイスブレーキング、班別トレーニング、選択球技、球技補助	岩城 翔平
	第10回 班別トレーニング⑥、選択球技（バスケットボール・フットサル・ラグビーから選択②） アイスブレーキング、班別トレーニング、選択球技、球技補助	岩城 翔平
	第11回 班別トレーニング⑦、選択球技（バスケットボール・フットサル・ラグビーから選択③） アイスブレーキング、班別トレーニング、選択球技、球技補助	岩城 翔平
	第12回 班別トレーニング⑧、球技（アルティメット①） フライングディスクを使ったアイスブレーキング、班別トレーニング、アルティメット	岩城 翔平
	第13回 班別トレーニング⑨、球技（アルティメット②） フライングディスクを使ったアイスブレーキング、班別トレーニング、アルティメット	岩城 翔平
	第14回 第2回「新体力テスト+」実施 新体力テストの種目を若干改変したものを実施する。種目：20m走、立ち幅跳び、反復横跳び、ボール投げ（男子：バスケットボール、女子：ハンドボール）、上体起こし、プッシュアップ、握力、背筋力、長座位体前屈 【期末レポート提出】	岩城 翔平
	第15回 「新体力テスト+」結果フィードバック、球技 体力テスト結果および課題についてフィードバックする。 全体のまとめ、リクエスト球技を実施する。	岩城 翔平
科目の目的	<p>心身の健康の保持増進と運動・スポーツは密接に関わる。本講義では[1. 運動・スポーツを通じた協調性の獲得][2. 運動習慣の獲得による体力向上]を目的とし、展開していく。</p> <p>[1. スポーツを通じた協調性の獲得] 運動の得意不得意に関係なく、誰しもが積極的にスポーツを楽しむためには、互いに相手の気持ちを想像し合い、思いやることを意識しなければならない。一方の立場だけでなく、別の立場からの視点を考慮することは、あらゆる医療職が集うチーム医療の実践に必要な協調性およびコミュニケーション能力の一つとして必須である。</p> <p>[2. 運動習慣の獲得による体力向上] 自身の体力課題を設定したうえで、班員同士協力し合い、毎週の講義で目的に応じたトレーニング</p>	

	を実施していく。また、本講義では予習復習の時間を自宅でのトレーニング実践時間として位置付けるため、履修学生は主体的に運動・スポーツに関わる機会を得る。今現在運動習慣がない者でも、運動・スポーツに継続して取り組めば、体力向上が可能なことを知り、その達成感を味わうようにする。そうして獲得した運動習慣を、講義終了後も継続してもらうことが本講義最大の目的である。
到達目標	【運動・スポーツが心身の健康におよぼす影響を実感する】 <ul style="list-style-type: none"> ・仲間の心情を想像し相手を思いやることを心掛ける（心のトレーニング） ・スポーツ参加者全員が楽しめる場や空気の作り方を考える（心のトレーニング） ・班員同士協力して体力課題を乗り越える（心身のトレーニング） ・自身の体力課題を計画的に克服することで、運動習慣が身体機能におよぼす効果を実感する（身体トレーニング）
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	リアクションペーパーの提出（20%）：配付したリアクションペーパーを翌週提出したかどうか。公欠が無ければ翌々週を受付期限とする。 講義への取り組み（20%）：積極的に活動していたか。よほど目に余る行動（内職や不要なスマホの操作、だらけきった態度等）が無ければ減点されることはない。 班活動の様子（20%）：積極的にコミュニケーションを取り活動に取り組んでいたか。 第2回体力テスト結果（30%）：課題として設定した項目のスコアが伸びていたか。 期末レポート（10%）：設定した課題に取り組んだかどうか。レポートの提出が無ければA+評価は得られない。 球技の実力の多寡で成績評価はしない。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	第3回の授業で実施する体力テストの結果を参考に設定した課題に適したトレーニングやストレッチを自宅で実践する。1週間に45分～程度。
教科書	教科書無し。
参考書	「NSCAパーソナルトレーナーのための基礎知識 第2版」日本語版総監修 森谷敏夫、監修 岡田純一 NSCAジャパン ※非常に高価ですので、購入の必要はありません。今後ジムに通い、本格的にウェイトトレーニングを行う予定の学生は購入しても損はありません。
オフィス・アワー	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツウェア・内履き・タオルが必要。それぞれ高校で使用していたもので可。 ・教員が運動に適していないと判断した服装、外履きや素足、靴下での参加は認めない。 ・怪我予防のためピアス・ネックレス等装飾品は外して臨む。 上記服装について何度注意しても繰り返し守られない場合、授業への参加を認めない。その際、欠席として取り扱う。 <ul style="list-style-type: none"> ・実技の授業中に内職をするなど言語道断である。 ・履修者数が10名を下回った場合、シラバスに記載の通りに球技を行うことは不可能である。その場合は状況を見て実施可能な種目を選択する。
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学習、体験学習、グループ・ディスカッション、グループ・ワーク
ナンバリング	PBa-105

講義科目名称： 文学

授業コード： 5P006

英文科目名称： Literature

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイダンス：「文学」とは何かを考える。 ◎ガイダンス 文学作品には、多様な人間模様や文化、歴史、そして切実な社会問題が刻み込まれている。作品を読むことは、一度きりの人生では決して出会えない人々や事柄に遭遇し、その経験を共有し、意味を問い直すプロセスである。それは、多様な人間や社会への理解を深めることであり、まさに「あなたはどうか生きるか」という普遍的な問いに能動的に向き合うことでもある。</p> <p>本科目では、日本文学の作品鑑賞を通じて、自己や他者、そして社会に対する多角的な視点や共感力を養い、「どう生きか」を探求する。また、近代・現代日本語の美しい響きや表現に触れることで、感性を磨き、自らの考えを論理的かつ豊かに表現する「文章力」の向上も目指す。</p> <p>【成績評価について】 成績評価は、学期末のレポート（100%）によって行う。</p> <p>評価のポイント： 単なる感想ではなく、講義で扱った視点や分析手法が反映されているかを重視する。 詳細説明： レポートの具体的なテーマや執筆ルールについては、第15回目の講義にて詳しく説明する。</p> <p>事前の準備： 毎回の講義で得た気づきや考察をメモしておくことが、質の高いレポート作成への一番の近道となる。</p> <p>◎一回目の講義内容 1. 講義の流れ 2. 代表的な作詩者について考える。メッセージ力とは何か、どこから生まれてくるのだろうか。 3. 世界的に愛される詩の秘密を考察する。 4.</p> <p>第2回</p> <p>芥川龍之介概論 1. 高校時代読み学んだ小説「羅生門」をどのように読み取ったかを振り返ってみる。 2. 芥川龍之介について説明する。 3. 芥川龍之介の生涯を学んで、小説「羅生門」を読み直す。今までと違った感じ取り方を味わうことができる。 4. まとめシートに記入する。 ※事前学習で芥川龍之介と「羅生門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>第3回</p> <p>宮沢賢治概論 1. 宮沢賢治について説明する。 2. 「母親」の教えから、どのような人生を送ったのか、その人生の中にある「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。また「春と修羅」詩集「銀河鉄道の夜」等の児童文学を残し、現代を生きる作家や映画監督、ミュージシャン等にも影響を及ぼしているその理由を考察する。 3. まとめシートに記入する。 ※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>第4回</p> <p>宮沢賢治『銀河鉄道の夜』から：前編 1. 「銀河鉄道の夜」と隠喩について説明する。 2. それぞれの場面における「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。 3. まとめシートに記入する。 ※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>第5回</p> <p>宮沢賢治『銀河鉄道の夜』から：後編 1. 「銀河鉄道の夜」と隠喩について説明する。 2. それぞれの場面における「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。 3. まとめシートに記入する。 ※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	<p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p> <p>衣川 隆</p>

第6回	<p>梶井基次郎概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 梶井基次郎について説明する。 2. 文学と病の関係について説明する。 3. 小説「檸檬」を読み直す。「檸檬」の中に潜む「光と影」を読み取る。「得体のしれない不吉な塊」とは何か？どんな背景があるのか？また、多くの人が絶賛する「檸檬」の文章は、その内容もさることながら、並べ立てられていく言葉の流れそのものが美しかった。日本語というのはこんなに綺麗に、鮮やかに描くことができるのかと思った。」いると言われた箇所はどこか。 4. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で梶井基次郎と「檸檬」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第7回	<p>宮崎駿概論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎駿について説明する。 2. その人生の中にある「自己犠牲」「光と影」「人生の基軸」「心象スケッチ」について考察する。また「春と修羅」詩集「銀河鉄道の夜」等の児童文学を残し、現代を生きる作家や映画監督、ミュージシャン等にも影響を及ぼしているその理由を考察する。 3. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で宮崎駿と「宮沢賢治」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第8回	<p>結核と文学（宮崎駿『風立ちぬ』から前編）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎駿と『風立ちぬ』と結核との関係を説明する。 2. 結核について文化史的側面から考察する。 3. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で宮崎駿と「風立ちぬ」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第9回	<p>結核と文学 宮崎駿『風立ちぬ』から後編）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宮崎駿と『風立ちぬ』と結核との関係を説明する。 2. 結核について文化史的側面から考察する。 3. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で宮崎駿と「風立ちぬ」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p> <p>※小レポート作成準備</p>	衣川 隆
第10回	<p>与謝野晶子と出産——『青海波』を読む——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 与謝野晶子について説明する。 2. 与謝野晶子と家族、出産について説明する。 3. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で宮崎駿と「青海波」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第11回	<p>夏目漱石概論——病と文学——前編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏目漱石について説明する。 2. 文学と病の関係について説明する。 3. 小説「門」を読む。門に隠された表現を探っていく。小説はまず主人公を読者に紹介しつければならない。主人公をどうやって印象付けるかを探る。 4. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で夏目漱石と「門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第12回	<p>夏目漱石概論——病と文学——後編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 夏目漱石について説明する。 2. 文学と病の関係について説明する。 3. 小説「門」を読む。門に隠された表現を探っていく。小説はまず主人公を読者に紹介しつければならない。主人公をどうやって印象付けるかを探る。 4. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で夏目漱石と「門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第13回	<p>正岡子規概論——病と文学——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正岡子規について説明する。 2. 文学と病の関係について説明する。不治の病で床に伏し、激痛と闘いながらも森羅万象への好奇心を持ち続けた日々の記録を読む。 3. 正岡子規の俳句や短歌、文章の革新運動の表現を探っていく。 4. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で正岡子規と「門」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
第14回	<p>アラン概論 ——幸福論——</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. アランについて説明する 2. 「詩的、文学的、そして哲学的」な幸福論はについて説明する。 3. 「アラン：幸福論」が教えてくれるものとは何か？ 4. まとめシートに記入する。 <p>※事前学習で「アラン：幸福論」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆

	<p>第15回 前回の復習と文学がひらくもの ◎アランについての復習と「幸福論」を読んで自分はどう生きるかについて考える。</p> <p>◎レポート作成についての説明 【レポートの目的（到達目標）】 本レポートでは、講義を通じて以下の能力を身につけたかを確認する。</p> <p>多角的視点：医療対象を身体的・心理的・社会的側面やその背景から捉え、文学作品の中に生命の尊厳や倫理観を読み取れること。 洞察力：文学やその近接ジャンルにおける表現から、現代医療に通じる今日的な問題を抽出できること。 論理的構成力：講義内容を踏まえ、自らの考えを「論文形式」で論理的に記述できること。</p> <p>【課題内容】 授業で取り上げた文学作品の中から1作品を選択し、以下のテーマでレポート（A3用紙）にまとめる。</p> <p>テーマ：「この作品を読み、私はどう生きるかー文学と人生の接点から考えるー」</p> <p>内容：作品の分析にとどまらず、人間の背景とその関わりについて自身の倫理観や死生観を交え、普遍的な視点で論じること。</p> <p>※事前学習で「文学がひらくもの」について図書館やインターネットなど利用して調べる。授業後は自分の考えをまとめる。</p>	衣川 隆
科目の目的	<p>時代を超越した文学の中には、人生の学びともなりこころの基軸ともなる。そこには光と影、生と死、愛と憎しみ、病と祈り、不安と恐怖、歓喜とその裏にあるものなど、言葉の中に表現されたテーマは実に多様であり、その表現方法も種々様々である。</p> <p>本科目の文学では、近代から現代までを取り上げ、俳句・短歌・詩・小説といったさまざまな文学ジャンルの魅力やその表現の奥にある深さや豊かさを理解し、生涯にわたって基軸になるような宝となりうるかもしれない文学的教養の扉を開いて行く。</p> <p>そして文学の世界を理解するために、映画、アニメーション等といった様々な近接ジャンルについても理解を深め、人間の創り出す物語とは何かという問題に向かい合う。</p> <p>一方で、病者の抱える苦悩や絶望といった内面的な問題を中心に置き、病者自らが記した小説・日記・俳句等から読み取り、それを医療従事者としてどのように理解し自らの医療行為に反映させることができるのかを考えることを目的とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢。 2. チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力と協調性。 3. 医療技術専門職としての基礎的知識と技術、及び社会人としての教養。 4. 医療技術分野の諸課題を見出し、科学的洞察による確かな判断ができる能力。 5. 生涯にわたって専門分野を探究し、その発展に貢献する意欲と姿勢。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	知識・理解・表現	
関連科目	哲学、生命倫理、社会学、心理学入門	
成績評価方法・基準	期末レポート（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 講義の理解を深め、自身の思考を広げるために、以下の予習・復習を継続すること。</p> <p>1. 授業前（予習）：テキストの精読と問いの抽出（60分）。指定されたテキスト（文学作品や資料）を事前に精読し、「心が動かされた箇所」や「疑問に思った点」をメモして講義に臨む。また医療や生命の尊厳といった視点から、作品が提示している「課題」を自分なりに探しておくことが重要である。</p> <p>②. 授業後（復習）：講義内容の再構築と内省（30分） 講義で提示された分析視点や他者の意見を踏まえ、自分の初期の読みがどう変化したかを振り返る。学期末のレポートに向け、毎回の講義で得た「自分なりのキーワード」をノートに整理しておくことを推奨する。</p>	
教科書	教科書：使用しない（講義資料は1週間前を目処にActive Academyを通して配布する。各自で印刷するか、パソコンを持参し講義資料を見るか各自で選ぶこと）。	
参考書	各テーマごとに講義資料を作成して配布する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		

アクティブ・ラーニングの実施	正しい知識の修得ではなく、正解のない議論（課題）を通して問題解決へのアプローチ方法を身につける。 具体的には、以下のことを講義に取り入れていく。 1. 学生は、授業を聞く以上の関わりをしていること 2. 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きがおかれていること 3. 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること 4. 学生は活動（例：読む、議論する、書く）に関与していること 5. 学生が自分自身の態度や価値観を探求することに重きが置かれていること 6. 問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること
ナンバリング	CBb-101

講義科目名称： 人間と宗教

授業コード： 5P007

英文科目名称： Humans and Religion

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
森 禎徳			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 人間と宗教 なぜ人間は宗教を必要とするのか。人間にとっての「超越者」の意義を考える。	森 禎徳
	第2回 神話と人間 (1) 神々が「人間的に」ふるまう多神教の物語、まずはギリシャ神話の世界を概観し、神話に含まれる教訓を学ぶ。	森 禎徳
	第3回 神話と人間 (2) ギリシャ神話に続いて日本神話の世界に触れ、神話と実際の歴史がどのようにリンクしているのかを学ぶ。	森 禎徳
	第4回 世界宗教 (1) 「世界宗教」のうち、キリスト教とその起源であるユダヤ教 (旧約聖書) について学ぶ。	森 禎徳
	第5回 世界宗教 (2) イスラム教の起源と教義を学ぶとともに、現代の世界におけるイスラム教の状況について考える。	森 禎徳
	第6回 世界宗教 (3) 仏教が目指す「悟り」「解脱」とは何かを考えるとともに、現代の日本人と仏教のかかわりについて学ぶ。	森 禎徳
	第7回 新宗教とカルト 新宗教とは何かを学び、一部の宗教団体がカルト化していった経緯を知ることで正しい信仰のあり方を考える。	森 禎徳
	第8回 神の存在証明 中世から近代の哲学においては、神の存在を証明する試みが隆盛した。その歴史と証明構造を概観する。	森 禎徳
	第9回 神の存在証明批判 ヒュームの経験論とカントの批判哲学を中心に、神の存在証明に対する批判を概観する。	森 禎徳
	第10回 知性と宗教 聖書に見られる反知性主義、キリスト教による科学の弾圧の歴史を通して信仰と知性の関係を考える。	森 禎徳
	第11回 道徳と宗教 カントの『単なる理性の限界内における宗教』を出発点に、信仰と道徳、信仰と自由の関係について考える。	森 禎徳
	第12回 平和と宗教 十字軍の歴史を通して異教徒 (異文化) 間の相互理解の可能性と限界について考える。	森 禎徳
	第13回 ホスピスの歴史と思想 シシリー・ソンドースの生涯と思想をたどりながら、ホスピスの原点とホスピス運動の展開について考える。	森 禎徳
	第14回 アイデンティティと宗教 「宗教二世」問題を通して、宗教によって自らの生き方を選ぶ機会を奪われた人たちの思いを考える。	森 禎徳
	第15回 医療と宗教 宗教的信条に基づく輸血拒否の事例をもとに、信仰は生命に優先するのかを考える。	森 禎徳
科目の目的	宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの相において人間にかかわりをもつ「宗教」とは何かについて考え、キリスト教を中心にその教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人	

	間の理解、さらに文化・社会の理解にも役立つだろう。また、医療と宗教のかかわりについても考える機会を設けたい。
到達目標	①宗教が人間にとって大きな意味を持っていることを知る。 ②宗教が人間の営みに対して時に有害な影響を行使したことも知る。 ③宗教と医療のあるべき関係について考えを深める。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権
関連科目	哲学 生命倫理
成績評価方法・基準	期末レポート（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマ当たり4時間程度、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に加えて、比較宗教学による文献の読解もお勧めする。授業中に参考文献や映画を紹介するので、気になった作品に触れてみてください。
教科書	教科書は使用しません。授業はパワーポイントを使って進行します。
参考書	授業中に必要に応じて紹介します。ただし、購入を強制するものではありません。
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	集中力・注意力の減退につながるため、基本的に授業資料の配布は行いません。重要だと思ったことはノートに記録して復習に役立てるよう心がけてください。
アクティブ・ラーニングの実施	授業形態としての実施はなし。出席票での質問、口頭での質問は、毎回受けつけます。
ナンバリング	PBb-102

講義科目名称： 芸術

授業コード： 5P008

英文科目名称： Art

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
東 晴美			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>ガイダンス：なぜ芸術を学ぶのだろうか？ 「芸術」は、絵を描くことだけではありません。絵をながめたり、音楽を鑑賞したり、ドラマやアニメの物語の展開を考察したりしながら、人と人が結びつきます。スポーツだってプレイヤーの「表現」を鑑賞します。芸術が豊かで、幅広く、自由であることに気づきます。15回の授業を通して、自分の大好きなアートを発見しましょう。</p>	東 晴美
	<p>第2回</p> <p>ことばのアート 高校までの国語で、ことばのアート（言語芸術）について学びました。ことばのアートは、さらに、進化し続けています。ことばのアートの新しい挑戦を紹介します。</p>	東 晴美
	<p>第3回</p> <p>表現の場：アートはどこにある？ 同じ作品でも、場所が変われば、感じ方も変わります。毎週発売される週刊漫画を楽しむに待つのと、コミックでまとめて読むのは少し違いますね。その作品が最も輝く場所で発表されます。アートが発表される場所について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第4回</p> <p>ファン：もう一人の作り手 これまでの芸術の学びは、作者について学ぶことが多かったのではないのでしょうか。多くの芸術は、読者や観客、ゲームならばプレイヤーに向けて発表されています。ファンがあってこそそのアートです。ファンの役割について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第5回</p> <p>からだ 「からだ」について考えるのは、医療の分野だけではありません。今、アートの世界で最も注目されているのが「からだ」です。アートの視点から身体について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第6回</p> <p>メッセージ：芸術は美しさだけではない（小テスト1） 芸術は、いつも強いメッセージを持っています。文章では難しく思えるメッセージでも、アートで感じるとすんなり納得できることもあります。芸術の可能性について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第7回</p> <p>物語のビジュアルイメージ化（能） 日本の伝統文化「能」を通して、物語をわかりやすく伝える文化について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第8回</p> <p>笑いの表現（狂言と落語） お笑い芸人さんは、実はものすごく文化に敏感です。鋭く時代をとらえ、ユーモアに包んで、人々を考えさせます。笑われるのではなく、笑わせる。笑いの技法について考えます。</p>	東 晴美
	<p>第9回</p> <p>現代に生きる古典芸能（歌舞伎） 歌舞伎は、400年前に誕生した時から、常に最先端のアートでした。今も、初音ミクやアニメなどとコラボしながら、伝統文化も残している歌舞伎について学びます。</p>	東 晴美
	<p>第10回</p> <p>人形の表現と語る表現（文楽）（小テスト2） 世界中のアーティストが注目する人形浄瑠璃文楽。子ども向けの芸術ではなく、大人が夢中になる人形劇について学びます。</p>	東 晴美
	<p>第11回</p> <p>先住民アートとゲーム：日本の物語の再生 21世紀になって先住民アートが世界中で注目され、その国の代表するアートの一つとなっています。日本の先住民アートについて学び、物語を伝承する時に、ゲームが果たす役割についても考えます。</p>	東 晴美
	<p>第12回</p> <p>アニメ・マンガ：もはやサブカルチャーではない！ 欧米と異なり、大人も愛する日本のマンガ文化について、江戸時代における絵画、文学、演劇のメディアミックス文化を源流として考察します。</p>	東 晴美
	<p>第13回</p> <p>ミュージカル：「ライオンキング」と文楽 わかりやすく楽しい音楽劇のミュージカル。名作の一つ「ライオンキング」は日本の伝統文化とも深い関わりがあります。ミュージカルの自由な表現について学びます。</p>	東 晴美

	<p>第14回 2.5次元ミュージカル 現代日本では、舞台芸術、アニメ、ゲームなどが、メディアの垣根を越え縦横に入り交じりつつあります。代表例として漫画「テニスの王子様」のアニメ、ゲーム、ミュージカル化を紹介します。また、二次創作と日本の著作権意識の源流について考察します。</p> <p>第15回 まとめ:ひろがる芸術の世界 (期末テスト) ボーカロイド初音ミクによる近松門左衛門作「曾根崎心中」の道行きのパフォーマンスを例にとりながら、新しいメディアと既存の文化との関係について考察します。これまでの授業について振り返り、ポイントを整理します。</p>	<p>東 晴美</p> <p>東 晴美</p>
科目の目的	<p>この授業では、芸術の楽しみ方について学びます。 まず、現代の芸術の楽しみ方について、「ことば」「表現の場」「ファン」「からだ」「メッセージ」をテーマに考えます。 次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の芸術を紹介します。 最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどのサブカルチャーの魅力について考えます。 具体例として、総合芸術といわれる舞台芸術を紹介します。これらのテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の伝統文化の特色を学ぶ。また、伝統文化が、日本の現代芸術に影響を与えていることを学ぶ。 ・サブカルチャーが、日本の現代芸術にとって重要な役割を果たしていることを学ぶ。 ・芸術を通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	社会学	
成績評価方法・基準	授業中の小テスト (2回) 各20%、期末教場レポート20%、授業中リアクションペーパー40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1コマあたり4時間程度の学習をすることが望ましい。	
教科書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)	
参考書	各回のテーマに関連する参考書を授業中に紹介する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。	
アクティブ・ラーニングの実施	発見学習 (教員が示した芸術の事例をもとに、自分が親しんでる芸術ジャンルの特色を発見し考察する)	
ナンバリング	PBb-103	

講義科目名称： 哲学

授業コード： 5P009

英文科目名称： Philosophy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
峯村 優一			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 哲学とは何か	峯村 優一
	第2回 ギリシャ哲学 ソクラテス、プラトン、アリストテレス	峯村 優一
	第3回 大陸合理論 ルネ・デカルト	峯村 優一
	第4回 イギリス経験論 (1) ジョン・ロック	峯村 優一
	第5回 イギリス経験論 (2) ジョージ・バークリー	峯村 優一
	第6回 イギリス経験論 (3) デービッド・ヒューム	峯村 優一
	第7回 ギリシャ哲学、大陸合理論、イギリス経験論のまとめ (1) ギリシャ哲学、大陸合理論、イギリス経験論の内容の確認	峯村 優一
	第8回 ギリシャ哲学、大陸合理論、イギリス経験論のまとめ (2) ギリシャ哲学、大陸合理論、イギリス経験論の 中間試験 (中間テストの結果を示し、難しい問題を解説)	峯村 優一
	第9回 カント哲学 (合理論と経験論を超えて 1) インマヌエル・カント	峯村 優一
	第10回 カント哲学 (合理論と経験論を超えて 2) インマヌエル・カント	峯村 優一
	第11回 経験論から分析哲学への移行 エルンスト・マッハ、ゴットローブ・フレーゲ	峯村 優一
	第12回 分析哲学 (1) ルードヴィヒ・ウィトゲンシュタイン	峯村 優一
	第13回 分析哲学 (2) ウィトゲンシュタインと論理実証主義	峯村優一
	第14回 分析哲学 (3) ソール・クリプキ	峯村 優一
	第15回 カント哲学、経験論から分析哲学への移行、分析哲学 カント哲学、経験論から分析哲学への移行、分析哲学の内容の確認	峯村 優一
科目の目的	哲学 (Philosophy) の語源はギリシア語のphilosophia、「知の探究」を意味する。哲学は、人とこの世界をめぐる最も根源的な諸問題について考える学問である。たとえば、人の認識、精神と物体、言葉と真理など、誰もが一度は疑問に感じることがあるだろう。こうした基本的な問題について、代表的な哲学者の思想を参照しながら、自ら考える姿勢を養っていく。	
到達目標	1. 哲学の基本的概念を習得し、説明できる。 2. 哲学の諸説を習得し、説明できる。 3. 哲学の基本的概念と諸説を踏まえた上で、それに対する自説を論理的に展開できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	「人間と宗教」、「社会学」、「心理学入門」、「生命倫理」等の科目と関連を有する。	
成績評価方法・基準	中間試験 (50%)、期末試験 (50%) の成績による。 講師からの質問に対し、講義資料の内容を踏まえて的確に返答をする学生を高く評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	パワーポイント講義資料を読んで予習する。 講義の場で話を聞くことに集中し、講師からの問いかけに答えられるようにする。 授業後に内容を振り返り、扱われたテーマについて理解する。 これらに必要な学習時間については、概ね4時間程度を目安とする。	
教科書	教科書は用いない。講義パワーポイント講義資料を配布し、それに基づいて行う。	
参考書	勢力尚雅・古田徹也著 2016 『経験論から言語哲学へ』 放送大学教育振興会	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	講義中のディスカッション
ナンバリング	PBb-201

講義科目名称： 生命倫理

授業コード： 5P010

英文科目名称： Bioethics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
新田 あゆみ			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 総論 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要 第2回 生命倫理の基礎 (1) 生命倫理の社会的・歴史の変遷、四原則 第3回 生命倫理の基礎 (2) 生命倫理の理論 第4回 生命倫理の基礎 (3) 臨床倫理の四分割表 第5回 中絶 (1) 中絶を守る立場と問題 第6回 中絶 (2) 中絶を守る立場と問題 第7回 生命倫理の基礎と中絶のまとめ 生命倫理の基礎と中絶に関する重要な問題のまとめ 第8回 生命倫理の基礎と中絶のまとめと中間テスト 生命倫理の基礎と中絶に関する重要な問題の確認 第9回 中絶 (3) 中絶を批判する立場と問題 第10回 中絶 (4) 中絶を批判する立場と問題 第11回 インフォームド・コンセント (1) インフォームド・コンセントの基本的な考え方、擁護する立場と問題 第12回 インフォームド・コンセント (2) インフォームド・コンセントを批判する立場と問題 第13回 難病 (1) 難病療養者が抱える問題 第14回 難病 (2) 難病療養者と生命倫理 第15回 中絶、インフォームド・コンセント、難病のまとめ 中絶、インフォームド・コンセント、難病に関する重要な問題のまとめ、期末試験 相談	新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ 新田 あゆみ
科目の目的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、ディスカッションを通して、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。	
到達目標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになること、また生命倫理の各トピックに関する倫理的問題を考察して、医療者として適切な判断ができるようになることを目指します。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	哲学、公衆衛生学、生活文化と医療、社会学、生物学、心理学入門	
成績評価方法・基準	中間テスト (50%)、期末テスト (50%) による総合評価。講義前に教科書、資料を読み、講義中の講師からの質問に対して、講義資料に従って的確に返答する学生を高く評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書を読むようにしてください。また授業に関する資料を配布しますので、資料に目を通してください。1コマあたりの学習時間の目安4時間。	
教科書	(教科書) 鎌田依里・峯村優一著 2023 『難病療養者のこころー心理臨床と生命倫理の視点からー』 創元社	
参考書	(参考書) 霜田求編 2018 『テキストブック生命倫理』 法律文化社	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。
アクティブ・ラーニングの実施	講義中の講師からの問いかけに答える、またディスカッションに参加するアクティブラーニングを実施。
ナンバリング	PBb-202

講義科目名称： 法学（日本国憲法含む）

授業コード： 5P011

英文科目名称： Law (Including the Constitution of Japan)

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
道下 洋夫			

授業形態	講義形式にて行なう。（15回）		担当者
授業計画	第1回	法とは何か なぜ法を学ぶのか、法とは何かについて様々な角度から考える	道下 洋夫
	第2回	法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方、法と医療の関わり合い方について理解する	道下 洋夫
	第3回	日本の法システム 日本の法令にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する	道下 洋夫
	第4回	日本の司法制度 法的責任、訴訟事件にはどのようなものがあるかについて理解する	道下 洋夫
	第5回	憲法1 憲法の基本理念及び構造について理解する	道下 洋夫
	第6回	憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する	道下 洋夫
	第7回	憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する	道下 洋夫
	第8回	憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する	道下 洋夫
	第9回	民法1 私法とは何か、債権債務とは何か、契約とは何かについて理解する	道下 洋夫
	第10回	民法2 不法行為など契約外の債権について、及び債権の一般的な規則について理解する	道下 洋夫
	第11回	民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する	道下 洋夫
	第12回	民法4 行為能力、時効など民法の一般的な規則について理解する	道下 洋夫
	第13回	刑法1 刑法の基本原理について理解する	道下 洋夫
	第14回	刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する	道下 洋夫
	第15回	刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する	道下 洋夫
科目の目的	<p>法治国家である日本においては、健康保険による高度かつ安価な診療を受けたければ、医療を提供する側も受ける側も双方に各種医療関係法規の遵守が要求される。したがって医療関連の国家試験では、医療スキルの修得だけではなく医療関係法規の修得が要求されている。</p> <p>本科目は国家試験科目そのものではないが、国家試験で必要となる合格に必要な基礎力と応用力を底上げする極めて重要な「土台」となる科目である。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する。 ・憲法、民法、刑法を通じて代表的な法規定を概観する。 ・国家試験に関連する各種医療関係法規、社会保障制度の理解につながる基礎知識を習得する。 ・社会人として生きていくのに必要な一般的法知識を習得する。 		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権		
関連科目	関係法規、社会福祉・地域サービス論、生命倫理、生活文化と医療		
成績評価方法・基準	定期試験(100%)：法律とは何か、また憲法・民法・刑法とはどんなものか、について理解できているかを測る筆記試験を行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は、90 時間の学修が必要な内容で構成されている。授業は30 時間分（15 コマ）となるため、60 時間分相当の準備学習・事後学習が必要となる。授業は1回完結型の内容ではなく連続しているため、前回講義で扱った内容についてしっかり理解している必要がある。		
教科書	教科書：特にないが適宜、資料・法令を配布するので、指示に従って各自用意して授業に臨むこと。		
参考書	特になし。		
オフィス・アワー			

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	国家試験に出題される各種医療関係法規、医療倫理、社会保障制度の学習の前提となる。 なお、看護学科の同名の科目とは講義内容・試験共に異なる。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。
ナンバリング	PBc-201

講義科目名称： 社会学

授業コード： 5P012

英文科目名称： Sociology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
沼田 翔二郎			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回</p> <p>社会学ガイダンスと「社会学的想像力」 社会学の基本的な物の見方である「社会学的想像力」について学ぶ。個人の悩みを社会構造と結びつけて捉える視座を獲得し、医療従事者が社会学を学ぶ意義を理解する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第2回</p> <p>社会化と社会的相互作用 人間が社会の一員となる「社会化」のプロセス、および「役割」「規範」といった基本概念を学ぶ。教育や組織における個人の振る舞いが、いかに社会的に形成されるかを考察する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第3回</p> <p>ジェンダーとセクシュアリティ 社会的・文化的性差であるジェンダーの概念を学ぶ。医療・ケア現場におけるジェンダーバイアスや、現代社会における家族形態の多様化について理解を深める。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第4回</p> <p>社会階層と健康・教育格差 現代社会における格差、貧困、社会階層の構造を扱う。特に社会経済的地位 (SES) が健康に与える影響 (健康の社会的決定要因: SDH) や、教育に与える影響 (文化資本・社会関係資本等) について、具体的なデータを基に検討する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第5回</p> <p>社会調査法①：量的調査の基礎 アンケート調査などの量的アプローチの論理を学ぶ。相関関係と因果関係の違い、統計データの適切な読み取り方 (リテラシー) を習得し、エビデンスに基づいた思考法を養う。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第6回</p> <p>社会調査法②：質的調査の基礎 インタビューや参与観察などの質的アプローチの論理を学ぶ。数値化できない個人の文脈、意味づけ、プロセスを捉える手法としての特徴を理解する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第7回</p> <p>調査手法の比較と統合 同一の社会事象に対し、量的・質的アプローチがそれぞれどのような「真実」を切り取るかを比較検討する。目的に応じた調査手法の使い分け (ミックス法など) について学ぶ。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第8回</p> <p>演習①：ライフヒストリー分析 闘病記やインタビュー記録などの二次資料 (ライフヒストリー) を用いた分析演習を行う。個人の語りから、その背景にある社会構造や制度的課題を読み解く技法を実践する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第9回</p> <p>演習②：ライフヒストリー分析 闘病記やインタビュー記録などの二次資料 (ライフヒストリー) を用いた分析演習を行う。個人の語りから、その背景にある社会構造や制度的課題を読み解く技法を実践する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第10回</p> <p>科学技術社会論 (STS) と専門性 科学技術と社会の接点を扱うSTSの視点から、専門家 (Expert) と非専門家 (Lay person) の関係性を学ぶ。高度専門職としての医療者が持つ権威と責任について考える。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第11回</p> <p>リスク社会とコミュニケーション 現代社会特有の「リスク」の概念と、不確実性の中での意思決定について学ぶ。科学的根拠と社会的合意形成の間で、専門職がいかにコミュニケーションを図るべきかを検討する。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第12回</p> <p>市民社会とボランティア 「第一セクター (行政)」「第二セクター (企業)」だけではない「第三セクター (NPO・市民社会)」の役割を学ぶ。ボランティア活動の社会的意義と、自発的な社会参加について考える。</p>	沼田 翔二郎
	<p>第13回</p> <p>コミュニティとソーシャル・キャピタル 地域コミュニティにおける人々のつながり (ソーシャル・キャピタル) が、個人の健康や福祉に果たす役割を学ぶ。「社会的処方」など、医療と地域の連携事例を検討する。</p>	沼田 翔二郎

	<p>第14回 現代社会の課題と多職種連携 これまでの学びを統合し、複雑化する社会課題（少子高齢化、孤立など）に対して、リハビリテーション専門職が他領域とどう連携しアプローチできるかを議論する。</p> <p>第15回 総括：専門職としての自己形成 講義全体の振り返りを行う。変化する社会の中で、自身がどのような専門職として社会に関わり、どのような社会を形成していきたいか、自身のビジョンを言語化する。</p>	<p>沼田 翔二朗</p> <p>沼田 翔二朗</p>
科目の目的	<p>本講義は、社会学の基本概念と調査手法を学び、「自分（個人の経験）」と「社会（構造・制度・文化）」のつながりを読み解く視点（社会的想像力）を養うものである。講義前半では、ジェンダー、役割、規範といった社会学の共通言語を習得し、身近な事例を分析する。中盤では、同一テーマに対する「量的調査」と「質的調査」のアプローチの違いを比較学習する。特に、他者の語り（ライフストーリー）を二次情報として分析する演習を通じ、データや語りの背後にある社会的文脈を読み解く力を身につける。講義後半では、科学技術や医療と社会の関係（信頼・リスク・専門性）について考察する。これらを通じ、単に医療・看護等の技術を提供することとどまらず、変化する社会情勢や地域社会の動向を踏まえた保健医療サービスを構想し、自身が専門職としてどのような自己を形成し、そして社会を形成していきたいかを言語化する。なお本講義は、受講生同士の対話を通じて、一人ひとりにとってより開かれた学びの機会となることを目指す。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会学の基本概念（規範、役割、ジェンダー、階層、制度、知識など）を用いて、身近な出来事や具体的事例を分析できる 2. 社会的想像力を用いて、個人的な経験を社会構造・制度・文化といった広い文脈と結びつけて説明できる 3. 量的調査と質的調査の特徴・利点・限界を理解し、問いの性質や目的に応じた使い分けを説明できる 4. ライフストーリー（語り）を二次情報として分析し、個人の健康や生活背景にある社会的文脈を読み解くことができる 5. 科学技術・医療と社会の関係（信頼、専門性、リスク）を社会的に考察しながら、自己と社会の目指す像を言語化する 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	法学（日本国憲法含む）、経済学、生活文化と医療、地域ボランティア活動論、環境学、スタディ・スキルズ、社会福祉・地域サービス論	
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 平常点（リアクションペーパー）：30% ● 中間課題（小レポート）：30%（講義時間内に複数回実施） ● 最終課題（期末レポート）：40% 	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 内容：Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にする。 ● 時間の目安：1コマあたり4時間を自己学習に必要な時間の目安とする。 	
教科書	特定の教科書は使用しません。毎回の講義でレジュメ（スライド資料）を配布します。	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ○ ケイン樹里安（2019）『ふれる社会学』北樹出版 ○ 中村英代（2017）『社会学ドリル—この理不尽な世界の片隅で』新曜社 ○ ハンス・ロスリング他（2019）『FACTFULNESS（ファクトフルネス）—10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経BP 	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので、各自講義中に使用できるように準備しておくこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	あり。特に、ダイアログ、ディスカッション等の学び合いが多くあります。	
ナンバリング	PBe-202	

	第13回 長寿祝いと老人観 高齢化社会を象徴する老いの民俗と、長寿祝いをみていきます。老いと福祉に関する回想法についても理解します。	鈴木 英恵
	第14回 高齢女性の活躍と道の駅 近年、「人生100年時代」といわれるようになり、社会で活躍する高齢者が増加しています。ここでは道の駅で活躍する高齢女性の暮らしに着目し、その元気の秘訣を探ります。	鈴木 英恵
	第15回 葬送儀礼と先祖供養 伝統的な葬送儀礼を取り上げ、死の予兆とは何か、人は亡くなると何処へ行くのか、などについて考えてみます。先祖供養のお盆、お彼岸などの行事の意味、地域的特色のある盆行事についてみていきます。	鈴木 英恵
科目の目的	本講義では、科学的医療ではなく、人びとの間で古くから実践されてきた伝統的な医療習俗を取り上げます。伝統的な医療習俗とは、世間の人びとが理解してきた病気への解釈、病気を治す方法など、民間の医療・療法が対象となります。いわゆる民間療法は医師や医療従事者以外の人が行う療法で、古い時代から人びとの生活に根付いてきました。このような民間の医療・療法の特徴を学ぶことで、人はどのように病気を理解し受け止めてきたのか、また如何にして健康を取り戻そうとしてきたのか、その心意や療法を習得することができます。日々医療技術は進歩し、病院や医療機関施設等では科学的医療が施されますが、その一方で、人は重い病気や完治の困難な病気を抱えたと、お守り、お札(護符)など神仏の力、さらには家族や周りの友人の力を得て、それらを心の拠り所とし、病氣と向き合います。病氣を克服し、よりよい健康状態を求めようとする人びとの心意こそが、過去から現在まで続いてきた医療習俗に属します。本講義をとおり、私たちの生活と医療とのかかわりを実感し、患者やその家族を支えるような思慮深い保健医療従事者になることを目的とします。	
到達目標	現代医療に通じるような、伝統的な医療習俗を学ぶことは、いまの生活の質を向上させる力になります。今後、医療従事者を目指す学生の皆さんは、赤子から高齢者まで、さまざまな世代の患者やその家族と接するときがきます。伝統的な医療習俗や地域医療の対象となる人びとの生活文化を、知識として有することで、患者らとの円滑なコミュニケーションができると考えます。本講義では、「死生観」と「生活文化と医療」に関するレポート課題を出しますが、履修者の課題に対する取り組みへの姿勢とその内容を鑑み、成績に反映させます。レポート課題を達成した後、履修者が獲得できる能力は①患者の視点に立って物事をみる力を養うこと、②患者やその家族らの心の動きを理解し信頼関係が築けること、の2点と考えます。患者らの気持ちに寄り添えるような保健医療従事者となる能力の獲得を目標とします。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	生命倫理	
成績評価方法・基準	本講義ではレポート課題(60%)、授業内でのミニテスト(30%)、授業の理解度をはかるリアクションペーパーの提出(10%)で成績評価をします。レポート課題の提出は必須です。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日常生活の中から病気、健康などに関すること(病気にならないように衣食住で心掛けていること、健康維持の方法など)に興味を持ってください。そして日常生活のなかで、本講義「生活文化と医療」に関連するような事柄、キーワードを考えてみてください。人は生きている限り、常に病いと向き合い、生きていきます。皆さんは体調が悪いとき、怪我をしたとき、どのようにして健康な身体を取り戻すでしょうか。自分を含み、身近な人たち(父母、祖父母、友人、知人など)は如何にして健康を取り戻しているのかを注意深くみてみましょう。そこには身体から病気を排除するような意識が働いているはず。その意識こそが、現代における医療習俗に属します。必要な自己学習は、事前学習と予習、復習を含めて1コマあたり4時間程度です。授業前までにテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめましょう。	
教科書	教科書：『図解案内 日本の民俗』 福田アジオ・内山大介・小林光一郎・鈴木英恵・萩谷良太・吉村風編 (2012 吉川弘文館)	
参考書	参考書1：『日本人の一生：通過儀礼の民俗学』 谷口 貢・板橋春夫著 (2014 八千代出版) 参考書2：『医療民俗学論』根岸謙之助 (1991 雄山閣) 必要に応じて、資料を配布します。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	私語は他の受講者に迷惑になるので厳禁です。授業の出席だけでは単位取得は認めません。	
アクティブ・ラーニングの実施	本講義では、履修者の能動的な学修への参加を望むためアクティブ・ラーニングを行います。Think, Pair, Shareを重視し、積極的な学修への参加を取り入れます。主に、振り返り学習(講義で配布したコメントシートに「今日の学び・疑問等」を書き、「講義で学んだことを、次にどのように生かすか」を考え書くこと)に力を入れることで、学生自身の興味、関心を引き出します。また、場合によっては「生活文化と医療」が対象とする社会的な出来事について、グループ・ディスカッション(テーマについて自由に話し合い、意見交換をして整理・分析し、結論を導き出し発表をする学習方法)を行います。	
ナンバリング	OBc-203	

講義科目名称： 多文化理解

授業コード： 5P014

英文科目名称： Intercultural Understanding

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
徳永 慎也			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 多文化理解に関する用語の整理 多文化理解について学ぶ際に必要となる用語を学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第2回 アメリカ型多文化主義① アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第3回 アメリカ型多文化主義② アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第4回 アメリカ型多文化主義③ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第5回 アメリカ型多文化主義④ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第6回 アメリカ型多文化主義⑤ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第7回 アメリカ型多文化主義⑥ アメリカ型多文化主義について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第8回 エスニシティ エスニシティについて学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第9回 性・ジェンダー① 性・ジェンダーについて学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第10回 性・ジェンダー② 性・ジェンダーについて学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第11回 教育・職業・社会経済的屬性 教育・職業・社会経済的屬性について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。 期末レポート課題の提示と説明。	徳永 慎也
	第12回 宗教 宗教について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也

	第13回 障害者 障害者について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第14回 年齢・世代 年齢・世代について学ぶ。 講義の最後10分程度で講義内容について質問・コメントなどを提出。 コメントへの回答や講評は、次回授業の始めに実施する。	徳永 慎也
	第15回 第2回から第14回講義の復習（重要事項の確認） 第2回から第14回講義の復習（重要事項の確認） 多文化理解を学ぶ意義を再度確認する。	徳永 慎也
科目の目的	現代社会において、多様な価値観や文化的背景を持つ人々と相互理解を深めることはますます重要となっている。本科目では、異なる地域や言語、社会的価値観、文化的特性を持つ人々とのコミュニケーションを円滑に行うための基盤となる多文化や多様性の重要性について学ぶ。また、個人および集団間の相互関係において、適切な社会文化的背景の理解と道徳観を養い、自分とは異なる他者を理解し尊重する姿勢を培う。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化や多様性を学ぶ意義について、自ら説明することができる。 ・異なる文化的背景や社会的価値観を持つ人々についての基礎的な知識を理解し、多文化や多様性について、具体例を挙げて、自ら説明することができる。 ・多様な価値観が共存する社会において、道徳的・倫理的観点から適切な判断を下し、日常生活においてその姿勢を実践できる。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	英語リーディング 医療英語リーディング 英語会話 医療英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング 国際コミュニケーション英語 中国語 コリア語 ドイツ語 ポルトガル語	
成績評価方法・基準	期末レポート70% 毎回のコメントペーパー30%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は、90時間の学習が必要な内容で構成されている。授業は30時間（15コマ）となるため、60時間分相当の準備学習（予習と復習）が必要となる。 予習：講義資料を読んで、疑問点や自分の意見をまとめておく。 復習：講義で得た知識を基に興味を広げ、文献やニュースを活用してさらに理解を深める。	
教科書	指定なし：講義資料を配付する	
参考書	指定なし：講義内で適宜紹介する	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	私語厳禁（グループディスカッションなど、教員から指示がある場合を除く）。出席はパスワードを用いて登録してもらいますが、コメントペーパーを用いて教員も確認する。	
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッションを行う。 授業後のコメントシートで「今日の学び・疑問・次の課題」等を記入。	
ナンバリング	PBc-101	

講義科目名称： 経済学

授業コード： 5P015

英文科目名称： Economics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。</p> <p>第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。</p> <p>第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。</p> <p>第5回 政府の役割 市場の失敗の是正について説明します。</p> <p>第6回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。</p> <p>第7回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作、預金準備率操作、ゼロ金利政策、金融の量的緩和等について説明します。</p> <p>第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んで日本のGDPの状況を確認します。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第13回 貿易・国際収支 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。</p> <p>第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p>	<p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p> <p>飯島 正義</p>
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における復習プリント40%（3～4回、授業資料参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。 なお、復習プリントのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業資料で前回の授業内容を復習するとともに、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して1コマあたり4時間程度を復習・予習にあてて下さい。	
教科書	教科書は使用しません。授業ではWebに添付する授業資料を使います。	
参考書	必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー 参照	

国家試験出題基準	Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準 参照
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。定期試験時には印刷された授業資料のみを持ち込み可とします。なお、資料の添付期間は資料を添付してから1か月間です。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし。
ナンバリング	PBc-102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
衣川 隆	岩城 翔平	一柳 大輔	

授業形態	講義8回と授業内レポート、地域ボランティア活動実習6回と体験レポート1回。		担当者
授業計画	第1回	<p>ガイダンス、ボランティアの現状、ボランティアの歴史について本講義の目的、授業の流れ等ガイダンスの説明。日本におけるボランティアの現状、ボランティアの定義、日本・欧米におけるボランティアの歴史について説明する。 また「民生委員・児童委員」「NPO」といった多様なボランティアの歴史を説明する。</p> <p>成績評価方法・基準について説明する。 また「体験レポート」についてのフィードバックは、授業において匿名化したうえで紹介する。個別のフィードバックは行わない。</p>	一柳 大輔
	第2回	<p>ボランティアに関する情報収集、ボランティアセンターの役割についてボランティア活動をスタートするにあたり、必要となる情報収集の方法について説明する。ボランティアセンターの組織や活動内容について説明し、各市区町村に設置されているボランティアセンターの活用方法を理解する。また、申請までのロールプレイングを行い、ボランティア参加までの流れを理解する。</p>	一柳 大輔
	第3回	<p>寄付と還元について 共同募金(赤い羽根共同募金)を例に寄付文化とその還元について説明する。寄付がどのようなかたちで使われているか、実際の事業を紹介し理解を深める。</p>	一柳 大輔
	第4回	<p>性的マイノリティとボランティア活動について 性的マイノリティに関連する団体の事業を紹介する。また、居場所事業・相談支援事業・啓発活動に関する紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。また、「アライ(支援者)」として性的マイノリティの方との交流を支援的側面に特化して説明する。</p>	一柳 大輔
	第5回	<p>生活課題を抱えた方への支援とボランティア活動について “複合的な課題”、“重層的な課題”等の生活課題を抱えている地域住民の事例紹介、そういった住民を対象とした居場所事業やコーディネート実践の紹介を通してボランティアとしてどう関わられるかを考察する。</p>	一柳 大輔
	第6回	<p>“ごみ屋敷”とボランティアについて ごみ屋敷の住人の多くは複合的な課題を抱えており、支援のあり方は非常に複雑であり、様々な専門職やボランティアが関わるケースが多い。ごみ屋敷の住人の支援において、ボランティアがどのように関わるかという視点で実際の事例をもとに説明をする。</p>	一柳 大輔
	第7回	<p>災害現場における災害ボランティアセンターの役割、災害ボランティアの活動について 我が国では、毎年、各地で自然災害が発生しておりこれらにより多くの人命や財産等が失われている。災害が発生した際に設置される災害ボランティアセンターの役割と災害ボランティアの活動について説明し、医療専門職としてのかかわり方を考察する。</p>	一柳 大輔
	第8回	<p>ボランティア体験の実践紹介、ボランティアに関する企業の取り組みの紹介 講義をとおした学びとボランティア体験レポートの発表を行う。様々な背景を持つ学生同士で知見を共有、考察する。また、民間企業の社会貢献活動の取り組みを紹介し、卒後の専門職キャリアを歩むうえでのボランティア活動の捉え方を考察する。</p>	一柳 大輔
	第9回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第10回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第11回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第12回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第13回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平
	第14回	<p>ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。</p>	衣川 隆、 岩城 翔平

	第15回 ボランティアの実践 ボランティア活動と活動日記を作成。	衣川 隆、 岩城 翔平
科目の目的	1. ボランティア活動の多様なあり方を理解する。 2. ボランティアに関連するステークホルダーを知り、他者を尊重し自身のかかわり方を考察する。 3. 医療専門職として地域社会に主体的かつ創造的に貢献できるようになる。	
到達目標	1. ボランティア活動の基本概念はもとより、歴史や現在の多様なニーズを理解し、ボランティアの意義を説明できる。 2. 実践や体験を通して、地域社会のニーズやボランティア活動について説明できる。 3. ボランティア・市民活動の実践を振り返り、医療専門職としての職業観の確立の基礎作りに寄与できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	なし	
成績評価方法・基準	授業内レポート(60%)・ボランティア体験レポート(40%) 【評価のポイント】 ・授業内レポート：学習内容の定着度合いがどの程度であったかを計測する。具体的には、授業回を取り上げ、内容の要約が適切か、重要キーワードの意味を理解できているか、考察がよく吟味され独自性のあるものか。 ・ボランティア体験レポート：主体性であるか(個人で完結するレポートは低い評価、様々なステークホルダーと関わる内容は高い評価をする傾向にある)、ボランティアによる学びの内容が詳細に記述されているか、考察が吟味され独自性のあるものか。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	個人として、または医療専門職として、どのようにボランティアと関わるかを自分なりに整理し、言語化できるようにしておくこと。テーマに沿って自分の気になるトピックスを学習しておくこと。 準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり2時間。	
教科書	使用しない	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習、教室内での演習	
ナンバリング	OBc-103	

講義科目名称： 群馬の探求

授業コード： 5P017

英文科目名称： Exploring Gunma

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 『群馬の探求』 概論 『上毛かるた』 の創設と文化的意義</p> <p>第2回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ① 日本の近代化を支えた絹産業</p> <p>第3回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ② 豊かな自然と景勝地</p> <p>第4回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ③ 歴史と文化遺産</p> <p>第5回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ④ 群馬を形作った人物</p> <p>第6回 「上毛かるた」と読み解く群馬県の主要テーマ⑤ 県民の気質と暮らし</p> <p>第7回 群馬の保健・医療・福祉 群馬の医療と支える国・県・市町村</p> <p>第8回 『群馬の探求』 のまとめ 『上毛かるた』 と巡る群馬の現在・そして未来の創造</p>	<p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p> <p>星野 修平</p>
科目の目的	群馬パース大学のある群馬県は、豊かな自然に囲まれ、多くのアウトドア施設、観光資源、温泉、史跡、歴史的建造物など、様々な文化と歴史と共に歩んできた。また群馬県民は古くから「上毛かるた」と共に、その歴史や文化、人々の生活を知り、群馬の魅力と地域の特性、人との関わりを大切にしてきた。この科目では、群馬県の歴史、文化、経済、社会などを多角的に探求し、群馬の生活圏で生きる人々の県民性と保健医療を提供する医療体制について学ぶ。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県の歴史・文化・経済・社会の概要について説明できる。 ・群馬県の人と地域の特色について説明できる。 ・群馬県の健康・医療・福祉の概要について説明できる。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	地域社会への貢献	
関連科目	コミュニケーション学入門、社会学、生活文化と医療、多文化理解、経済学、環境学、公衆衛生学、社会福祉・地域サービス論	
成績評価方法・基準	<p>演習課題 (50%) ・課題レポート (50%)</p> <p>*各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。</p> <p>*この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は7.5コマ (15時間) の講義科目のため、30時間分の準備学習時間 (1 コマあたり4 時間 (実時間数180分)) が必要であり、事前学習 (90分) ・事後学習 (90分) が目安となる。	
教科書	使用しない	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「上毛かるた」で見つける群馬のすがた：知れば、もっとぐんまが好きになる！ 群馬県 (2010/3/1) ・上毛かるたはカタル 渡邊 俊著 Booko出版 (2023/12/19) ・ガイドマップ「上毛かるた」ゆかりの地文化めぐり 群馬県 (2011/3/1) ・手島仁の「群馬学」講座-人物100話 手島仁著 上毛新聞社 (2015/2/6) ・大学的群馬ガイド こだわりの歩き方 高崎経済大学地域政策学部 観光政策学科編 昭和堂 (2024/3/18) 	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	授業中に行う演習課題では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC (Windows またはOS X) タブレット等を持参してください。	
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。	
ナンバリング	NBc-106	

講義科目名称： 環境学

授業コード： 5P018

英文科目名称： Environmental Studies

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景、生活を支える資源と持続可能社会、SDGs 第2回 環境問題の変遷 産業革命、公害問題から地球環境問題へ 第3回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、四大公害病、イタイイタイ病を事例として 第4回 有害物質による環境汚染の国際的な拡がり 水俣条約を事例として 第5回 水質汚濁 (I) 水質汚濁の原因、生活排水、酸素要求量 第6回 水質汚濁 (II) 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり 第7回 水質汚濁 (III) 宮崎駿の作品にみる水質汚濁と川の再生 第8回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物、3R 第9回 オゾン層破壊 地球環境問題の顕在化、フロンによるオゾン層破壊 第10回 紫外線対策 紫外線の人体への影響、オーストラリアの対策を事例として 第11回 気候変動 (I) 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測 第12回 気候変動 (II) 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加 第13回 気候変動 (III) 予防原則、先進国・途上国の責任、緩和、パリ協定 第14回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 化石燃料からの脱却、再生可能エネルギー 第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える	西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実 西菌 大実
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。	
到達目標	1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験 (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習 (自筆ノートの整備) を行う。準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書	使用しない (プリント配布)	
参考書	新版 新しい環境科学 鈴木孝弘 駿河台出版社 ISBN978-4-411-04039-8C3040	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラー	教室内でのグループ・ディスカッション	

ニングの実施	
ナンバリング	PBd-101

講義科目名称： 基礎生物学

授業コード： 5P019

英文科目名称： Basic Biology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
嶋田 淳子			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質 生命活動に主要な役割を持つ構成成分 ・炭水化物(糖質) ・脂質 ・核酸 ・無機質(無機塩類)</p> <p>第3回～4回 生命の単位 ウイルス、原核細胞(細菌類を含む)、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第5回 細胞内小器官 核、小胞体、ゴルジ装置、ミトコンドリア、リソソーム ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ</p> <p>第6回 受精、発生、分化 (1) 無性生殖と有性生殖、減数分裂 ②受精 ③初期発生と分化のしくみ ④形態形成とアポトーシス</p> <p>第7回 受精、発生、分化 (2) 受精、発生 ②サイトカイン</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③遺伝病の原因—遺伝子変異</p>	<p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p>
科目の目的	医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に基礎生物学では生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。	
到達目標	ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成について理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト形質の遺伝について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	化学、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績(90%)及び講義終了時に提出するリアクションペーパー(10%)により評価する。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。
教科書	「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）
参考書	1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D.サダヴァ他著 ブルー--ボックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、教科書、講義資料等で予習後、履修することが望ましい。
アクティブ・ラーニングの実施	授業の中でグループワークを行う。
ナンバリング	PBd-102

講義科目名称： 生物学

授業コード： 5P020

英文科目名称： Biology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
嶋田 淳子			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回・2回 遺伝子の転写・翻訳 ①遺伝子の転写 ②遺伝子の翻訳 ③原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ④エピジェネティクス</p> <p>第3回・4回 遺伝子の複製、エネルギー代謝 ①遺伝子の複製 ②染色体の分配 ③染色体異常 ④遺伝病 ⑤細胞周期</p> <p>第5回・6回 がんとがん遺伝子 ①がんの原因 ②がん遺伝子とがん抑制遺伝子</p> <p>第7回・8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチン-プロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞分裂の限界と老化</p>	<p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p> <p>嶋田 淳子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、基礎生物学で学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する生物学分野の研究進捗状況について理解する。</p>	
到達目標	<p>基礎生物学の学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、発現調節、DNAの変異などについて知識を深める。</p> <p>②ヒトにおける染色体異常、および遺伝病について学び、説明できる。</p> <p>③がんの原因、がん遺伝子、がん抑制遺伝子について学ぶ。</p> <p>④細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	基礎生物学、基礎化学、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績 (90%) 及び講義終了時に提出するリアクションペーパー (10%) により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典 (岩波書店、東京化学同人社など) で調べ、理解しておくこと。	
教科書	「人の生命科学」 佐々木 史江、堀口 毅、岸 邦和、西川 純雄 (医歯薬出版株式会社)	
参考書	<p>1. 「Essential細胞生物学原書第4版」 中村桂子、松原謙一 監訳 (南工堂)</p> <p>2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス (講談社)</p> <p>3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝 (羊土社)</p>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」 参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」 参照	
履修条件・履修上の注意	基礎生物学を履修していることが望ましい。	
アクティブ・ラーニングの実施	授業の中でグループワークを行う。	
ナンバリング	PBd-103	



講義科目名称： 基礎数学

授業コード： 5P021

英文科目名称： Basic Mathematics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 数と式 展開・因数分解を復習する。</p> <p>第2回 方程式と不等式 1次不等式, 2次方程式の復習をする。</p> <p>第3回 2次関数 2次関数とそのグラフ, 2次関数の最大・最小, 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係性を復習する。</p> <p>第4回 図形と計量 三角比, 正弦定理と余弦定理, 図形の計量を復習する。</p> <p>第5回 個数の処理 順列, 組合せを復習する。</p> <p>第6回 確率 事象と確率, 確率の性質, 反復試行の確率, 条件つき確率を復習する。</p> <p>第7回 論理と命題 集合とその要素の個数, 命題と条件, 逆, 裏, 対偶を復習する。</p> <p>第8回 データの分析 データの整理と特徴的な値(平均, 分散, 相関係数など)を復習する。</p>	<p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p>
科目の目的	<p>高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と軽量、場合の数と確率、論理と命題、データの分析について学ぶ。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	基礎統計学, 物理学, 化学, 情報処理, データサイエンス	
成績評価方法・基準	<p>筆記試験 (90%) + レポート (10%) なお, 社会情勢に応じて, 筆記試験の代わりにレポート試験をすることもありうる。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学の教科書の相当部分を読んでおく。(120分程度) ・プリントや問題集の問題を解く。(120分程度) 	
教科書	<p>教科書：特になし 毎回、講義内容のプリントをActive Academyで配布する 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 持参方法：各自印刷して授業に持参すること</p>	
参考書	高校数学IAの教科書	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	PBd-104	

講義科目名称： 数学

授業コード： 5P022

英文科目名称： Mathematics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
山崎 真			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 三角関数 一般角と弧度法, 三角関数の加法定理, 三角関数の合成, 和と積の変換</p> <p>第2回 複素数 複素数の導入と計算方法, 複素共役, 剰余の定理, 因数定理</p> <p>第3回 指数関数と対数関数 指数法則, 実数のべき, 対数の導入, 対数法則, 底の変換公式</p> <p>第4回 ベクトルと行列 ベクトル・行列の導入, 基本的な性質</p> <p>第5回 微分の導入 微分の定義, 整式の微分, 極大値・極小値</p> <p>第6回 微分の基本性質 積・商の微分, 合成関数の微分, 三角関数・指数関数・対数関数の微分</p> <p>第7回 積分の導入 積分の定義, 整式の積分, 図形の面積</p> <p>第8回 積分の応用 置換積分, 部分積分, 三角関数・指数関数・対数関数の積分, 微分方程式</p>	<p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p> <p>山崎真</p>
科目の目的	医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につなぐことを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分(数ⅡⅢ)、微分方程式などについて学ぶ。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。 2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	基礎数学, 物理学, 化学, 情報処理, データサイエンス	
成績評価方法・基準	筆記試験(90%) + レポート(10%) なお、社会情勢に応じて、筆記試験の代わりにレポート試験をすることもありうる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学の教科書の該当する部分を読んでおく。(120分程度) ・プリントや問題集の問題を解く。(120分程度) 	
教科書	教科書・参考書：特になし。 毎回、講義プリントをActive Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること	
参考書	高校数学ⅡBⅢの教科書	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	講義「基礎数学」も履修することが望ましい。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	PBd-105	

講義科目名称： 基礎化学

授業コード： 5P023

英文科目名称： Basic Chemistry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異的な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 物質の変化における速度論と平衡論 物質の変化は、速度論と平衡論の両面から考察する必要がある。これらについて概説する。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>	日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰 日置 英彰
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程で学修する内容を体系的に理解するための基礎的知識を身につけることを目的とする。	
到達目標	専門課程で学習する内容を体系的に理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（75%）、毎講義ごとのリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）の提出（25%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ありませんが、毎回の講義の理解度を確認するために、講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。また、講義の中で疑問に感じて自分で調べたこと、講義に関連する内容についてさらに深く学習したことについて、毎講義ごとにリアクションペーパー（Active Academyのアンケート機能を利用）を提出してもらいます。講義を通して30時間分の学習が必要です。	
教科書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人	
参考書	特に指定なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	
ナンバリング	PBd-106	

講義科目名称： 化学

授業コード： 5P024

英文科目名称： Chemistry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第4回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p> <p>第5回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 合成高分子 医療材料には多くの高分子素材が使われている。各種高分子の性質と医療材料への応用について解説する。</p> <p>第8回 拡散と浸透現象 細胞への物質の出入りや人工透析などを考える上で重要な拡散と浸透現象の原理について解説する。</p>	<p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験 (75%)、毎講義ごとのリアクションペーパー (Active Academyのアンケート機能を利用) の提出 (25%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ありませんが、毎回の講義の理解度を確保するために、講義ごとに出題されるチェックテストを活用して復習してください。また、講義の中で疑問に感じて自分で調べたこと、講義に関連する内容についてさらに深く学習したことについて、毎講義ごとにリアクションペーパー (Active Academyのアンケート機能を利用) を提出してもらいます。講義を通して30時間分の学習が必要です。	
教科書	看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特にありません。	
アクティブ・ラーニングの実施	受講内容に関連することで興味を持ったことを積極的に調べるなど、能動的な学習を行ってください。各回ごとに提出するリアクションペーパーにはその内容を記述してください。	
ナンバリング	PBd-107	

講義科目名称： 基礎物理学

授業コード： 5P025

英文科目名称： Basic Physics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
高橋 佳孝			

授業形態	講義 (8 回)		担当者
授業計画	第1回	運動の基本 物理における力や運動の記述法。物理数学の基礎。	高橋 佳孝
	第2回	運動の記述 直線運動における距離、速度、加速度。平面運動への拡張。	高橋 佳孝
	第3回	運動の法則 ニュートンの運動の法則。力の分解。	高橋 佳孝
	第4回	運動方程式 垂直抗力。摩擦力。斜面上での力のつり合い。	高橋 佳孝
	第5回	仕事とエネルギー 仕事とは。エネルギーと仕事との関係。エネルギー保存則。	高橋 佳孝
	第6回	運動量と力積 運動量とは。力積とは。運動量保存則。はね返り係数。	高橋 佳孝
	第7回	円運動、振動 等速円運動。弾性力。単振動。いろいろなエネルギー。	高橋 佳孝
	第8回	既出事項のまとめ、期末試験 剛体のつり合い。モーメント。	高橋 佳孝
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、力学を中心とした物理の基礎を身につける。高校で物理を履修した学生にとっては別の視点の紹介等により知識の深化と応用力の向上を目指す。		
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、初等力学を考えるための標準的な手法を学び、物理現象を数学的に取り扱えるようになる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	物理学		
成績評価方法・基準	定期試験 (70%)，講義内レポート (30%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行う。(30 時間分相当) 高校で物理を履修した学生で教科書や参考書を所有している場合は予復習に役立てて欲しい。		
教科書	使用しない (自作資料を使用)。		
参考書	特にないが高校物理の教科書や参考書を持っている場合は活用して欲しい。		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	特になし		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし		
ナンバリング	PBd-108		

講義科目名称： 物理学

授業コード： 5P026

英文科目名称： Physics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
丸山 星			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 力のつり合いと運動の法則 力のモーメント、剛体の回転運動とつり合いについて学ぶ。</p> <p>第2回 力学的エネルギーと運動量 力学的エネルギー・運動量とその保存、衝突する物体の運動について学ぶ。</p> <p>第3回 円運動 円運動する物体にはたらく力について学ぶ。</p> <p>第4回 熱力学 温度による状態変化と気体分子の運動について学ぶ。</p> <p>第5回 波の運動 波の性質や音のドップラー効果について学ぶ。</p> <p>第6回 電磁気 (電気と力) 電界と電位、コンデンサのはたらきについて学ぶ。</p> <p>第7回 電磁気 (電流と磁界) 電流と磁界の関係、電磁誘導について学ぶ。</p> <p>第8回 原子の構造と放射線 原子核の崩壊と放射線の種類とその性質について学ぶ。</p>	丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星 丸山 星
科目の目的	医療従事者にとって必要な物理学を学習する。 高等学校で物理基礎を履修していない学生が、物理学全体の基礎的な理解を深めることを目的とする。この科目の学習を通して、科学的・論理的な考え方を養い、物理現象を定性的・定量的に取り扱えるようにする。	
到達目標	物理学の考え方が身につき、重要な概念を理解している。 物理学に関する問題を解決でき、物理現象を定量的・定性的に取り扱うことができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	基礎物理学	
成績評価方法・基準	講義での演習 (30%)、定期試験 (70% : 手書きのノートの持ち込み可)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料や確認問題をもとに事前学習 (60分) ・事後学習 (60分) を行うこと。	
教科書	まるわかり！基礎物理 改訂3版、鷹野誠 監修、南山堂、2025	
参考書	高等学校で使用した教科書等	
オフィス・アワー	メールにて随時対応します (maruyama@gchs.ac.jp)	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	基礎物理学と併せて履修することをお勧めします。	
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学修、リアルタイムアンケートとフィードバック	
ナンバリング	PBd-109	

講義科目名称： 基礎栄養学

授業コード： 5P027

英文科目名称： Basic Nutritional Science

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
本田 佳子			

授業形態	講義8回（演習時間を設ける講義回がある）		担当者
授業計画	第1回	栄養の概念、食物の摂取 栄養とは、空腹感と食欲、食事のリズムとタイミング	本田 佳子
	第2回	食物から食糧、栄養素成分から栄養 食糧の含有する栄養素成分、食事摂取基準と食物摂取	本田 佳子
	第3回	消化と吸収の概要とたんぱく質・糖質・脂質の消化吸収 3つの消化、吸収とは、管腔内消化と膜消化、消化管ホルモン、たんぱく質・糖質・脂質の消化吸収（消化酵素とその活性化、はたらき）の過程	本田 佳子
	第4回	糖質の栄養－食後及び空腹時の糖質代謝－ 血糖値とは、糖質の体内分布、食後及び空腹時の糖質代謝、他の栄養素との関係	本田 佳子
	第5回	脂質の栄養－脂質の体内動態－ 脂質の種類及び生理作用、脂質の臓器間輸送	本田 佳子
	第6回	たんぱく質の栄養－体内代謝－ たんぱく質の代謝回転、アミノ酸プール、窒素出納、たんぱく質の栄養価、制限アミノ酸、他の栄養素との関係 たんぱく質の代謝回転、アミノ酸プール、窒素出納、たんぱく質の栄養価、制限アミノ酸	本田 佳子
	第7回	ビタミン・ミネラル（無機質）の栄養、水・電解質の栄養的意義、エネルギー代謝 脂溶性/水溶性ビタミンの構造、代謝と栄養学的機能、生物学的利用度、補酵素としての機能、生物学的利用度、ミネラルの分類と栄養学的機能・生体機能、水の体内分布、水分出納、電解質の代謝、エネルギーとは	本田 佳子
	第8回	試験および解説 試験問題の解説をレフィードバックを実施する	本田 佳子
科目の目的	栄養の基本的概念及びその意義から生命の維持活動について学び、ヒトが生きるうえで必要となる栄養素の消化・吸収・代謝の一連の過程を理解する。この授業は、原則として健康な成人を対象とした栄養学を学ぶが、このことは、将来的に臨床栄養学、医療栄養学、各専門とするケア・キューアを理解する上で必要となる。		
到達目標	1)食物の摂取と栄養素の消化吸収の過程について説明できる。 2)ヒトが生きるうえで必要となる栄養素の生体内における役割について説明できる。 3)健康の保持・増進のために、摂取すべき栄養素の質と量について説明できる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	生化学、生理学、公衆衛生学、臨床栄養学、リハビリテーション医学、基礎運動療法学		
成績評価方法・基準	演習での成果物40%、筆記試験60%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	化学、生理学で学んだ代謝に関連した項目およびキーワードを復習 講義回につき2時間の予習・復習		
教科書	教科書「八訂食品成分表2026」（女子栄養大学出版社）		
参考書	本田佳子・曾根博仁編：栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学 基礎編 羊土社、本田佳子編：Visual栄養学テキスト 臨床栄養学Ⅰ 総論 中山書店、本田佳子編：新臨床栄養学 栄養ケアマネジメント 医歯薬出版		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	Active Academy Advanceにより資料を事前配布する 配布時期：前回授業翌日から当該日まで・持参方法：各自印刷あるいはPCにダウンロードして授業に持参すること		
アクティブ・ラーニングの実施	問題解決学習、ディスカッションの実施		
ナンバリング	PBd-110		

講義科目名称： 基礎統計学

授業コード： 5P028

英文科目名称： Basic Statistics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富田 浩			

授業形態	講義 (8回)		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーションおよび度数分布表とヒストグラムづくり方 授業方法・学生評価方法等の説明, 度数分布表およびヒストグラムについて学ぶ	富田 浩
	第2回	データの中心をはかる指標 各指標の求め方, 長所・短所などについて学ぶ	富田 浩
	第3回	データの散らばりをはかる指標 各指標の求め方, 長所・短所などについて学ぶ	富田 浩
	第4回	順列と組み合わせ 順列および組合せの考え方, 算出方法について学ぶ	富田 浩
	第5回	確率 確率の求め方と確率の基本定理について学ぶ	富田 浩
	第6回	確率変数と確率分布 主に, 二項分布, 正規分布について学ぶ	富田 浩
	第7回	母平均の区間推定 標本の情報から母集団の平均を推定する方法について学ぶ	富田 浩
	第8回	母比率の区間推定 標本の情報から母集団の比率を推定する方法について学ぶ	富田 浩
科目の目的	データを見る, 処理する時に必要となる統計的な見方・考え方を学び, 将来, 仕事などで統計を用いる際の土台をつくる		
到達目標	基本統計量のもつ意味が説明できる 主な確率分布の概要について説明できる 母平均・母比率の区間推定ができる		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		
関連科目	基礎数学, AI・データサイエンス・リテラシー, 医療統計学		
成績評価方法・基準	筆記試験 (100%) 試験結果発表後, 答案 (採点結果) を閲覧可能とする.		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習: 教科書 (各回授業該当部分) を確認する (60分程度) 復習: 授業内容と教科書の再確認, 練習問題を解く (120分程度)		
教科書	「初歩からの統計学 第2版」白砂堤津耶 (日本評論社)		
参考書	「Excelによるメディカル/コ・メディカル統計入門」勝野恵子・井川俊彦 (共立出版)		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	例題・練習問題の実施		
ナンバリング	PBd-111		

講義科目名称： 英語リーディング

授業コード： 5P029

英文科目名称： General English Reading

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction Lesson 1 Communication 授業の説明 自己紹介 現在形 第2回 Lesson 2 Friendship 過去形 第3回 Lesson 3 Health and Environment 現在完了形 第4回 Lesson 4 Gender Equality 未来表現 第5回 Lesson 5 Fashion 助動詞① 第6回 Lesson 6 Food 助動詞② 第7回 Lesson 7 The History of YouTube 比較をする表現① 第8回 Lesson 8 Study Abroad 比較をする表現② 第9回 Lesson 9 College Life in the U. S. 受け身、使役 第10回 Lesson 10 Olafur Eliasson 関係詞① 第11回 Lesson 11 Volunteer Work 関係詞② 第12回 Lesson 12 Career 形容詞用法 第13回 Lesson 13 Travel 仮定法 第14回 Lesson 14 Culture 話法 第15回 Lesson 15 An International World ディスコース標識	井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、特にリーディング力、リスニング力を養成する。英語を学ぶことを通じて、将来の医療人として人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、関心・興味を持った事柄に関して調べ、自分の考え・意見を持ち、それらを表現する。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の考え・意見を持ち、グループやペアでの話し合いを通じて、他者の考え・意見も聞き、最終的に自分の考え・意見をまとめ、表現することができる。 ・テキスト教材の音声を聞いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 ・extensive readingの目標は10,000words。易しい英文を楽しみながら読むことができ、口語表現、日常生活での英語表現が理解できる。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験 (60%) 課題(30%) extensive reading(10%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。exercise等もあらかじめやっておく。 復習：その日に学習したことを整理し、英文を理解する。課題を行う。予習復習合わせて約1時間。extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。	
教科書	教科書：Journeys: Communication for the Global Age 阿野幸一ほか4名 (朝日出版社)	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PBe-101

講義科目名称： 医療英語リーディング

授業コード： 5P030

英文科目名称： Medical English Reading

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
井上 まゆみ			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction Test Your Reading Skill 授業の説明、各自のreading skillのチェック、単語力のチェック。 第2回 Unit 1 How Food Passes Through Our Body topicの英文読解、内容の把握。 第3回 Unit 2 Coping with Cancer topicの英文読解、内容の把握。 第4回 Unit 3 Where Medicine Meets Religion topicの英文読解、内容の把握。 第5回 Unit 4 Before Calling It Malpractice topicの英文読解、内容の把握。 第6回 Unit 5 How Are Drugs Developed? topicの英文読解、内容の把握。 第7回 Unit 6 What Comes First when Helping Others topicの英文読解、内容の把握。 第8回 Unit 7 How to Identify Reliable Health Information topicの英文読解、内容の把握。 第9回 Unit 8 What Is "Upstream" Thinking? topicの英文読解、内容の把握。 第10回 Unit 9 Actions Speaks Louder than Words topicの英文読解、内容の把握。 第11回 Unit 10 Genetic Counseling as an Emerging Field topicの英文読解、内容の把握。 第12回 Unit 11 Can Medical Tourism Be a White Knight? topicの英文読解、内容の把握。 第13回 Unit 12 Hopes in Regenerative Medicine topicの英文読解、内容の把握。 第14回 Unit 13 Traditional Medicine in the Modern World topicの英文読解、内容の把握。 第15回 Unit 14 Japan's Healthcare System Is the Envy of the World Reading Skill のチェック topicの英文読解、内容の把握。各自のreading skillの再チェック。単語力の再 チェック。	井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ 井上 まゆみ
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力、表現力の養成と強化。医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。 ・トピックの内容をまとめ、関連する事柄について、自分の意見・考えを表現できる。 ・テキストの音声聞いて単語や文章を正しく聴き取ることができる。 ・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	英語リーディング 医療英語会話 英語会話 英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	定期試験（70%） 課題（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないかを明確にする。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。課題を行う。 予習復習合わせて約1時間。	
教科書	教科書：Medical World Walkabout 大野直子&ダシルヴァ石田牧子（成美堂）	
参考書	なし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PBe-102

講義科目名称： 英語会話

授業コード： 5P031

英文科目名称： General English Conversation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Course introduction/Icebreaking Explanation of the syllabus and grading. Introduction of phrases that will commonly be used in the class.	David Andrews
	第2回 Unit 1: I'm sorry. What's your name again? Talking about yourself, your hobbies, and your interests.	David Andrews
	第3回 小テストU1 および Unit 2: Where would you like to visit? Talking about countries and places that interest you.	David Andrews
	第4回 小テストU2 および Unit 3: Let's talk about money Expressing money amounts, dealing with currency exchange, and using an ATM.	David Andrews
	第5回 小テストU3 および Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 1) + 第1回目のプレゼンテーション準備 Making reservations and checking in to a hotel + プレゼンテーションの準備。	David Andrews
	第6回 第1回目のプレゼンテーション + Unit 4: Let's go to Hawaii! (part 2) 第1回目のプレゼンテーション + Making reservations and checking in to a hotel (continued)	David Andrews
	第7回 小テストU4 および Unit 5: Let's do this! Talking about resort activities and making plans.	David Andrews
	第8回 小テストU5 および Unit 6: How do I get to the Koi Pond? Asking and giving directions.	David Andrews
	第9回 小テストU6 および Unit 7: Where are you headed? Asking for a taxi and making small talk.	David Andrews
	第10回 小テストU7 および Unit 8: Let's take a tour! (part 1) + 第2回目のプレゼンテーション準備 Talking about various island tours and activities + プレゼンテーションの準備	David Andrews
	第11回 第2回目のプレゼンテーション + Unit 8: Let's take a tour! (part 2) 第2回目のプレゼンテーション + Talking about various island tours and activities (continued)	David Andrews
	第12回 小テストU8 および Unit 9: How much is this T-shirt? Going shopping and buying things.	David Andrews
	第13回 小テストU9 および Unit 10: Let's go out to eat! Ordering food at a restaurant.	David Andrews
	第14回 小テストU10 および Unit 11: Lost and Found + 第3回目のプレゼンテーション準備 Describing an item you have lost + プレゼンテーションの準備。	David Andrews
	第15回 第3回目のプレゼンテーション + Unit 12: How was your vacation? 第3回目のプレゼンテーション + Talking about your experiences	David Andrews
科目の目的	本授業では、英語でコミュニケーションをとる際に役立つ用語や表現、異文化に対する寛容さを身に付け、様々な状況や場面で使えるように実用的なコミュニケーションスキルを学ぶ。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことや身の回りのことについて英語で伝えることができる。 様々な場面において実用的なコミュニケーションスキル(要求、指示など)を習得する。 英語圏の文化や風習を理解する。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	医療英語会話、英語リーディング、医療英語リーディング、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	授業中の課題 (5%)、小テスト (30%)、第1回目のプレゼンテーション (15%)、第2回目のプレゼンテーション (20%)、第3回目のプレゼンテーション (30%) 授業中に小テストの結果を毎回確認させ、プレゼンテーションへのフィードバックを口頭で行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習：前回の授業で学んだことを定着させる。学習時間は1.5時間程度。また、プレゼンテーションの準備時間は合わせて6時間程度。	

教科書	教科書：使用せず 適宜、教材用資料を配布
参考書	なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中のスマホ使用は原則禁止。予習は必ずすること。積極的に参加すること。定期試験無し。
アクティブ・ラーニングの実施	ペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション
ナンバリング	PBe-103

講義科目名称： 医療英語会話

授業コード： 5P032

英文科目名称： Medical English Conversation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
Heather McCulloch			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions and commonly used phrases and questions for use in class.	Heather McCulloch
	第2回 Unit 1: Meeting patients	Heather McCulloch
	第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history	Heather McCulloch
	第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms	Heather McCulloch
	第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for 1st Presentation	Heather McCulloch
	第6回 1st Presentation + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.	Heather McCulloch
	第7回 Quiz (short test) on Unit 4 + Unit 5: Physical Examination Instructions	Heather McCulloch
	第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Tests and Procedures	Heather McCulloch
	第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Explaining Results	Heather McCulloch
	第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Medication and Treatment Instructions	Heather McCulloch
	第11回 2nd Presentation + Part II of Unit 8: Medication and Treatment Instructions Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.	Heather McCulloch
	第12回 Quiz (short test) on Unit 8 + Unit 9: Patient Comfort and Care Communications	Heather McCulloch
	第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Emergencies and Urgent Communication	Heather McCulloch
	第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Follow-Up Appointments and Scheduling	Heather McCulloch
	第15回 Unit 12: Discharge and Home Care Instruction + presentation preparation	Heather McCulloch
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine.	
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	Related to all English courses	
成績評価方法・基準	1. In-class quizzes (short tests) (30%: 3% x 10 quizzes) These will cover material from the text and will be graded in class. 2. Two midterm presentations (done in pairs but graded individually) (40%: 1st=20%; 2nd=20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics. 3. Final presentation (done in pairs but graded individually) (20%) Final presentation will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-12.	

	4. In-class assignments (10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogs, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Listening practice is also important. Please use the online resources to practice listening. Each chapter will require about 30-60 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 6 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書	Handouts will be given in class.
参考書	なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.
アクティブ・ラーニングの実施	pair work , group work , presentation
ナンバリング	PBe-201

講義科目名称： 英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード： 5P033

英文科目名称： Academic Reading and Writing in English

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3・4学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
David Andrews			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PBe-301	

講義科目名称： 国際コミュニケーション英語

授業コード： 5P034

英文科目名称： English for International Communication

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3・4学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
徳永 慎也			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PBe-302	

講義科目名称： 中国語

授業コード： 5P035

英文科目名称： Chinese

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
桑名 潔江			

授業形態	講義(15回)	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス、中国語とは？ 発音、漢字、声調	桑名 潔江
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	桑名 潔江
	第3回 子音の発音と音節 母音、子音、音節表の読み方	桑名 潔江
	第4回 発音のまとめ 自分の名前を中国語で読む練習	桑名 潔江
	第5回 第1課の学習 第1課 自己紹介 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第6回 第1課の復習と第2課の学習 第2課 教室で 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第7回 第2課の復習と第3課の学習 第3課 キャンパスで 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第8回 発音の総合復習と第1課から第3課までの復習 中間レポート提出	桑名 潔江
	第9回 第3課の復習と第4課の学習 第4課 友達と 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第10回 第4課の復習と第5課の学習 第5課 ファストフード店で 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第11回 第5課の復習と第6課の学習 第6課 待ち合わせ 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第12回 第6課の復習と第7課の学習 第7課 旅行 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第13回 第7課の復習と第8課の学習 第8課 アルバイト 単語 本文 ポイント 練習	桑名 潔江
	第14回 第8課の復習と第9課の学習 第9課 風邪 単語 本文 ポイント 練習 文法 単語 本文 置換練習	桑名 潔江
	第15回 第1課から第9課までの復習 総合復習	桑名 潔江
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1コマあたり60分程度必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、音声ファイルを聞きながら発声して覚えるように。
教科書	教科書：キャンパスで始める中国語（白帝社）
参考書	参考書：なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PBf-101

講義科目名称： コリア語

授業コード： 5P036

英文科目名称： Korean

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
青木 順			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として「混ぜる食文化」を紹介する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音 (濃音と比較しながら) 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統茶、伝統服を紹介する。	青木 順
	第5回 ハングルの読み方 濃音 (激音と比較しながら) 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として韓国の包む文化～「サム料理」を紹介する。	青木 順
	第6回 ハングルの読み方 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 初対面でのハングル会話を行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる (いない)」「ある (ない)」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 二人一組で会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	グローバルな視点を養い、限定的な場面でのコミュニケーション能力を身に付けることができる。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	

ド	
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	課題への取り組み (40%) ・ 期末テスト (60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、1コマ当たり1時間を目安に積極的に取り組むこと。
教科書	講師作成教材使用予定(コピー)
参考書	特になし
オフィス・アワー	講義前後：非常勤講師室
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
アクティブ・ラーニングの実施	二人一組で、与えられた課題に取り組む方法をとる。
ナンバリング	PBf-102

講義科目名称： ドイツ語

授業コード： 5P037

英文科目名称： German

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
伊藤 貴康			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・ドイツ語のアルファベットと発音</p> <p>第2回 動詞の現在人称変化1</p> <p>第3回 動詞の現在人称変化2・並列の接続詞</p> <p>第4回 定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化</p> <p>第5回 名詞の複数形・人称代名詞</p> <p>第6回 不定冠詞類・定冠詞類</p> <p>第7回 動詞の現在人称変化3・命令形</p> <p>第8回 話法の助動詞・未来形</p> <p>第9回 前置詞・再帰代名詞・再帰動詞</p> <p>第10回 分離動詞・非分離動詞・zu不定詞・従属の接続詞</p> <p>第11回 動詞の3基本形1・過去形・現在完了形</p> <p>第12回 3基本形2・受動態</p> <p>第13回 形容詞の変化・比較・関係代名詞</p> <p>第14回 文法のまとめ・簡単なドイツ語のリーディング・リスニング</p> <p>第15回 簡単なドイツ語のリーディング・リスニング</p>	<p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p> <p>伊藤 貴康</p>
科目の目的	ドイツ語の基礎文法を学習するとともに、簡単な挨拶などの表現やドイツ語圏の文化を学ぶ。	
到達目標	自力で辞書と教科書を用いてドイツ語の文章が理解できるようになるとともに、ドイツ語を母語とする人と簡単な日常会話によるコミュニケーションができるようにする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	健康スポーツ実技 文学 英語リーディング 医療英語会話 中国語 コリア語 ポルトガル語 メディア・リテラシー	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回学習する文法事項が次回以降の基礎となるため、1コマ当たり1時間程度の準備学習を要する。	
教科書	Genau! Gramatik neu (郁文堂、ISBN978-4-261-01276-7)	
参考書	1種類に指定しないが、アクセス独和辞典(三修社)、クラウン独和辞典(三省堂)など何らかの独和辞典を用意することが望ましい。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

講義科目名称：ポルトガル語

授業コード：5P038

英文科目名称：Portuguese

対象カリキュラム：2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
Hilda Harumi Handa			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 Introduction / Apresentacao Explaining how the class will be given, and grades / Explicar como serao as aulas e as notas. Introduction / Apresentacao Explaining how the class will be given, and grades / Explicar como serao as aulas e as notas.	Hilda Harumi Handa
	第2回 Brazil and the other nine countries that speak Portuguese / Brasil e os outros nove paises que falam português. A brief lecture about Brazil and nine other countries whose official language is Portuguese	Hilda Harumi Handa
	第3回 Greetings and Pronouns Greetings / Cumprimentos/Apresentacao Possessive adjectives/pronouns / Pronomes possessivos Saying hello and goodbye / Encontrar-se/despedir-se	Hilda Harumi Handa
	第4回 Alphabet and pronunciation / Alfabeto e pronuncia Syllables / Formacao das silabas Introduction to Portuguese Alphabet	Hilda Harumi Handa
	第5回 Stress / Acentuacao Stress rules Oxitonas/paroxitonas/proparoxitonas Rules for stressing.	Hilda Harumi Handa
	第6回 Nouns / Substantivos Adjectives / Adjetivos We'll talk about kinds of nouns and adjectives.	Hilda Harumi Handa
	第7回 Articles / Artigos definidos/indefinidos Prepositions / Preposicoes Verbs / Verbos Adverbs / Adverbios Nouns / Substantivos Adjectives / Adjetivos Learning about articles, prepositions, verbs, and adverbs.	Hilda Harumi Handa
	第8回 Conjunctions / Conjuncoes Time / Horas Seasons/Weather / Estacoes/climas Class about conjunctions, and how to talk about time and the weather.	Hilda Harumi Handa
	第9回 Cardinal/ordinal numbers / Numeros Cardinais/ordinais Phone / Telefone Email All about numbers.	Hilda Harumi Handa
	第10回 Subject pronoun / Pronomes Pessoais Verb Be I / Verbos ser e estar I More pronouns and the verb Be, that means more than one verb in Portuguese.	Hilda Harumi Handa
	第11回 Verb Be II / Verbos Ser e estar II Continuing with the verb Be.	Hilda Harumi Handa
	第12回 Family / Familia Week/month/year / Semana/meses/ano Colors / Cores Light class about family, dates, and colors.	Hilda Harumi Handa
	第13回 Human Body / Corpo Humano Clothing / Roupas Special class about the human body.	Hilda Harumi Handa
	第14回 Food & Culture / Gastronomia e cultura Let's learn about Brazilian food, and maybe taste some of it.	Hilda Harumi Handa

	第15回 Exam Let's see how much you learned from the previous classes.	Hilda Harumi Handa
科目の目的	<p>ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお薦めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>	
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	50% from final exam, and 40% participation (not attendance) in class, 10% assignments.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	No special knowledge is required for it's a class for beginners. However, students should prepare by reviewing the handouts from the previous class and reading the newspapers or magazines mentioned in class. Students are advised to study about 2-3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson.	
教科書	Teacher will provide handouts.	
参考書	Students will be encouraged to read some books, newspapers or magazines, that will be mentioned during class.	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>	
アクティブ・ラーニングの実施	discussion , conversation and pair work	
ナンバリング	PBf-104	

講義科目名称：メディア・リテラシー

授業コード：5P039

英文科目名称：Media Literacy

対象カリキュラム：2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
米持 圭太			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 本講義の概要と授業準備 本講義の概要とパーソナルコンピュータの利用について	米持 圭太
	第2回 コンピュータの基礎 ハードウェアとソフトウェア ソフトウェア 情報システム	米持 圭太
	第3回 情報の形態と収集の方法 情報の形態 情報蓄積の形態 クラウド環境の情報 検索エンジン 情報収集の技術 情報収集の応用	米持 圭太
	第4回 インターネットの仕組みとWebシステム インターネットの概要 通信機能の階層化 IPアドレスの仕組み パケット通信の仕組み 通信の経路を選ぶ仕組み データを確実に送り届ける仕組みと素早く送り届ける仕組み アプリケーション層のプロトコル 直接接続する機器の通信 Webアプリケーションの仕組み クラウドコンピューティング	米持 圭太
	第5回 情報の伝達 ソーシャルネットワーキングサービス ブログ 電子掲示板 電子メール ソーシャルメディア 電子書籍	米持 圭太
	第6回 レポートの作成と編集 レポートとは 主題を決める 構造化を考える 内容を作り込む 数式表記 創造的レポートに向けて	米持 圭太
	第7回 レポートの作成演習 レポート作成の演習 ワープロによる文章作成	米持 圭太
	第8回 情報のデータ化と分析・マイニング 情報とデータ データの整理 データの可視化 データマイニング テキストマイニング	米持 圭太
	第9回 情報のデータ化と分析・マイニング演習 情報のデータ化と分析の演習 スプレッドシートによる分析	米持 圭太
	第10回 モデリングとシミュレーション モデルとデータ 確率的現象 傾向と予測 未来を予測する	米持 圭太

	第11回	モデリングとシミュレーション演習 モデリングとシミュレーションの演習 スプレッドシートによる予測	米持 圭太
	第12回	プレゼンテーションの方法 シナリオシートの作成と基本的な操作 プレゼンテーションの実際 技術の進歩とプレゼンテーションの変化	米持 圭太
	第13回	プレゼンテーション演習 プレゼンテーションの演習 プレゼンテーションの作成	米持 圭太
	第14回	セキュリティと法令順守 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 情報社会の法令 デジタルコミュニケーション	米持 圭太
	第15回	ICT活用の問題解決 問題解決の基本的手順とICTの役割 情報を客観的にとらえる インターネットを利用した情報発信 問題解決におけるシミュレーションの利用	米持 圭太
科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちは様々なメディアから情報を取得し活用する。情報活用や情報操作を行うスキルを身につけるため、コンピュータやコンピュータネットワークの基本的概念と構成、仕組みを理解し、情報社会における情報の意味を理解することが求められる。本科目では大学での学び（学習と研究や臨床実践）をより充実させるため、パーソナルコンピュータやマルチメディアの基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。		
到達目標	情報社会におけるコンピュータやインターネットの仕組み理解し、情報の活用、意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の基本的概念について説明できる。 2. コンピュータとコンピュータネットワークの仕組みについて説明できる。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権		
関連科目	情報リテラシー、データサイエンス入門		
成績評価方法・基準	演習課題（50%） ミニテスト（50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業（90分）、事前自己学習（60分）、関連項目の事後学習（60分）		
教科書	標準教科書 改訂新版 よくわかる情報リテラシー 岡本敏雄 監修 技術評論社 2022		
参考書	入門情報処理 ―データサイエンス、AIを学ぶための基礎― 寺沢 幹雄・福田 収 著 オーム社 2022		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	MS-Office (MS-Word, MS-Excel, MS-PowerPoint)、ウェブブラウザをインストールしたPC (WindowsPC、Mac等) を持参してください。		
アクティブ・ラーニングの実施	課題作成に際して調査学習を取り入れた演習を行う。		
ナンバリング	PBg-101		

講義科目名称： AI・データサイエンス・リテラシー

授業コード： 5P040

英文科目名称： AI and Data Science Literacy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
河内 和直			

授業形態	講義と演習 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 社会におけるデータ・AI活用① 本科目の概要/データサイエンスとは/社会で起きている変化/社会で活用されているデータ/パソコン</p> <p>第2回 社会におけるデータ・AI活用② データ・AIの活用領域/データ・AI利活用の技術, 現場, 最新動向</p> <p>第3回 Excelの基本的な操作方法 Excelの概要/基本的な表・グラフの作成</p> <p>第4回 時系列データの可視化 データのダウンロード/時系列データのグラフ作成と編集</p> <p>第5回 平均値の算出とその可視化 平均の算出/平均の可視化/グラフの比較</p> <p>第6回 標準偏差の算出とその可視化 標準偏差の算出/標準偏差の可視化/グラフの比較</p> <p>第7回 大量のデータを扱う方法 平均と標準偏差/平均±標準偏差の算出/グラフの作成</p> <p>第8回 基本統計量の算出と箱ひげ図① データの要約/基本統計量</p> <p>第9回 基本統計量の算出と箱ひげ図② 五数要約/箱ひげ図</p> <p>第10回 度数分布表の作成とヒストグラム 度数分布表/ヒストグラム</p> <p>第11回 散布図の作成と相関係数の算出① データの相関/散布図</p> <p>第12回 散布図の作成と相関係数の算出② ピアソンの相関係数/相関行列</p> <p>第13回 定性データの扱い方とクロス集計 定性データ/クロス集計表/ピボットグラフ</p> <p>第14回 データ・AI活用における留意事項 倫理・法的・社会的課題/データ倫理/セキュリティ</p> <p>第15回 総括 AI・データサイエンス・リテラシーの総括</p>	河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直
科目の目的	現代社会においては、ICTの進歩に伴い、大容量データの収集、蓄積と解析によって、様々な情報・知識を得ることが可能となった。ビックデータやAI、機械学習などを経て、様々な問題解決を行うデータサイエンスの基礎を学び、そのために必要なコンピュータの利用、統計学の知識、データ処理の手法を理解する。	
到達目標	データサイエンスに関する基礎的概念について理解し、コンピュータによってデータ解析が実践できる。 個別目標： ・データサイエンスについて基礎的概念を説明できる。 ・データサイエンスに必要なコンピュータの基本的操作が行える。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	基礎統計学, AI・ロボットと社会, AI・プログラミング入門	
成績評価方法・基準	授業中に提出する演習課題 (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 (90分) で理解し、授業を通して学んだことの事後学習 (45分)	
教科書	改訂新版 AI・データサイエンス・リテラシー入門, 吉岡剛志, 森倉悠介, 小林 領, 照屋健作 共著 2024	
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・データサイエンスの考え方, 小澤誠一, 齋藤政彦 編 オーム社 ・改訂新版 初めてのAIリテラシー, 岡嶋裕史, 吉田雅裕 著 技術評論社 	

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	MS-Excelをインストールしたパソコン(Windows, PCMac等)を持参してください.
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない
ナンバリング	PBg-102

講義科目名称： AI・ロボットと社会

授業コード： 5P041

英文科目名称： AI, Robots, and Society

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習（15回）	担当者
授業計画	<p>第1回 「AI・ロボットと社会」について 講義の目的を理解し、AI・ロボットが社会や医療に与える影響を考える</p> <p>第2回 人工知能(Artificial Intelligence: AI)の歴史と概要 AIの基本概念と歴史について学ぶ</p> <p>第3回 ロボットと社会 ロボットの定義と社会との関わりを理解する</p> <p>第4回 AIとロボットの歴史 ロボット研究とAIの関わりについて理解する</p> <p>第5回 AIの仕組み AIの仕組み、機械学習やニューラルネットワークの構造について学ぶ</p> <p>第6回 対話型ロボットとロボット社会 対話型ロボットと社会での役割を理解する</p> <p>第7回 アンドロイドとヒューマノイド アンドロイドやヒューマノイドの研究を通して人間について知る</p> <p>第8回 AI・ロボットの自律性 AI・ロボットと自律性について考える</p> <p>第9回 AI・ロボットの心・対話 AI・ロボットの心について考える</p> <p>第10回 AI・ロボットの身体 AI・ロボットの身体について考える</p> <p>第11回 人間と共生するAI・ロボット 人間と共生するAI・ロボットが構成する社会を考える</p> <p>第12回 AI・ロボットの意思決定アルゴリズム AI・ロボットの意思決定アルゴリズムについて知る</p> <p>第13回 アルゴリズムミック・バイアス 人間の認知バイアスとAIのアルゴリズムミック・バイアスについて知る</p> <p>第14回 医療・福祉・介護におけるAI・ロボットの活用 AI・ロボットの応用を社会適応を考える</p> <p>第15回 「AI・ロボットと社会」の未来 AI・ロボットが創造する近未来を考える</p>	星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平 星野 修平
科目の目的	人工知能(Artificial Intelligence: AI)は、現在自動運転技術やAIロボット、AIスピーカーなどで社会実装され、様々な分野で急速に発展・普及している。今後の日本における社会問題である人口減少、少子高齢化、人材不足などに対応するため、AIやAIロボットの需要はさらに高まると予想され、新たな産業構造変化でもAIの活用が期待される。この講義では、生活の中に組み込まれるAIに関する基本的知識を学び、AIロボットなどで利用されるAI技術と活用事例を通して、その意義について理解する。	
到達目標	・人工知能(Artificial Intelligence: AI)の基本的事項について説明できる。 ・AIロボットなどの社会実装に意義について説明できる。 ・AIと人間を対比させて、心と身体について理解する。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	心理学入門、コミュニケーション学入門、メディア・リテラシー、AI・データサイエンス・リテラシー、AI・プログラミング入門、多職種理解と医療コミュニケーション	
成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題（50%）・課題レポート（50%） *各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次の授業でまとめて行います。 *この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は15コマ（30時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり2時間（実時間数90分））が必要であり、事前学習（30分）・事後学習（30分）が目安となる。	
教科書	使用しない	
参考書	・ロボットと人間 人とは何か 石黒 浩 岩波新書 ・AIシステムと人・社会との関係 山口高平・中谷多哉子 放送大学教材 ・データ分析に必須の知識・考え方 認知バイアス入門 山田典一 ソシム	

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に実施する演習課題では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows または OS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	PBg-103

講義科目名称： AI・プログラミング入門

授業コード： 5P042

英文科目名称： Introduction to AI and Programming

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	演習 (15回)	担当者
授業計画	第1回 プログラミングの基礎 なぜプログラミングが注目されるのか？	星野 修平
	第2回 プログラミングとコンピュータの基礎 コンピュータの仕組みと構成	星野 修平
	第3回 プログラミングと世界 プログラミング言語とは	星野 修平
	第4回 プログラミングの世界 プログラミングを実行するための環境とGoogle Colaboratory	星野 修平
	第5回 Pythonの基礎① インタラクティブシェルとプロンプト	星野 修平
	第6回 Pythonの基礎② ファイルの作成と実行	星野 修平
	第7回 AIの基礎① AIの基本的概念	星野 修平
	第8回 AIの基礎② 機械学習	星野 修平
	第9回 Pythonの基礎③ 主要なシンタックス	星野 修平
	第10回 Pythonの基礎④ モジュールの使用	星野 修平
	第11回 AIのデータ データの可視化、基本的な値	星野 修平
	第12回 AIの仕組み① 予測・回帰	星野 修平
	第13回 AIの仕組み② 画像認識	星野 修平
	第14回 AIの仕組み③ 自然言語処理	星野 修平
	第15回 「AI・プログラミング」のまとめ この授業で学んだことの活用は？	星野 修平
科目の目的	近年、人工知能(Artificial Intelligence: AI)が、判別、分類など自律的に意思決定を行い様々な支援を行うことが可能となった。プログラミング技術が加わると、より高度な情報活用が可能となり、問題解決能力の向上やデータ分析スキルの向上、イノベーションの創出に繋がる。この講義では、AIの基本的な概念を概観し、AI活用のためのプログラミングの基本を学ぶ。プログラミング言語としては、Pythonを使用し、基本操作からデータ処理の応用を演習にて学ぶ。また、機械学習の基礎、自然言語処理、画像認識などを扱う。 なお、本講義では、コンピュータを用いたプログラミング環境として特別なPCを必要としない仮想化環境(Google Colaboratory)をWebアプリケーションで稼働させて、Pythonを用いた演習を試みる。	
到達目標	1 AIの基本的な概念を理解する 2 プログラミング言語(Python)の基本操作が行える 3 プログラミングによるデータ処理の応用を理解する	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	メディア・リテラシー、AI・データサイエンス・リテラシー、AI・ロボットと社会	
成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題(100%) *各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次の授業でまとめて行います。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は15コマ(30時間)の演習科目のため、30時間分の準備学習時間(1コマあたり2時間(実時間数90分))が必要であり、事前学習(45分)・事後学習(45分)が目安となる。	
教科書	使用しない	
参考書	1. やさしいAIプログラミング入門 日向 俊二 カットシステム (2024. 8. 10)	

	2. 考え方から学プログラミング講座 森畑 明昌 東京大学出版会 (2021. 10. 15) 3. Pythonによるプログラミング入門 森畑 明昌 東京大学出版会 (2019. 9. 10)
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業では、Google Colaboratoryをするため、インターネットに接続可能なPC (Windows またはOS X) を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	PBg-201

講義科目名称： スタディ・スキルズ

授業コード： 5P043

英文科目名称： Study Skills

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一	星野 修平	徳永 慎也	衣川 隆
	岩城 翔平	伊藤 栞	

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	第1回 スタディ・スキル① ・大学生になるということ ・大学で学ぶ意義と授業の受け方 ・スタディスキルとは？	峯村 優一
	第2回 スタディ・スキル② ・履修計画を立てる ・ノートを取る ・講義に参加する	星野 修平
	第3回 ライフスキル① ・学生生活の過ごし方 ・学生生活で求められる道徳や倫理・マナー	峯村 優一
	第4回 コミュニケーションスキル① ・対人コミュニケーション ・オンラインコミュニケーション ・SNSの活用と課題	伊藤 栞
	第5回 ライフスキル② ・キャリアデザイン キャリアサポートセンター GS：茂木洋子	岩城 翔平
	第6回 ライフスキル③ 特別講義：樋口 建介 群馬パース大学理事長 ・私の教育の原点 ・美しく・健やかに・元気で・昇天する ・パースの夢	衣川 隆
	第7回 コミュニケーションスキル② ・言語コミュニケーション ・異文化コミュニケーション	徳永 慎一
	第8回 スタディ・スキル③ ・大学生に求められる教養とは ・生涯にわたって学び続けること	星野 修平
*	授業ごとの課題提出について 各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。	
**	授業ごとのフィードバック・シートの提出について 各回の授業では、授業後のフィードバック・シートの提出を求めます。	
***	レポート課題について この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。	
科目の目的	社会人に出てから必要とされる教養は、幅広いジャンル、様々専門分野の多くの知識に触れることで多様な価値観や考え方を身につけ、学ぶ力（スタディ・スキル）を身につけることが重視される。大学4年間で社会が求める教養力を身につけるには「専門の知」から自身の成長とともに「深い問い」を自問し、自ら容易に答えの得られない「問い」を追い続けるための持続的な教養スキルが求められる。この授業では、大学生に求められる「スタディ・スキル」を獲得することを目的とする。 スタディ・スキルを①ライフ・スキル、②コミュニケーション・スキル、③スタディ・スキルの3つのパートとして捉え、関係するトピックを交え、オムニバス形式で授業展開を行う。また、学修活動には「自己学習力シート」を利用し、ルーブリックを活用した主体的な学びを目指す。	
到達目標	1. 社会の中で生きる意義について自ら考えることができる 2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。 3. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術を理解し、授業やレポート作成で実践できる。	
「ディプロマ・ポ	探求力と問題解決力	

リシー」キーワード	
関連科目	全ての授業科目
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題への取り組み 30% ・フィードバックシート、ワークシートなど学修内容の理解・修得度 40% ・レポート・学修目標の達成度 30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は7.5コマ（15時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり4時間（実時間数180分））が必要であり、事前学習（90分）・事後学習（90分）が目安となる。
教科書	使用しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のための社会人入門 柴岡新一郎 監著 技術評論社 ・スタディスキルズ・トレーニング 改訂版 吉原恵子 他 実教出版 ・大学生のためのキャリアガイドブック Ver.2 寿山 泰二 他 北大路出版
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	PCh-101

講義科目名称： アカデミック・スキルズ

授業コード： 5P044

英文科目名称： Academic Skills

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一	星野 修平	徳永 慎也	

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	第1回 リサーチ・リテラシー① ・リサーチスキルの意味 ・インターネットの利用とデータ収集 ・図書館を活用する (図書館 佐藤 駿介/細矢 芽)	星野 修平
	第2回 リサーチ・リテラシー② ・大学の理念、教育の理念 ・群馬パース大学の教育の理念を聞き、大学の学びを考える 特別講義：藤田 清貴 群馬パース大学学長	峯村 優一
	第3回 リサーチ・リテラシー③ ・データの見方、データの集計 ・論理的な表現 ・論証と検定	星野修平
	第4回 リサーチ・リテラシー④ ・学習に関する倫理 ・研究に関する倫理	峯村 優一
	第5回 アカデミック・リーディング① ・文書を読み、正確に理解する ・学術文書を読む際の心構えと注意点	峯村 優一
	第6回 アカデミック・リーディング② ・英語論文の読み方 ・レポート・論文に相応しい文章構造を考える	峯村 優一
	第7回 アカデミック・ライティング① ・レポートの書き方 ・レポートとは何か、レポート作成の手順、よいレポートとは	徳永 慎也
	第8回 アカデミック・ライティング② ・論文作法 ・講義レポートの形式 ・授業課題の提出 *授業ごとの課題提出について ・授業中の課題への取り組み 30% ・フィードバックシート、ワークシートなど学修内容の理解・修得度 40% ・レポート・学修目標の達成度 30% **授業ごとのフィードバック・シートの提出について 各回の授業では、授業後のフィードバック・シートの提出を求めます。 ***レポート課題について この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します	徳永 慎也
科目の目的	医療専門職になるためには、大学教育によって専門的な知識・技術を獲得する能力とその対象とされる人間を深く理解し、尊厳を尊重し、生きることへの深い執着と感動に共感できる人間力が重要である。高度な医療専門職になるために必要な生涯にわたって学び続けるための力（アカデミック・スキル）を身につけることを目的とする。 アカデミック・スキルを①アカデミック・リーディング、②アカデミック・ライティング、③リサーチ・リテラシーの3つのパートとして捉え、関係するトピックを交え、オムニバス形式で授業展開を行う。 また、学修活動には「自己学習力シート」を利用し、ルーブリックを活用した主体的な学びを目指す。	
到達目標	1. 大学での学ぶ意義と学習に必要な学習習慣・学習技術を理解し、授業やレポート作成で実践できる。 2. 学術の知と探求に意義を見出し、自ら学ぶ姿勢を持ち、多角的な視点での理解を深める。 3. 医療専門職の基盤となる学術に興味を持ち、クリティカル・リーディングの手法を身につける。	

「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力
関連科目	全ての授業科目
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の課題への取り組み 30% ・フィードバックシート、ワークシートなど学修内容の理解・修得度 40% ・レポート・学修目標の達成度 30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は7.5コマ（15時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり4時間（実時間数180分））が必要であり、事前学習（90分）・事後学習（90分）が目安となる。
教科書	使用しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 佐藤望 監著 慶應義塾大学出版会 ・ピア活動で身につけるアカデミック・スキル入門 伊藤奈賀子 有斐閣ブックス ・大学生のためのリサーチ・リテラシー入門 研究のための8つの力 山田剛史 ミネルヴァ書房
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	PCh-102

講義科目名称： 多職種理解と医療コミュニケーション

授業コード： 5P045

英文科目名称： Multidisciplinary Understanding and Medical Communication

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一	星野 修平	伊藤 栞	矢島 正栄
	佐藤 満	松下 誠	本田 佳子
授業形態	講義（13回）と演習（3回）		
担当者			
授業計画	<p>第1回 多職種で構成される専門職の理解 峯村 優一</p> <p>第2回 多職種連携とチーム・アプローチの基本構造 星野修平</p> <p>第3回 多職種連携を支える医療情報連携 星野 修平</p> <p>第4回 多職種連携・チーム医療を支える医療倫理 峯村 優一</p> <p>第5回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職① 医学と医師 星野修平</p> <p>第6回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職② 看護学と関連する専門職 矢島 正栄</p> <p>第7回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職③ リハビリテーション学と関連する専門職 佐藤 満</p> <p>第8回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職④ 医療技術学（臨床検査学・診療放射線学・臨床工学）と関連する専門職 松下 誠</p> <p>第9回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑤ 薬学と関連する専門職 星野修平</p> <p>第10回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑥ 栄養学と関連する専門職 本田 佳子</p> <p>第11回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑦ 教育学・社会福祉学と関連する専門職 星野修平</p> <p>第12回 多職種連携・チーム医療を構成する専門職⑧ 心理学と関連する専門職 伊藤 栞</p> <p>第13回 医療面接と医療コミュニケーション（演習） 伊藤 栞</p> <p>第14回 患者と患者家族、医療専門職の心理 伊藤 栞</p> <p>第15回 多職種連携とチーム医療の未来 峯村 優一</p> <p>*授業ごとの課題提出について 各回の授業では、授業の最後に提出課題があります。提出された課題についてのコメント等は、次回の授業でまとめて行います。</p> <p>**授業ごとのフィードバック・シートの提出について 各回の授業では、授業後のフィードバック・シートの提出を求めます。</p> <p>***レポート課題について この授業のレポート課題については、講義の中で解説します。また、提出されたレポート課題については、成績判定後に、その概要を全体総括として公表します。</p>		
科目の目的	<p>人間を取りまく保健・医療・福祉・介護のアプローチは、国家資格を基本とする高度医療専門職で構成する多職種連携チームで行われる。医療専門職は、職種を形成する法的根拠に基づき専門知識と技術を有し、その育成段階においては、広い他職種の相互理解から、より専門的なプロフェッショナルリズム教育を経て、専門的知識、技術を習得し、その成果として国家資格受験資格を獲得する。この科目では、多職種連携チームを構成する医療専門職の役割と特徴、プロフェッショナルリズム教育の目的と意義について学ぶ。また、コミュニケーションの基本である言語・非言語コミュニケーション、診療情報の伝達と共有による医療情報連携の基本や患者と医療専門職者間で行われる医療コミュニケーションの基本と技術を学ぶ。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 多職種で構成される医療専門職について法的根拠と責任について説明できる。 多職種で構成される医療について、その特徴と機能について説明できる。 医療コミュニケーションの特徴について説明できる。 		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	心理学入門、コミュニケーション学入門、各学科で開講される医療職連携科目		

成績評価方法・基準	授業内で実施する演習課題（50％）・課題レポート（50％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目は15コマ（30時間）の演習科目のため、30時間分の準備学習時間（1コマあたり2時間（実時間数90分））が必要であり、事前学習（45分）・事後学習（45分）が目安となる。
教科書	使用しない
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション論・多職種連携論 内山 靖・藤井浩美・立石雅子編 医歯薬出版2021 ・医療者のためのコミュニケーション入門 杉本なおみ 精神看護出版 ・医療コミュニケーション 実証研究への多目的アプローチ 医療コミュニケーション研究会 篠原出版新社
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業中に演習では、PCを使用しオンライン教材を利用するため、PC（Windows またはOS X）を持参してください。
アクティブ・ラーニングの実施	本科目では、学生の主体的な学習方法であるアクティブ・ラーニングを活用したオンライン教材等を使用します。
ナンバリング	PCh-103

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 解剖学の総論、骨・関節の総論 人体の領域と体腔；基準面；位置と方向を表す言葉；人体の階層性（支持組織、筋組織、神経組織、上皮組織）；皮膚の構造；骨の顕微構造；膜内骨化と軟骨内骨化；骨のリモデリング；骨の連結（不動結合と可動結合）；滑膜性連結の一般的構造；関節の分類</p> <p>第2回 体幹の骨と関節 脊柱の構成；椎骨の形態；胸郭の構成；肋骨と胸骨の形態</p> <p>第3回 体幹の筋 固有背筋と後頭下筋群の起始、走行、停止；斜角筋群の起始、走行、停止；肋間筋の起始、走行、停止；腹筋群の起始、走行、停止；腹直筋鞘、胸腰筋膜の構成</p> <p>第4回 神経系の総論、中枢神経系1（脊髄と脳幹） 神経組織（神経細胞と神経膠細胞）；体性神経と臓性神経；中枢神経系の領域（大脳、間脳、中脳、橋、延髄、脊髄）；神経系の発生；脊髄の構造；ベルマジャンディの法則；脳幹の構造</p> <p>第5回 中枢神経系2（小脳と大脳） 小脳の構成；大脳と間脳の構成；皮質の層構成（原皮質、古皮質、新皮質）；古皮質と嗅球；原皮質と海馬；新皮質の機能局在とブロードマン野；視床と視床下部</p> <p>第6回 中枢神経系3（大脳の構成） 一次運動野と一次体性感覚野の体部位局在；大脳髓質（連合線維、交連線維、投射線維）；大脳基底核と視床の位置；内包、外包の位置；錐体路</p> <p>第7回 上肢の骨と関節 上肢帯と自由上肢の構成；鎖骨と肩甲骨の形態；上腕骨、尺骨、橈骨、手部の骨の形態；上肢骨の連結</p> <p>第8回 上肢の近位筋 上肢の屈筋と伸筋の分類；上肢帯周囲の筋の起始、走行、停止；上腕の筋の起始、走行、停止</p> <p>第9回 上肢の遠位筋 前腕の筋の起始、走行、停止；手部の筋の起始、走行、停止</p> <p>第10回 上肢の末梢神経 腕神経叢の構成；腕神経叢の終枝の起始、走行、分布</p> <p>第11回 下肢の骨と関節 下肢帯と自由下肢の構成；寛骨の形態；大腿骨、脛骨、腓骨、足部の骨の形態；下肢骨の連結</p> <p>第12回 下肢の近位筋 下肢の屈筋と伸筋の分類；下肢帯周囲の筋の起始、走行、停止；骨盤底筋群の起始、走行、停止；会陰；大腿の筋の起始、走行、停止</p> <p>第13回 下肢の遠位筋 下腿の筋の起始、走行、停止；足部の筋の起始、走行、停止</p> <p>第14回 下肢の末梢神経 腰仙骨神経叢の構成；腰仙骨神経叢の終枝の起始、走行、分布</p> <p>第15回 まとめ 運動器解剖学で学修した内容を総括する。</p>	<p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p>
科目の目的	ヒトの運動器の肉眼解剖学的構造と、その運動と感覚を支配する神経系の構成を理解する。	
到達目標	<p>(1) 骨格筋の起始と停止について正しい選択肢を選択できる。</p> <p>(2) 四肢体幹骨の各部の名称について正しい選択肢を選択できる。</p> <p>(3) 四肢体幹骨が構成する関節を模式的に描ける。</p> <p>(4) 四肢体幹骨を走行する末梢神経を模式的に描ける。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	

関連科目	臓器解剖学；生理学Ⅰ；生理学Ⅱ；運動学；運動学演習
成績評価方法・基準	定期試験40%；小テスト40%；提出課題20%（小テストの点数は学生の理解度を把握するためのものであるから、各学生に対して個別にフィードバックは行わない）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各授業前の2時間の事前学修（予習）を必要とする。2単位の科目は90時間の学修時間が必要であり、その内の30時間分は授業に相当する（授業1コマは2時間と換算され計30時間分）。残りの60時間は授業外にて各自の学修時間で補うこと。1コマあたり2時間の授業外学修が必要となる。本科目では事前学習に重点を置く。初回授業は例外とし、講義にて指示した内容について次回授業までに2時間の予習を行うこと。
教科書	「日本人体解剖学 上巻」金子丑之助ほか（南山堂）
参考書	「イラスト解剖学」松村讓兒（中外医学社）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFi-101

講義科目名称： 臓器解剖学

授業コード： 5P047

英文科目名称： Anatomy of Internal Organs

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 中枢神経系1（臓性神経） 臓性神経と自律神経；交感神経と副交感神経；交感神経幹の位置；脳神経核の配置；脳神経の名称と分類（純運動性、純感覚性、混合性）；三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経と副神経の起始、走行、分布</p> <p>第2回 中枢神経2（眼の構造と脳神経） 眼と外眼筋の構造；視神経の起始、走行、分布；動眼神経、滑車神経、外転神経の起始走行分布</p> <p>第3回 中枢神経系3（耳の構造と脳神経） 外耳、中耳、内耳の構造；内耳神経の起始、走行、分布；嗅神経の起始、走行、分布</p> <p>第4回 呼吸循環器1（胸腔内臓器） 体循環と肺循環；胸腔と縦郭の構造；胸膜と心膜；肺の構造；心臓の外観と内部構造；冠状血管系；気道と呼吸部；喉頭と気管の構造；肺小葉</p> <p>第5回 呼吸循環器2（四肢体幹の脈管） 血管とリンパ管の一般的構造；四肢体幹の主要な血管；門脈；脳底の血管（ウィリスの動脈輪）；皮質枝と穿通枝、それらの分布域；静脈洞；脳室</p> <p>第6回 消化器 消化管の一般的構造；舌、咽頭、食道、胃、小腸、大腸の概要；肝臓と膵臓の概要</p> <p>第7回 泌尿生殖器 腎臓の概要；腎小体、腎単位、傍糸球体装置；膀胱の概要；会陰の構造（骨盤隔膜と尿生殖隔膜）</p> <p>第8回 まとめ 臓器解剖学で学修した内容を総括する。</p>	<p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p> <p>後藤 遼佑</p>
科目の目的	ヒトの内臓における肉眼解剖学的構造を理解する。	
到達目標	<p>(1) 内臓の基本的な構成について正しい選択肢を選択できる。</p> <p>(2) 脳神経の構成について正しい選択肢を選択できる。</p> <p>(3) 主要な脈管の走行を模式的に描ける。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学；生理学Ⅰ；生理学Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	本科目では、授業1コマあたり予習に2時間、事後学修に1時間半の学習を基本とする（1単位45時間の学修が必要とされ、そのうち授業時間に相当する16時間を除く残りの29時間を各自の学修において補う必要がある）。予習を中心とし、教科書の該当範囲の通読と授業内で指示した内容を各自で学習すること。	
教科書	「日本人体解剖学 下巻」金子丑之助ほか（南山堂）	
参考書	「イラスト解剖学」松村讓兒（中外医学者）	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	PFi-102	

講義科目名称： 解剖学演習

授業コード： 5P048

英文科目名称： Practice in Anatomy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑			

授業形態	講義 5回、実習 10回		担当者
授業計画	第1回	脳神経1：脳神経の概要と鯉弓 「臓器解剖学」で学習した脳神経に関する内容を補足する。	後藤 遼佑
	第2回	脳神経2：混合性脳神経 「臓器解剖学」で学習した脳神経のなかでも特に混合性脳神経に関する内容を補足する。	後藤 遼佑
	第3回	感覚小器官：嗅覚、視覚 視覚器の構造と機能；脳神経との関係	後藤 遼佑
	第4回	感覚小器官：聴覚、前庭感覚 耳の構造と機能；脳神経との関係	後藤 遼佑
	第5回	人体解剖見学実習1 人体解剖見学実習を行う。	後藤 遼佑
	第6回	人体解剖見学実習2 人体解剖見学実習を行う。	後藤 遼佑
	第7回	ブタ胎仔標本の観察：反対側の処置1 第7回から第14回では動物標本を用いて解剖実習を行う。なお、動物標本として2025年度の解剖学演習で使用したブタの胎仔標本を用いる。これらの標本はすでに頸部浅層が剖出されており、2026年度はその続きから剖出を始める。第7回と第8回では、すでに解剖された側の反対側とは剖出を進め、標本の両側が解剖された状態にする。	後藤 遼佑
	第8回	ブタ胎仔標本の観察：反対側の処置2 すでに解剖された側とは反対側の剖出を進め、標本の両側が解剖された状態にする。	後藤 遼佑
	第9回	ブタ胎仔標本の観察：胸筋の解剖1 腕神経叢を腹側から観察できるようにするために、深胸筋と浅胸筋、鎖骨下筋の起始を性中から離断する。	後藤 遼佑
	第10回	ブタ胎仔標本の観察：胸筋の解剖2 腕神経叢を腹側から観察できるようにするために、深胸筋と浅胸筋、鎖骨下筋の起始を性中から離断する。	後藤 遼佑
	第11回	ブタ胎仔標本の観察：腕神経叢を腹側から観察1 腕神経叢の枝を剖出し、筋と神経の対応関係を明らかにする。	後藤 遼佑
	第12回	ブタ胎仔標本の観察：腕神経叢を腹側から観察2 腕神経叢の枝を剖出し、筋と神経の対応関係を明らかにする。	後藤 遼佑
	第13回	ブタ胎仔標本の観察：腕神経叢の記録1 露出した腕神経叢を腹側から観察し、神経の起始、走行、分布、特に筋との関係に注目しながら観察し、スケッチに記録する。	後藤 遼佑
	第14回	ブタ胎仔標本の観察：腕神経叢の記録2 露出した腕神経叢を腹側から観察し、神経の起始、走行、分布、特に筋との関係に注目しながら観察し、スケッチに記録する。	後藤 遼佑
	第15回	総括 解剖学演習で学修した内容を総括する。	後藤 遼佑
科目の目的	人体解剖見学実習とブタ胎児標本の肉眼解剖を通して、講義で習得した知識を統合し、人体構造を三次元的に正確に理解する。		
到達目標	(1) ヒトの腕神経叢の構造について正しい選択肢を選択できる。 (2) ヒトの四肢体幹の末梢神経の起始、走行、分布について正しい選択肢を選択できる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学		
成績評価方法・基準	定期試験60%；提出課題40%		

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	1単位の科目は45時間の学修時間が必要であり、その内の30時間分は授業に相当する（授業1コマは2時間と換算され計30時間分）。残りの15時間は授業外にて各自の学修時間で補う必要がある（1コマあたり1時間の授業外学習）。 2コマ連続講義なので、2時間をかけて授業で観察した神経の該当箇所について教科書を通読すること。特にそれらの神経の起始、走行、分布を理解すること。
教科書	「日本人体解剖学 上巻」金子丑之助ほか（南山堂） 「日本人体解剖学 下巻」金子丑之助ほか（南山堂）
参考書	該当なし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFi-201

講義科目名称： 表面解剖学と触診法

授業コード： 5P049

英文科目名称： Surface Anatomy and Palpation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美	黒川 望		

授業形態	小人数グループによる実技演習<演習15回>		担当者
授業計画	第1回	演習：触診の準備<解剖学の知識を復習> 骨標本（全身）を用いての演習<骨、骨部位の名称と特徴の確認.> 「骨・骨部位（主に筋の付着部・骨指標となる部位）の名称を指し示して言うことができる」 「頭蓋骨から足部まで左右を区別して骨を並べることができる」	浅田 春美・黒川望
	第2回	演習：触診講義の学習の仕方/触診手技の練習 骨標本（全身）を用いての演習<骨、骨部位の名称と特徴の確認.>	浅田 春美・黒川望
	第3回	演習：触診手技の練習 体表面から触診する場合の骨、関節、筋、靭帯の触れ方（ポイント）の練習	浅田 春美・黒川望
	第4回	演習：触診手技の練習 骨標本（全身）を用いての演習<骨、骨部位の名称と特徴の確認.>	浅田 春美・黒川望
	第5回	演習：各論 上肢<肩甲帯・上腕> / 下肢<骨盤・股関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第6回	演習：各論 上肢<肩甲帯・上腕> / 下肢<骨盤・股関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第7回	演習：上肢<上腕・前腕・手関節> / 下肢<膝関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第8回	演習：上肢<前腕・手関節・手指> / 下肢<足関節・足> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第9回	演習：上肢・下肢実技の確認 前半のまとめ / 中間筆記試験 前半範囲の筆記試験と実技確認 中間筆記テスト（前半範囲）→2週間以内にF B（全体）	浅田 春美・黒川望
	第10回	演習：各論 上肢<肩甲帯・上腕> / 下肢<骨盤・股関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第11回	演習：各論 上肢<肩甲帯・上腕> / 下肢<骨盤・股関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第12回	演習：上肢<上腕・前腕・手関節> / 下肢<膝関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第13回	演習：上肢<前腕・手関節・手指> / 下肢<足関節・足> 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第14回	演習：実技まとめおよび復習（上肢・下肢の総復習） 主に骨・関節・軟部組織の触診	浅田 春美・黒川望
	第15回	実技試験（全範囲） 全範囲（上肢・下肢）の骨・関節・靭帯について触診の実技確認 実技確認終了後、個別でフィードバックを実施。60%未満の場合、補習を行った後、再度、実技確認を行う。	浅田 春美・黒川望

科目の目的	1. 解剖学の知識を基に手指を用いて、皮下にある組織の形・大きさ・硬さ・位置・固有の運動性などを識別する技術を習得する。 2. 運動学, 理学療法診断学と並行して授業が進むため, 運動器の構造と機能の関連をより深く理解し, 検査・測定技術の基礎固めを目的とする。
到達目標	1. 骨の輪郭や部位, 関節裂隙, 靭帯, 筋, 腱, 動脈を触知により区別できる (対学生) . 2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる. 3. これらの名称 (筋については, 起始・停止・作用) を述べることができる. 4. 実技では, 最も触知しやすい肢位や運動を相手に分かりやすい言葉で指示し, 触診できる.
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	運動器解剖学, 運動学, 臨床運動学, 運動学演習, 整形外科学, 理学療法診断学, 基礎理学療法診断学演習, 運動機能系理学療法診断学演習など専門科目全般
成績評価方法・基準	筆記定期試験 (50%) ・実技授業内試験 (50%) それぞれ60%以上の正解率
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・事前課題学習: 「解剖学アトラス」を参考に骨部位の名称・筋の起始停止について調べる ・筋の「起始・停止・作用」は, 教科書「運動療法のための機能解剖学的触診技術」において予習・復習しておく ・配布資料の実施予定日の内容を確認し, 該当する教科書のページを予習・復習とも読んでおく ・講義終了後, 学生同士で実技練習を行い, 不明な点を積極的に教員に質問する (直後または次回講義開始時) <予習・復習に1時間/1コマ程度要する>
教科書	1. 林典雄著: 「運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス上肢」改定第2版, メジカルビュー社, 2022 2. 林典雄著: 「運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス下肢」改定第2版, メジカルビュー社, 2022 3. 相磯貞和 訳: 「ネッター解剖学アトラス」第7版, 南江堂, 2022
参考書	1. 竹井仁著: 触診機能解剖カラーアトラス上下, 文光堂, 2008
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	実技演習を行うため, 準備をしていない場合, 履修できないことがある <指輪, 時計など不必要なものを外し, 手や手指のケアを心がける (爪・傷など) > <直接, 皮膚に触れるため可能な限り脱衣しやすく, 動きやすい服装を準備する。Tシャツ, ハーフパンツ>
アクティブ・ラーニングの実施	実技演習 (グループワーク: 体験学習)
ナンバリング	PFi-103

講義科目名称： 生理学 I

授業コード： 5P050

英文科目名称： Physiology I

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p>	<p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な専門知識と基本的技術を身につける。	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に課題を行う(解答・解説はAAにて行う) 課題の平均点×0.2(20%)＋期末テストの点数×0.8(80%) で最終的な成績を決定する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および課題や期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約4時間)	
教科書	「シンプル生理学 第8版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂)	
参考書	「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	PFi-104	

講義科目名称： 生理学Ⅱ

授業コード： 5P051

英文科目名称： Physiology II

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>第2回 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>第3・4回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>第5回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>第6回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>第7回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>第8回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>	<p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p> <p>洞口 貴弘</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な専門知識と基本的技術を身につける。	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に課題を行う(解答・解説はAAにて行う) 課題の平均点×0.2(20%)＋期末テストの点数×0.8(80%) で最終的な成績を決定する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および課題や期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約4時間)	
教科書	「シンプル生理学 第8版」 貴邑富久子、根木英雄 (南江堂)	
参考書	「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	8コマ講義なので、3回の欠席で履修放棄となるので注意	
アクティブ・ラーニングの実施	実施しない	
ナンバリング	PFi-105	

講義科目名称： 生理学演習

授業コード： 5P052

英文科目名称： Practice in Physiology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
洞口 貴弘	林 翔太		

授業形態	演習 (15回)		担当者
授業計画	第1-2回	心電図 標準肢誘導により心電図を記録し、心臓の活動電位について理解するとともに、電気生理学機器について習熟する	洞口 貴弘・林翔太
	第3-4回	表面筋電図 荷重負荷時の筋電図を記録し、筋の収縮メカニズムについて理解するとともに、電気生理学機器について習熟する	洞口 貴弘・林翔太
	第5回	ストレス反応 ストレス負荷をかけた際の生体反応を計測し、その発生メカニズムを理解する	洞口 貴弘・林翔太
	第6-7回	記録電極と刺激電極の極性の違いによる活動電位の向きと神経の興奮性 尺骨神経を刺激して誘発される筋電図を用い、刺激電極と記録電極の極性を変えることで、刺激により得られる波形にどのような違いが生じるかを理解するとともに、刺激装置について習熟する	洞口 貴弘・林翔太
	第8-9回	尺骨神経の運動神経伝導速度 尺骨神経を2箇所刺激して誘発される2種類の筋電図を用い、神経の伝導速度およびその測定メカニズムを理解する	洞口 貴弘・林翔太
	第10-11回	神経の興奮と伝導 カエル神経標本を作製・刺激し、神経の興奮とその伝導メカニズムを理解する	洞口 貴弘・林翔太
	第12-13回	骨格筋の収縮 カエル神経筋標本を作成・刺激し、骨格筋の収縮メカニズムを理解する	洞口 貴弘・林翔太
	第14-15回	誘発筋電図 ヒト脛骨神経を刺激して下腿三頭筋の筋電図を誘発し、中枢および末梢神経系と筋を理解する	洞口 貴弘・林翔太
科目の目的	生理学の講義で学習した人体の機能について実際に確認し、理解を深める。		
到達目標	種々の生理学機能測定器具を用い、人体の機能に関するデータの収集し、判読できるようになる 生理学の講義で得られた知識をもとに、判読した結果のメカニズムを類推することができるようになる 得られたデータを他者に分かりやすく報告することができるようになる		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	生理学 I・II、運動器解剖学、臓器解剖学		
成績評価方法・基準	期末テスト65%、レポート35%(実習内でフィードバックする) で最終成績を算出する		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	既に履修済みである、生理学I、IIの復習(2時間)		
教科書	なし		
参考書	「シンプル生理学」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 他		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	行われる内容を理解するために、実習書には1年次に学んだ生理学の内容を問う課題が記載されている。 また実習書には、行われた実習において、なぜそのような結果になったのかを理解するための課題が記載されている。 それらの量は、決して少なくなく、さらに、期末試験ではそれらの正解が理解できていたら解ける問題が出題される。 そのため、あらかじめ実習書に目を通し、課題を遂行することが、単位取得のカギとなる。計15コマの演習であるが、1回で2コマ連続の演習となるため、計2回を超えて休んだ場合、履修放棄となる。		

アクティブ・ラーニングの実施	実施しない
ナンバリング	PFi-202

講義科目名称： 生化学

授業コード： 5P053

英文科目名称： Biochemistry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
木村 鮎子			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 生化学を学ぶための基礎 生化学を学ぶための基礎知識と各種生体構成成分の概要</p> <p>第2回 糖質 1 糖質の構造と分類(単糖, 二糖, 多糖), 糖代謝の概要</p> <p>第3回 糖質 2 各種糖代謝経路 (解糖系, TCA回路, 糖新生, グリコーゲンの合成と分解など), 糖代謝異常</p> <p>第4回 脂質 脂質の構造(中性脂肪, 脂肪酸, コレステロール, リン脂質, リポタンパク質), 脂質代謝 (脂肪酸の生合成とβ酸化, コレステロールの合成・輸送・蓄積), 脂質代謝異常</p> <p>第5回 タンパク質とアミノ酸 各アミノ酸の性質とタンパク質の機能, アミノ酸代謝, 脂質代謝異常</p> <p>第6回 核酸 核酸の構造, 遺伝子の働きと変異, 核酸の代謝, 核酸代謝異常</p> <p>第7回 ホルモン 各種ホルモンの構造と分泌器官, ホルモンによる生体調節機構と疾患との関係</p> <p>第8回 ビタミン, ミネラル ビタミンの構造・性質と生理機能 (補酵素, 遺伝子発現調節など), およびビタミン欠乏症, ミネラルの分類 (多量・微量ミネラル)と生理機能</p>	<p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p> <p>木村 鮎子</p>
科目の目的	生体物質の構造, 機能とその代謝を学び, 病態に対する生化学の基礎知識を習得する.	
到達目標	<p>1. 糖質とその代謝, 脂質とその代謝, タンパク質とその分解, アミノ酸代謝, 核酸とその代謝, 生体エネルギーについて, 生合成や代謝の過程が理解できること.</p> <p>2. 生体内でのビタミン, ホルモン, ミネラルの役割が理解できること.</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	基礎化学, 基礎生物学, 生理学I・II, 薬理学	
成績評価方法・基準	定期試験 (100%) により評価する.	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容が理解できるよう, 講義前後に4時間程度, 予習と復習を行う.	
教科書	指定する教科書は無い。講義ごとに資料を適宜配布する。	
参考書	<p>栄養科学シリーズ NEXT 生化学 (講談社) 加藤 秀夫・中坊 幸弘 編</p> <p>栄養科学イラストレイテッド生化学 改定第3版 (羊土社) 藪田 勝 編</p>	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施	なし	
ナンバリング	PFi-106	

講義科目名称： 運動学

授業コード： 5P054

英文科目名称： Kinesiology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
後藤 遼佑			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 総論 1：身体運動を学ぶ心構え 身体運動の機能—構造主義；基本肢位；運動と基本面；基本面上の回転運動と名称；運動軸と運動自由度；分節による連鎖の特徴；滑膜関節の構造；関節包内運動；主動筋と拮抗筋；筋の収縮様式；最大張力と筋断面積	後藤 遼佑
	第2回 総論 2：生体力学の基礎 並進運動と回転運動；ニュートンの運動法則；支持基底面、重力、バランス；力のモーメント；テコの原理と人体のテコ；回転運動と偶力	後藤 遼佑
	第3回 足関節と足 1：関節の構造とその運動 下肢における足部・足関節の役割；足部の関節と足関節の構造と運動；足のアーチ；足底腱膜、バネ靭帯、長足底靭帯；足のバラ反応	後藤 遼佑
	第4回 足関節と足 2：筋の働きと足の進化 外来筋と内在筋；足関節に対する外来筋の作用；腓腹筋とヒラメ筋；ヒトの足、類人猿の足、サルの足	後藤 遼佑
	第5回 膝関節 1：関節の構造とその運動 下肢における膝関節の役割；膝関節の構造と運動；終末回旋運動；脛骨に対する大腿骨の転がりと滑り運動；屈曲伸展軸の変位；膝関節の伸展保持メカニズム	後藤 遼佑
	第6回 膝関節 2：筋の働きと膝の進化 大腿四頭筋とハムストリングス；Qアングル；膝蓋骨の動き；膝関節屈曲位における下腿の回旋；ヒトの膝、類人猿の膝、サルの膝	後藤 遼佑
	第7回 骨盤と股関節：関節の構造とその運動 下肢における股関節の役割；ミクリッツ線；股関節の構造と運動；腸骨大腿靭帯、恥骨大腿靭帯、坐骨大腿靭帯；股関節と骨盤の動き；仙腸関節；ヒトの骨盤、類人猿の骨盤、サルの骨盤	後藤 遼佑
	第8回 肩甲帯・肩 1：関節の構造とその運動 肩甲帯と肩の構造；滑膜性関節と機能的関節；肩複合体の中での各関節の役割	後藤 遼佑
	第9回 肩甲帯・肩 2：筋の機能と肩の進化 各筋の基本的役割と肩複合体での機能（回旋筋腱板、偶力）；肩甲上腕リズム；日常生活での肩の役割；ヒトの肩、類人猿の肩、サルの肩	後藤 遼佑
	第10回 肘・前腕：関節の構造とその運動、肘の進化 肘関節・橈尺関節を構成する各関節の構造と運動；運搬角；肘と前腕に働く筋；屈筋群間、伸筋群間の役割の違い；二関節筋の役割；ヒトの肘、類人猿の肘、サルの肘	後藤 遼佑
	第11回 手関節・手 1：関節の構造とその運動 手関節の構造と動き；手根管の構造；手の構造と運動；手掌腱膜の役割；腱鞘；手のアーチ	後藤 遼佑
	第12回 手関節・手 2：筋の働きと手の進化 手の筋（外来筋・手内筋）；指背腱膜と指の伸展運動；母指対立運動のメカニズム；ユニットとしての手；ヒトの手、類人猿の手、サルの手	後藤 遼佑
	第13回 脊柱 1：関節の構造とその運動 脊椎の構造と機能；関節円板の形態と役割；椎骨の関節形態と運動の関係；脊柱起立筋と短背筋群	後藤 遼佑
	第14回 脊柱 2：呼吸運動、脊柱の進化 呼吸運動；肩甲帯の安定化；上肢とのつながり；腹筋群の働き；ヒトの脊柱と胸郭、類人猿の脊柱と胸郭；サルの脊柱と胸郭	後藤 遼佑
	第15回 総括 運動学で学修した内容を総括する。	

科目の目的	身体運動を構造－機能の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、日常的に成されている身体の動きや動作について理解を深め、医療専門職としての確かな臨床能力を培う一助とする。
到達目標	身体に存在する関節について、構造－機能の視点から分析と説明ができること。そのための行為目標を以下に示す。 1. 関節の一般構造、運動の原則、生体力学の基礎を専門用語を用いて説明する。 2. 身体の各関節について機能解剖学の専門用語を用いて構造と機能を説明する。 3. 開放性運動連鎖としてヒト固有の自由度を持つ上肢の構造と機能について説明する。 4. 直立姿勢を保持する荷重関節としての下肢メカニズムを説明する。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	運動器解剖学；臓器解剖学；解剖学演習；生理学Ⅰ・Ⅱ；生理学演習；運動学演習；日常生活活動学
成績評価方法・基準	授業で取り上げる運動の基本的知識及び各論で取り上げる関節ごとの構造と機能の理解ができているかを測る定期試験を行う。100点満点で60点以上を合格とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	応用科学である運動学は、既に運動器解剖学で学習した四肢体幹の基本知識を用いて関節運動の成り立ちや役割を説明する。基本知識には関節を構成する骨、関節の種類、運動の種類、関節を制御する筋等があるが、それらは準備学習で確認しておくこと。学習時間は、2単位・30時間の科目のため1回の授業にあたり180分程度とする。
教科書	教科書は指定しない。授業ごとに資料を配布する。
参考書	「筋骨格系のキネシオロジー」D. A. Neumann（医歯薬出版） 「カバンジー機能解剖学」A. I. Kapandji（医歯薬出版） 「標準理学療法学・作業療法学 運動学 第1版」高橋正明編（医学書院）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	解剖学で学んだ専門用語の知識は知っているものとして授業を進めるため、それらを教科書で確認しておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	実施せず。
ナンバリング	PFi-107

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美			

授業形態	講義 (8コマ) ・ 演習 (7コマ)	担当者
授業計画	第1回 講義：運動の階層性 随意運動が起こるまでの脳における感覚情報の伝達経路について（中枢神経の働き） 階層性：姿勢、運動、動作、行為（姿勢の定義）	浅田 春美
	第2回 講義：姿勢と動作（基本動作） 基本動作の種類：基本姿勢・基本動作観察時のチェックポイント	浅田 春美
	第3回 講義：運動分析・動作分析の必要性 / 小テスト1 理学療法における運動・動作の観察から分析 小テスト (1,2回の内容) →採点后、次回、講義内にて返却, フィードバック	浅田 春美
	第4回 演習：動作理解のための力学的基礎 生体力学について：力のつり合い、テコの原理（テコの種類、力のモーメント）	浅田 春美
	第5回 講義：正常基本動作時の回転運動 / 正常基本動作の分析<立ち上がり動作①> 小テスト2 立ち上がり動作を相に分け、力学的に説明できる 小テスト2 (3,4回の内容) →採点后、次回講義内にて返却, フィードバック	浅田 春美
	第6回 演習：正常基本動作の分析<立ち上がり動作②> 立ち上がり一すわる動作を相に分け、力学的に説明できる 立ち上がりができる条件から動作障がい（立ち上がり困難）の原因を推察	浅田 春美
	第7回 演習：正常基本動作の分析<起き上がり動作①> 真っ直ぐ起き上がる動作を相に分け、力学的に説明できる	浅田 春美
	第8回 演習：正常基本動作の分析<起き上がり動作②> 回旋を伴う起き上がり動作を相に分け、力学的に説明できる 起き上がりができる条件から動作障がい（起き上がり困難）の原因を推察	浅田 春美
	第9回 演習：正常基本動作の分析<寝返り動作> 起き上がり動作と寝返り動作を比較してみる / 動作分析課題提示	浅田 春美
	第10回 講義：正常歩行動作1 歩行の定義/歩行周期/歩行の決定要因	浅田 春美
	第11回 講義：正常歩行動作2 歩行周期と筋活動/	浅田 春美
	第12回 講義：正常歩行動作3 歩行動作をエネルギー効率の視点で説明できる 異常歩行の種類	浅田 春美
	第13回 演習：疾患別動作障がい② <整形疾患> 整形疾患（膝・股関節疾患など）の動作障がいの特徴	浅田 春美
	第14回 演習：疾患別動作障がい③ <片麻痺> 片麻痺の動作障がいの特徴（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）	浅田 春美
	第15回 講義：疾患別動作障がい③ <その他> 脊髄損傷、パーキンソン病、筋ジストロフィーなど 代表的な症例の動画を視聴し、動作を観察し記述する	浅田 春美
科目の目的	重力下で行う日常の基本動作の分析に必要な力学を修得する。人及びその関節の運動は回転運動が中心であること、回転力（力のモーメント）の求め方、てこの役割、重心の水平方向への移動、関節運動や姿勢時のバランス保持のメカニズム等について学習する。正常な直立二足歩行の運動学・運動力学的分析、単純な原因による動作障害の動画を見て力学的に説明ができるようになることを目的とする。また、正常動作の寝返り、起き上がり、立ち上がり動作について「できるための条件・メカニズム」を理解することで、動作障害の原因を推察できるようになる。	
到達目標	1. 健康人の基本動作の種類を説明できる 2. 回転モーメント、テコなどの復習から人体へ応用する 3. 正常基本動作（立ち上がり、起き上がりなど）を相に分け、力学的に説明できる 4. 正常歩行の歩行周期と筋活動・エネルギー効率の視点で説明できる 5. 代表的な症例（整形疾患・片麻痺など）の動作障がいの特徴を症例動画より観察し、記述できる	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	

関連科目	基礎物理学, 物理学, 運動器解剖学, 解剖学演習, 運動学, 運動学演習, 人間発達学, 整形外科学, 神経内科学, 基礎運動療法, 理学療法診断学, 基礎理学療法診断学演習, 運動機能系理学療法治療学演習, 神経機能系理学療法治療学, 義肢装具学, 日常生活活動学, 高齢者理学療法学演習, 生活環境学, 評価学実習, 地域理学療法実習, 総合臨床実習Ⅰ, 総合臨床実習Ⅱ
成績評価方法・基準	課題提出30%＜立ち上がり動作, 起き上がり動作＞ 筆記試験（小テスト2回：20%, 定期試験50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	＜予習＞運動学で学んだ基本的な力学, てこ, 力のモーメント, ベクトルについて復習しておくこと. ＜復習＞正常基本動作では, 基本事項や動作分析を力学的に記述できるようになるための復習が必要. 1コマあたり4時間の予習・復習。
教科書	1. 石井慎一郎編著：動作分析臨床活用講座-バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践, MEDICAL VIEW, 2022 2. 医療情報科学研究所編：病気が見えるVol. 7 脳・神経 第2版, MEDIC MEDIA, 2020
参考書	1. 石川朗編：15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト「臨床動作分析」, 中山書店, 2020 2. 伊藤元他：標準理学療法学・作業療法学専門 基礎分野「運動学」, 医学書院, 2015
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習（基本動作実技）、問題解決学習、グループワーク
ナンバリング	PFi-203

講義科目名称： 運動学演習

授業コード： 5P0560

英文科目名称： Practice in Kinesiology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富田 浩	岡崎 大資	後藤 遼佑	青木 章乃
	高橋 正明		

授業形態	講義 (9回) , 演習 (6回) 前半9回は、関節運動学 (上肢) , および、歩行に関する講義を行います。 後半6回は、クラスを3グループに分け、各週2コマずつ3週間にわたって演習を行います。			担当者
授業計画	第1回	上肢の運動機能 (肩関節)		高橋
	第2回	上肢の運動機能 (肩関節)		高橋
	第3回	上肢の運動機能 (肩関節)		高橋
	第4回	上肢の運動機能 (肘関節)		高橋
	第5回	上肢の運動機能 (肘関節)		高橋
	第6回	上肢の運動機能 (手関節・手指)		高橋
	第7回	上肢の運動機能 (手関節・手指)		高橋
	第8回	歩行の運動学的基礎		後藤
	第9回	歩行の運動学的基礎		後藤
	第10回	演習： (1) 筋収縮様式と筋力 (2) 筋電図を用いた動作分析 (3) 歩行分析 「 (3) 歩行分析のみ」 Well-B Lab (前橋) で実施する。		富田, 岡崎, 後藤, 青木
	第11回	演習： (1) 筋収縮様式と筋力 (2) 筋電図を用いた動作分析 (3) 歩行分析		富田, 岡崎, 後藤, 青木
	第12回	演習： (1) 筋収縮様式と筋力 (2) 筋電図を用いた動作分析 (3) 歩行分析		富田, 岡崎, 後藤, 青木
	第13回	演習： (1) 筋収縮様式と筋力 (2) 筋電図を用いた動作分析 (3) 歩行分析		富田, 岡崎, 後藤, 青木
	第14回	演習： (1) 筋収縮様式と筋力 (2) 筋電図を用いた動作分析 (3) 歩行分析		富田, 岡崎, 後藤, 青木
	第15回	演習： (1) 筋収縮様式と筋力 (2) 筋電図を用いた動作分析 (3) 歩行分析		富田, 岡崎, 後藤, 青木
科目の目的	1. レポートを作成するために必要な単位や数値のまとめ方、レポートの構成や体裁などを学び、身体動作を運動としてとらえる視点と定量的にとらえるということを学ぶ。 2. 身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアラインメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。 3. 運動や動作を解析する各種手法についてグループで演習を行い、運動学における分析法を修得する。			
到達目標	1. 人の運動・動作を分析し、運動学的用語を用いた記述ができる。 2. 運動学的分析方法を習得し得られた結果より臨床的意義について理解する。 3. 実習内容を客観的に記述したレポート作成できる。			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術			
関連科目	運動学、臨床運動学、運動器解剖学、臓器解剖学、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ			
成績評価方法・基準	演習レポート (50%、定期試験 (50%))			

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	予習：各授業内容に関して、運動学で学んだ内容の復習、演習書を熟読し内容を理解したうえで各授業に臨んでください。 復習：レポート作成とあわせて、再度、教科書・演習書を確認する、必要に応じ関連文献を参照し、演習内容についての理解を深める。 各授業に対し、予習と復習を含め60分以上の自己学習必要とする。
教科書	適宜、資料を配布する。
参考書	準備学習：運動学で学んだ内容の復習と実習の手引き、実習書を熟読のうえ各実習単元にて行う内容を理解した状態で授業に臨むこと。
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	運動学・解剖学・生理学等で学んだ知識をリンクさせ各計測・分析を実施するため、基礎知識の予習が必要です。 授業前に演習書を熟読し、スムーズに演習を行えるように準備をしてください。 演習を中心とした授業であるため、自ら学ぼうとする態度で受講してください。
アクティブ・ラーニングの実施	各演習課題を学生で実施し、レポートにまとめる。
ナンバリング	PFi-204

講義科目名称： 人間発達学

授業コード： 5P057

英文科目名称： Human Development

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
橋口 優	吉岡 和哉		

授業形態	講義・演習 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 人間発達学概論 (講義) 発達に関する用語や概念を学習する 発達の概念を事例で考える</p> <p>第2回 マイルストーンと運動発達理論 (講義) 運動発達に関わる理論について学習する 発達の現象学と機能学について解説する</p> <p>第3回 正常運動発達について1 (講義・演習) 背臥位と腹臥位・ずり這いと四つ這い・座位と起き上がりの正常運動発達を体験学習する</p> <p>第4回 正常運動発達について2 (講義・演習) 立ち上がり・つたい歩き・歩行の正常運動発達を体験学習する</p> <p>第5回 原始反射・姿勢反応について1 (講義・演習) 原始反射・姿勢反応の目的と誘発手技について講義を中心に学習する</p> <p>第6回 原始反射・姿勢反応について2 (講義・演習) 原始反射・姿勢反応の目的と誘発手技について講義を中心に学習する</p> <p>第7回 原始反射・姿勢反応について3 (演習) 原始反射・姿勢反応の誘発手技を演習を通して学習する</p> <p>第8回 原始反射・姿勢反応について4 (演習) 原始反射・姿勢反応の誘発手技を演習を通して学習する</p> <p>第9回 上肢機能の発達について (講義) 物の操作などの巧緻動作の発達について学習する</p> <p>第10回 認知機能の発達について (講義) 認知機能・心理機能の発達について学習する</p> <p>第11回 視覚機能の発達について (講義) 運動機能に関わる視覚機能の発達について学習する</p> <p>第12回 内部機能の発達について (講義) 呼吸・循環・代謝機能の発達について学習する</p> <p>第13回 口腔機能の発達について (講義) 摂食・嚥下機能の発達について学習する</p> <p>第14回 運動発達と運動遊びについて1 (演習) 運動発達に関わる運動遊びの企画と支援について演習を通して学習する</p> <p>第15回 運動発達と運動遊びについて2 (演習) 運動発達に関わる運動遊びの企画と支援について演習を通して学習する 理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する 運動発達に関わる運動遊びの企画と支援について演習を通して学習する</p>	<p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優・吉岡 和哉</p> <p>橋口 優・吉岡 和哉</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p> <p>橋口 優</p>
科目の目的	理学療法に発達の知識を利用できることを知る。	
到達目標	定型発達の現象を説明でき、かつ模倣ができる 姿勢反射・反応の神経学的意義、臨床的意義を説明でき、姿勢反射検査ができる	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	基礎となる科目・・・運動学 将来繋がる科目・・・発達支援理学療法学・小児科学・臨床神経学Ⅰ (神経内科学)	
成績評価方法・基準	定期試験80%、実技試験20% ※定期試験は100点満点で実施するが、80点満点に換算する。実技試験は20点満点にて実施する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する (各回45分程度) 各回の内容と演習を復習する (各回45分程度)	
教科書	教科書1 イラストでわかる人間発達学	
参考書	特になし	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	演習をともなうため、動きやすい服装にて受講すること
アクティブ・ラーニングの実施	運動発達、原始反射・姿勢反応について、演習による体験を通して知識の整理を行う。
ナンバリング	PFi-205

講義科目名称： 生涯発達心理学

授業コード： 5P058

英文科目名称： Life-Span Developmental Psychology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
北 義子			

授業形態	講義 (15回) 毎回の授業の最後に授業の「まとめ」を提出する。		担当者
授業計画	第1回	ヒトとは 直立二足歩行の意義・二足歩行からもたらされたヒト特有の疾患・ヒトの6大特徴	北 義子
	第2回	生涯発達 発達の定義・人の生涯に影響を与える3つの要因・2025年問題・平均寿命と健康寿命の差・人間発達期の区分・成長・発達・成熟・発育の原則	北 義子
	第3回	胎芽・胎児期 受精卵期・胎芽期・胎児期	北 義子
	第4回	乳児期 ピアジェの認知構造・乳児実験における観察法・エリクソンのライフサイクル・コミュニケーションの発達段階・アタッチメント	北 義子
	第5回	幼児期前期 粗大運動の発達・微細運動の発達・社会性・言語の発達・エリクソンの発達図式・児童虐待	北 義子
	第6回	幼児期後期 粗大運動の発達・微細運動の発達・自己中心性・こころの理論・社会的遊びの発達の分類	北 義子
	第7回	学童期 勤勉性と劣等感・脱中心化・向社会性	北 義子
	第8回	青年期前期 思春期と青年期・自我同一性・モラトリアム・自己受容・エゴグラム性格診断テスト	北 義子
	第9回	青年期後期 自我同一性・アイデンティティ・ステイタス・マージナル・マン・ピーター・パン・シンдрローム・シンデレラ・コンプレックス・合理的配慮・トランスジェンダー	北 義子
	第10回	成人期前期 親密性と孤独・職業的アイデンティティ・仁術・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ニート・人口置き換え水準	北 義子
	第11回	成人期中期 世代性と停滞・コーピング・スタイル・M字カーブ・3歳児神話	北 義子
	第12回	成人期後期 成熟期・同一性再確立・自己肯定感・熟年の自殺	北 義子
	第13回	高齢期 統合と絶望・結晶性知能と流動性知能・人格の尖鋭化・サクセスフル・エイジング・プロダクティブ・エイジング・ロコモティブ症候群・サルコペニア・フレイル・地域包括ケア	北 義子
	第14回	発達理論 単一要因説・生得説・経験説・双生児統制法・成熟優位説・レディネス・反射階層理論・行動主義心理学・輻輳説・相互作用説・横断研究・縦断研究・非線形打ち消し効果	北 義子
	第15回	発達理論 複雑系科学・創発・ゲシュタルト心理学・最近接発達領域	北 義子
科目の目的	人間を生涯にわたり発達する存在としてとらえ、生命の誕生から小児期、青年期、成人期(老年期)を経て死に至るまでの量的・質的变化について学ぶ。		
到達目標	人間の発達には、受胎、胎生期、新生児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老人期、死というライフステージに分けられる。障害のある人への支援を行う専門職には、機能障害の理解に加え、そうしたライフステージの特徴を踏まえて支援を行うことが求められている。そして、ライフステージの各時期に発現する行動を広く、深く理解し、各時期に生じやすい発達上あるいは健康上の課題を説明できることを目標とする。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力		

関連科目	臨床心理学, 学習・認知心理学, 心理測定法
成績評価方法・基準	評価点＝毎回提出する「まとめ」(1点×15回＝15%)＋定期試験成績(85%)。100点満点換算で60点以上を合格とし単位を与える。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業計画に示される授業内容の教科書該当部分を予習する(各回90分程度)。 授業後に配布される「標準的まとめ」を復習する(各回90分程度)。
教科書	なし。
参考書	鈴木光太郎著：ヒトの心はどう進化したのかー狩猟採集生活が生んだもの, 筑摩書房, 2013
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	1回の「まとめ」の提出に対し1点が与えられる。ただし、正答が60%を超えない場合、「まとめ」とは認めない。毎回の授業終了後、「標準的まとめ」をActive Academyにて配信する。定期試験は「標準的まとめ」から出題される。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFi-206

講義科目名称： 学習・認知心理学

授業コード： 5P059

英文科目名称： Psychology of Learning and Cognition

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
河内 和直			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 学習・認知研究の心理学史 心理学史/行動主義/認知心理学</p> <p>第2回 視覚・聴覚のしくみ 感覚・知覚・認知と言語聴覚機能/感覚モダリティ/感覚の感度と範囲</p> <p>第3回 視覚・聴覚の研究法 精神物理学/等ラウドネスレベル曲線/メル尺度, ソーン尺度</p> <p>第4回 知覚の働き 色彩, 奥行き, 運動の知覚/知覚の恒常性/文化と知覚</p> <p>第5回 高次の認知 パターン認識/顔の認知/認知地図</p> <p>第6回 学習の基礎 心理学における「学習」/S-R連合理論/認知理論</p> <p>第7回 条件づけ学習 刺激と反応/古典的条件づけ/オペラント条件づけ</p> <p>第8回 認知的学習 認知構造(スキーマ)/洞察学習/観察学習</p> <p>第9回 様々な学習と関連心理要因 回避学習/技能学習/動機づけ</p> <p>第10回 記憶のしくみ 記憶の過程/記憶の区分/記憶に影響を及ぼす要因</p> <p>第11回 記憶のモデル 二重貯蔵モデル/ワーキングメモリ/忘却のメカニズム</p> <p>第12回 問題解決と概念 問題解決/ヒューリスティクス/概念とカテゴリー</p> <p>第13回 知識のモデル 階層的ネットワーク・モデル/活性化拡散モデル/スキーマ理論</p> <p>第14回 言語とコミュニケーション 非言語的・前言語的コミュニケーション/言語的コミュニケーション/言語理解と産出</p> <p>第15回 知能心理学 知能の因子論/知能検査/加齢と知能</p>	河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直 河内 和直
科目の目的	<p>一般に学習というと、学校での勉強のみを連想しがちであるが、心理学における「学習」は経験によって生じる行動や認知の変容一般を指している。本講義においては広義の認知心理学の枠組みのもと、行動主義が提唱した学習原理と現在の認知心理学の源流ともなった認知理論の学習原理の2つの理論体系について理解することを目的とする。</p> <p>また、人間の基本的な認知過程にかかる感覚や知覚の働き、学習の結果として生じる記憶や知識、言語獲得、知的能力の特性と個人差についても心理学の研究モデルの概説を通して理解することも合わせて目的とする。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学における「学習」の基本的な考え方と理論について理解し、説明することができる。 2. 人類を含む生活体の認知と行動の関係について多角的な視点を持つことができる。 3. 知覚や記憶、知能などの心理学的概念を理解することができる。 4. 言語に関連する認知心理学的知見を理解することができる。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目	心理学, 教育心理学, 臨床心理学, 心理測定法	
成績評価方法・基準	定期試験(レポート形式・70%)に、小レポート(30%)の成績を加味して評価を行う。小レポートの解説は実施回の次の講義時の冒頭に行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各単元について、4時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。	
教科書	【教科書】 なし。資料を配布する。	
参考書	【参考書】 山田弘幸【編】(2020). 言語聴覚士のための心理学 第2版, 医歯薬出版株式会社 木山幸子・大沼卓也・新国佳祐・熊可欣(2022). 学習・言語心理学, サイエンス社	

	芝田征司・山本絵里子 (2024). 知覚・認知心理学入門, サイエンス社 森 敏昭・井上 毅・松井孝雄 (1995). グラフィック認知心理学, サイエンス社
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	講義中の私語, スマートフォン・携帯電話の使用, 他科目の学習は禁止します.
アクティブ・ラーニングの実施	実施する. 中間レポートの実施とそのフィードバック.
ナンバリング	PFi-207

講義科目名称： 心理測定法

授業コード： 5P060

英文科目名称： Psychological Measurement Method

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	講義 8 回, 実習 7 回		担当者
授業計画	第1回	心理学の研究法と測定 心理学の歴史を知ることを通じて、心理測定法の意義を学ぶ。 key words：心理測定法、心理学研究法、実験法、調査法、観察法、面接法、検査法	伊藤 栞
	第2回	尺度構成法 データはさまざまな形で収集することができ、得られた形に応じて分析方法が異なってくる。尺度水準について学び、得られたデータに応じた分析方法について理解する。 key words：測定の水準（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度）、尺度構成法、評定法	伊藤 栞
	第3回	心理測定における妥当性と信頼性 心理測定の良さの基準として、信頼性・妥当性について学ぶ。 key words：構成概念、妥当性、信頼性	伊藤 栞
	第4回	イメージの測定 SD法（1） SD法を用いて複数の対象へのイメージを測定し、評定対象のイメージ内容や使用した形容詞対の構成について検討し、イメージを測定する方法について理解する。 key words：質問紙調査、Semantic Differential Method	伊藤 栞
	第5回	イメージの測定 SD法（2） イメージを測定するためにSD法を使用した質問紙を作成する。【演習】 key words：HAD、因子分析	伊藤 栞
	第6回	イメージの測定 SD法（3） 質問紙調査を行う。【演習】	伊藤 栞
	第7回	イメージの測定 SD法（4） 得られたデータの分析方法について学ぶ。	伊藤 栞
	第8回	イメージの測定 SD法（5） 第7回で得られたデータの分析方法について学び、分析してみる。【演習】	伊藤 栞
	第9回	イメージの測定 SD法（6） 評定対象のイメージの特徴についてまとめ、発表する。【演習】	伊藤 栞
	第10回	精神物理学的測定法 精神物理学的測定法で測定される刺激閾、弁別閾、主観的等価値、丁度可知差異を学習し、閾値の概念について詳細に検討する。 key words：精神物理学的測定法、閾値の測定	伊藤 栞
	第11回	学習の測定 両側性転移（1） 一方の手足による学習が他方の手足における学習に影響を与える両側性転移について、鏡映描写課題を用いて調べる。本講義では実験手続きなどの説明を行う。 key words：実験法、両側性転移	伊藤 栞
	第12回	学習の測定 両側性転移（2） 鏡映描写課題の実験を行う。【演習】	伊藤 栞
	第13回	学習の測定 両側性転移（3） 得られたデータの分析方法について学ぶ。 key words：記述統計、t検定	伊藤 栞
	第14回	学習の測定 両側性転移（4） 第13回で得られたデータを用い分析する。【演習】	伊藤 栞
	第15回	学習の測定 両側性転移（5） 鏡映描写課題の実験結果から両側性転移について検討し、レポートにまとめる。【演習】	伊藤 栞
科目の目的	心理学の領域では心に関する現象をデータに基づいて科学的に検証するために様々な測定法が開発されてきた。この講義では各測定法の方法論や特徴を学ぶことを通じて、心理学における測定の意味、方法、理論を理解することを目指す。		
到達目標	1. 心理学研究の基礎をなす測定法の理論や具体的測定方法について説明することができる。 2. 測定することの意味や各研究領域を代表する測定方法について理解を深め、将来研究を企画する際の基礎知識を身に着ける。		
「ディプロマ・ポ	探求力と問題解決力		

リシー」キーワード	
関連科目	心理学, 臨床心理学, 学習・認知心理学
成績評価方法・基準	実験および調査に関する報告（授業内発表とレポート提出）（60%）, 実験および調査参加の積極性, 役割についての評価（40%）とする。 提出されたレポートは添削し, 授業内にてフィードバックを行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。予習・復習はそれぞれ2時間程度行うことを目安とする。
教科書	なし
参考書	巖島行雄・依田麻子・望月正哉編（2019）. 「ポテンシャル心理学実験」 サイエンス社 小宮あすか・布井雅人（2024）. 「Excelで今すぐ始める心理統計 第2版 簡単ツールHADで基本を身につける」 講談社 山田弘幸（編）. 「言語聴覚士のための心理学第2版」 医歯薬出版株式会社
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」 参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」 参照
履修条件・履修上の注意	1) 講義中の私語, 講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や, それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ, その回の講義の出席を認めない場合もあります。 2) 授業計画は受講学生数と受講学生の希望で一部変更することがあります。変更の場合は事前に周知します。
アクティブ・ラーニングの実施	実施する（実験・調査）。
ナンバリング	PFi-208

講義科目名称： 病理学

授業コード： 5P061

英文科目名称： Pathology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
浅見 知市郎			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 病理学概論 科目ガイダンス、病理学とは何か、診断病理学、実験病理学</p> <p>第2回 疾病の原因 外因（物理的要因、化学的要因、生物学的要因）、内因（素因、染色体・遺伝子異常、栄養障害）</p> <p>第3回 総論 1（退行性病変、進行性病変） 退行性病変（変性、委縮、壊死）、進行性病変（肥大・過形成、化生、異形成、創傷治癒）</p> <p>第4回 総論 2（循環障害） 循環障害（全身の循環障害、局所の循環障害）</p> <p>第5回 総論 3（炎症） 炎症に関わる細胞と液性因子、血管反応、全身性反応、炎症の経過と種類</p> <p>第6回 総論 4（腫瘍） 悪性腫瘍の発生、腫瘍細胞の生物学的特徴、腫瘍の分類</p> <p>第7回 総論 5（先天異常と奇形） 先天異常、遺伝性疾患（染色体疾患、単一遺伝子異常）、多因子疾患、外的要因による先天異常、先天奇形</p> <p>第8回 各論 1（循環器疾患） 心臓疾患、血管の疾患</p> <p>第9回 各論 2（呼吸器疾患） 上気道疾患、下気道疾患、胸膜疾患</p> <p>第10回 各論 3（消化器疾患） 口腔・咽頭の疾患、食道の疾患、胃の疾患、小腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患、肝・胆・膵の疾患</p> <p>第11回 各論 4（神経系の疾患） 中枢神経系の疾患、末梢新家系の疾患</p> <p>第12回 各論 5（運動器疾患） 骨・軟骨の疾患、関節とその付属器の疾患、筋の疾患</p> <p>第13回 各論 6（泌尿・生殖器疾患） 腎臓の疾患、下部尿路の疾患、男性生殖器疾患、女性生殖器疾患、乳腺の疾患</p> <p>第14回 各論 7（内分泌疾患） 視床下部・下垂体・甲状腺・副甲状腺・副腎・膵島の疾患、消化管ホルモンの異常、多発性内分泌腫瘍、異所性ホルモン産生腫瘍</p> <p>第15回 各論 8（造血器疾患、皮膚疾患、感覚器疾患） 造血器疾患（骨髄疾患、リンパ節の疾患、脾臓・胸腺の疾患）、皮膚、感覚器疾患（皮膚疾患、眼疾患、耳の疾患）</p>	浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。総論として退行性病変、進行性病変、循環障害、炎症、腫瘍、先天異常について、各論では循環器、呼吸器、消化器、神経系、運動器、泌尿・生殖器、内分泌器、造血器、皮膚感覚器、それぞれの疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。	
到達目標	1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（筆記試験100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習として180分を目安とする。	

教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第5版 横井豊治ほか 医学書院
参考書	特に無し
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	アクティブアカデミーで配布する書き込み式資料は講義までにプリントアウトしておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	特になし
ナンバリング	PFj-101

講義科目名称： 薬理学

授業コード： 5P062

英文科目名称： Pharmacology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
福地 守			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 薬理学を学ぶにあたって 薬理学とは何か、薬理学の基礎知識、薬効の個人差に影響する因子、薬物使用の有益性と危険性。</p> <p>第2回 薬物動態学 薬物の体内動態、薬物の投与経路と薬の吸収・分布・代謝・排泄 (ADME)</p> <p>第3回 麻酔薬・中枢興奮薬 神経系総論、全身麻酔薬、局所麻酔薬、中枢興奮薬。</p> <p>第4回 抗炎症薬・解熱鎮痛薬・麻薬 抗炎症薬 (副腎皮質ステロイドとNSAIDs)、解熱・鎮痛薬、麻薬性鎮痛薬、麻薬拮抗性鎮痛薬。</p> <p>第5回 向精神薬・抗てんかん薬・抗パーキンソン病薬 睡眠薬・抗不安薬・抗精神病薬・抗うつ薬・気分安定薬・抗てんかん薬・抗パーキンソン病薬</p> <p>第6回 筋弛緩薬 筋弛緩薬 自律神経系に作用する薬物 自律神経系の基礎知識、アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬、コリン作動薬と抗コリン薬。</p> <p>第7回 オータコイド オータコイドの種類とその作用、プロスタグランジンの臨床応用。</p> <p>第8回 強心薬 心不全と強心薬、ジギタリス製剤の作用と副作用、その他の強心薬。</p>	<p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p>
科目の目的	医療の中で投薬 (服薬、注射、輸液、外用など) の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。	
到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法の実践に必要なとされるレベルに到達することを目標とする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	試験 (100%)。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておくこと。それが次の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約4時間。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」 (医学書院)。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。	
アクティブ・ラーニングの実施	施行せず	

ナンバリング	PFj-201
--------	---------

講義科目名称： 臨床薬学

授業コード： 5P063

英文科目名称： Clinical Pharmacy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
福地 守			

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 狭心症治療薬・抗不整脈薬 狭心症治療薬の作用と投与方法、不整脈の分類と治療、抗不整脈薬の種類。</p> <p>第2回 利尿薬・降圧薬 利尿薬、利尿薬の臨床的応用、降圧薬。 脂質異常症治療薬 脂質異常症と動脈硬化、脂質異常症治療薬</p> <p>第3回 消化器系に作用する薬物・駆虫薬 消化性潰瘍治療薬、健胃・消化薬、消化管運動促進薬、 制吐薬、下剤、止痢薬、過敏性腸症候群治療薬、 潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬、駆虫薬。</p> <p>第4回 呼吸器系に作用する薬物 気管支喘息治療薬、抗結核薬、鎮咳薬、去痰薬、呼吸促進薬。</p> <p>第5回 物質代謝に作用する薬物 糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬、視床下部・下垂体ホルモン製剤、骨粗鬆症治療薬、性ホルモン関連薬。</p> <p>第6回 貧血治療薬・血液凝固系や線溶系に作用する薬物 貧血治療薬、抗凝固薬と抗血小板薬、血栓溶解薬、止血薬。 抗がん薬 抗がん薬の作用と有害作用。</p> <p>第7回 化学療法薬 細胞傷害性抗がん薬、分子標的薬。 抗ウイルス薬 抗ウイルス薬 免疫治療薬 免疫抑制薬、免疫増強薬、予防接種。</p> <p>第8回 消毒薬 消毒に関する基礎知識、滅菌・消毒法、消毒薬の種類と濃度。</p>	<p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p> <p>福地 守</p>
科目の目的	医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。	
到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適応に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法の実践に必要なとされるレベルに到達することを目標とする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	試験（100％）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておくこと。それが次の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約4時間。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」（医学書院）。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。
アクティブ・ラーニングの実施	施行せず
ナンバリング	PFj-202

講義科目名称： 公衆衛生学

授業コード： 5P064

英文科目名称： Public Health

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
木村 朗	木村 博一		

授業形態	講義(15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 公衆衛生学総論・新型コロナウイルス感染症の概要 公衆衛生学・インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症の概要について講義する。</p> <p>第2回 感染症疫学総論 感染症疫学について概説する。</p> <p>第3回 感染症各論 結核、エイズならびに新興再興感染症について概説する。</p> <p>第4回 疫学総論（集団の健康と疾病の概念） 疫学概要、記述疫学、分析疫学ならびにコホート研究について概説する。</p> <p>第5回 疫学各論（疫学の方法） 系統誤差・偶発誤差、因果関係論ならびに保健統計について概説する。</p> <p>第6回 生活習慣病総論（ライフスタイルと健康） NCDの概要、動脈硬化性疾患、予防ならびに健康教育について概説する。</p> <p>第7回 親子保健（発達・成長と健康） 親子保健（発達・成長と健康）の概要と課題について概説する。</p> <p>第8回 労働衛生・産業保健の概要 社会・環境と健康の概要と課題について概説する。</p> <p>第9回 健康危機管理（1） 食品衛生・食の安全について概説する。</p> <p>第10回 健康危機管理（2） 感染症発生時や災害時の対応について概説する。</p> <p>第11回 院内感染対策概説 院内感染の現状と対策について概説する。</p> <p>第12回 精神保健概説 精神保健や自殺対策について概説する。</p> <p>第13回 生活環境・環境と健康・地球温暖化 生活環境・環境と健康・地球温暖化などの諸問題について概説する。</p> <p>第14回 保健医療行政概説 地域包括ケアシステムを含む保健医療行政について概説する。</p> <p>第15回 がんの統計と疫学 がん対策・がん登録について概説する。</p>	<p>木村 博一</p> <p>木村 博一</p> <p>木村 博一</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 博一</p> <p>木村 博一</p> <p>木村 博一</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。各種疾患対策、環境対策と統計、疫学、健康教育、試験検査が織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、感染と免疫	
成績評価方法・基準	定期試験（期末試験）100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり4時間（実時間180分）	
教科書	<p>【教科書】 初めて学ぶやさしい疫学 日本疫学会標準テキスト（南江堂）</p> <p>【教科書】 実践身体活動学、木村 朗（三共出版）</p>	
参考書	特になし。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げるセッションを設ける。課題は発見学習とし、疫学データから健康課題を抽出し、予防策を考察する。学生の報告を整理し、課題へ回答へのフィードバックを授業中に行う。
ナンバリング	PFj-102

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
寺澤 文子	松下 誠・澤田 裕也 加藤 英樹	高橋 克典・林 由里子	三浦 佑介・高橋 あゆ子

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 臨床検査学総論 臨床検査の必要性</p> <p>第2回 検体検査 (1) 一般検査の種類と実際</p> <p>第3回 検体検査 (2) 臨床血液検査の種類と実際</p> <p>第4回 検体検査 (3) 臨床化学検査の種類と実際</p> <p>第5回 検体検査 (4) 免疫検査・ホルモン検査の種類と実際</p> <p>第6回 検体検査 (5) 感染症検査・病理検査の種類と実際</p> <p>第7回 生体検査 (1) 心電図検査の測定の意義</p> <p>第8回 生体検査 (2) 呼吸機能検査・脳波検査の意義</p> <p>第9回 画像診断学総論</p> <p>第10回 頭部の画像診断</p> <p>第11回 胸部の画像診断 1 肺</p> <p>第12回 胸部の画像診断 2 心臓・大血管</p> <p>第13回 骨・関節の画像診断 (脊椎・脊髄を含む)</p> <p>第14回 肝胆膵の画像診断 (消化管を含む)</p> <p>第15回 泌尿器・生殖器の画像診断</p>	<p>寺澤 文子</p> <p>高橋 克典</p> <p>林 由里子</p> <p>松下 誠</p> <p>高橋 あゆ子</p> <p>三浦 佑介</p> <p>寺澤 文子</p> <p>澤田 裕也</p> <p>加藤 英樹</p> <p>加藤 英樹</p> <p>加藤 英樹</p> <p>加藤 英樹</p> <p>加藤 英樹</p> <p>加藤 英樹</p>
科目の目的	多様な病気の正確な診断に、臨床検査・画像診断学は欠かせないものとなっている。特に生体検査として、X線、CT、MRI、超音波検査(US)、核医学(SPECT、PET)など多くの画像診断法が開発され、発展している。これらの画像検査によって正常解剖の理解が深まり、病気の発生による解剖学的異常や生体内の変化を目で見る事が出来るようになった。一方、血液、尿・便、喀痰等の検体検査の測定法も日々進化し、臨床判断に大いに寄与している。本科目を学習することにより、正常解剖・生理学を分かりやすく理解するとともに、病気の診断に臨床検査・画像診断がどのように利用されているか知ることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 血液検査など検体検査で何が判るか理解する。 理学療法士として、臨床検査の重要性を十分把握する。 X線、CT、MRI、超音波検査(US)、核医学検査(SPECT)・PETの原理を習得する。 正常解剖画像、代表的な病気の典型的な画像を理解する。 正確な病気の診断に画像診断がどのように利用されているか、その役割を理解する。 	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	<p>関連し合う教養科目－情報処理、生物学、化学、物理学</p> <p>この科目が基盤となる専門基礎科目－運動器解剖学、臓器解剖学、生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学、病理学、薬理学、内科学、臨床医学関連領域論、整形外科学、神経内科学、小児科学</p> <p>この科目が基盤となる専門科目－運動機能系理学療法治療学演習、神経機能系理学療法治療学・神経機能系理学療法治療学演習、内部機能系理学療法治療学演習、物理療法学、スポーツ理学療法学</p>	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)により成績を評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習・復習を行い理解しておくこと。準備学習時間の目安は1時間程度とする。	
教科書	画像診断コンパクトナビ 第4版(医学教育出版社)、教員が配布する資料	

参考書	系統看護学講座 別巻6 臨床検査（医学書院）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	Active Academy Advanceにより資料を事前配付する。PCにダウンロードして授業に持参すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFj-203

講義科目名称： 臨床医学関連領域論

授業コード： 5P066

英文科目名称： Clinical Medicine and Related Disciplines

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真	正田 純史		

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 外科領域 (1) 総論 外科領域の疾患と治療の概要について理解する。</p> <p>第2回 外科領域 (2) 胸部疾患 外科領域のうち胸部疾患とその治療の概要について理解する。</p> <p>第3回 外科領域 (3) 腹部疾患 外科領域のうち腹部疾患とその治療の概要について理解する。</p> <p>第4回 感染症科・滅菌法・消毒法 感染症科領域における疾患と滅菌法・消毒法の概要について理解する。</p> <p>第5回 耳鼻咽喉科領域 耳鼻咽喉科領域における疾患を理解する。</p> <p>第6回 泌尿器科領域 泌尿器科領域における疾患を理解する。</p> <p>第7回 産婦人科領域 産婦人科領域における疾患を理解する。</p> <p>第8回 老年医学領域 高齢者に特徴的な症候と疾患 (皮膚科領域・眼科領域の疾患を含む) について理解する。</p>	<p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>正田 純史</p> <p>正田 純史</p> <p>正田 純史</p> <p>正田 純史</p> <p>宗宮 真</p>
科目の目的	臨床医学のうち、外科、老年科 (老年医学)、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、感染症科・滅菌法・消毒法の概要について理解する。	
到達目標	臨床医学の各科 (外科、老年科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科、感染症科・滅菌法・消毒法) で診る疾患の概要について理解し、説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	臓器解剖学、解剖学演習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学演習、病理学、薬理学、臨床薬学、臨床検査・画像診断学演習、内科学、小児科学、リハビリテーション医学、救急・免疫・感染症学	
成績評価方法・基準	定期試験 (筆記試験 80%) 授業内レポート (20%) 授業内レポートについては、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり4時間 (実時間数180分) の授業時間外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	
ナンバリング	PFj-204	

講義科目名称： 内科学

授業コード： 5P067

英文科目名称： Internal Medicine

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岩崎 俊晴			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 概論 1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。</p> <p>第2回 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。</p> <p>第3回 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。</p> <p>第4回 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。</p> <p>第5回 呼吸器疾患 1 呼吸器疾患総論、感染性呼吸器疾患、気管支疾患、産業性呼吸器疾患、他。</p> <p>第6回 呼吸器疾患 2 間質性肺炎、COPD、肺腫瘍、肺循環障害、サルコイドーシス、他</p> <p>第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺炎。膠原病。</p> <p>第8回 循環器疾患 1 心不全。不整脈。</p> <p>第9回 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。</p> <p>第10回 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。</p> <p>第11回 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。</p> <p>第12回 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常 (糖尿病、低血糖)</p> <p>第13回 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。</p> <p>第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。</p> <p>第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。</p>	<p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p> <p>岩崎 俊晴</p>
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。	
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、病理学、生理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験とレポートの総合評価 (レポート30%、ミニテスト30%、試験40%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭にしておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには45分以上の予習が必要である。	
教科書	なし	
参考書	「病気が見える」シリーズ	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	特になし。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFj-205

講義科目名称： 整形外科学

授業コード： 5P068

英文科目名称： Orthopedics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 整形外科総論 運動器の基礎知識(基本構造と機能)と評価・診察・検査・治療について学ぶ。 第2回 整形外科疾患総論1 骨関節・軟部組織の感染症、関節リウマチとその類縁疾患について学ぶ。 第3回 整形外科疾患総論2 退行性疾患、代謝・内分泌性疾患について学ぶ。 第4回 整形外科疾患総論3 骨・軟部腫瘍、先天性骨系統疾患、循環障害と阻血壊死性疾患について学ぶ。 第5回 外傷性疾患1 骨折・脱臼の分類、症状、診断、治療、合併症について学ぶ。 第6回 外傷性疾患2 上肢・体幹の骨折について学ぶ。 第7回 外傷性疾患3 下肢の骨折について学ぶ。 第8回 外傷性疾患4 脊髄損傷について学ぶ。 第9回 外傷性疾患5 末梢神経損傷について学ぶ。 第10回 整形外科疾患各論1 頸椎疾患について学ぶ。 第11回 整形外科疾患各論2 胸椎疾患・腰椎疾患について学ぶ。 第12回 整形外科疾患各論3 股関節疾患について学ぶ。 第13回 整形外科疾患各論4 膝関節疾患・足関節疾患について学ぶ。 第14回 整形外科疾患各論5 肩関節疾患について学ぶ。 第15回 整形外科疾患各論6 肘関節疾患・手関節と手の疾患について学ぶ。	宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真
科目の目的	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。	
到達目標	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、解剖学演習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学演習、運動学、運動学演習、病理学、薬理学、臨床薬学、臨床検査・画像診断学演習、神経内科学、リハビリテーション医学	
成績評価方法・基準	定期試験(筆記試験 80%)、授業内レポート(15%)、授業中の質問や確認問題への回答(5%)。授業内レポートや確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり1時間(実時間数45分)の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：「標準整形外科学(第15版)」井樋栄二ほか(医学書院)	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。	
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし	

講義科目名称： 神経内科学

授業コード： 5P069

英文科目名称： Neurology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 総論 神経症候と神経学的診察法の概要について学習する。 第2回 脳血管障害1 脳血管障害の概要と脳出血について学習する。 第3回 脳血管障害2 脳梗塞1 病態と症候を中心に学習する。 第4回 脳血管障害3 脳梗塞2 検査と治療を中心に学習する。 第5回 脳血管障害4および外傷性疾患 くも膜下出血と頭部外傷について学習する。 第6回 神経変性疾患1 認知症疾患について学習する。 第7回 神経変性疾患2 大脳基底核障害 (錐体外路系疾患) 1 パーキンソン病を中心に学習する。 第8回 神経変性疾患3 大脳基底核障害 (錐体外路系疾患) 2 パーキンソン病以外の疾患について学習する。 第9回 神経変性疾患4 脊髄小脳変性症について学習する。 第10回 神経変性疾患5 運動ニューロン疾患について学習する。 第11回 脱髄疾患 多発性硬化症などの脱髄疾患について学習する。 第12回 末梢神経障害 ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害について学習する。 第13回 筋疾患 筋ジストロフィーなどの筋疾患について学習する。 第14回 神経筋接合部疾患、機能性疾患 重症筋無力症などの神経筋接合部疾患、てんかんなどの機能性疾患について学習する。 第15回 感染性疾患 髄膜炎・脳炎などの感染性疾患について学習する。	宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真
科目の目的	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。	
到達目標	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	臓器解剖学、解剖学演習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学演習、病理学、薬理学、臨床薬学、臨床検査・画像診断学演習、内科学、整形外科学、小児科学、リハビリテーション医学	
成績評価方法・基準	定期試験 (筆記試験 80%)、授業内レポート (15%)、授業中の質問や確認問題への回答 (5%)。授業内レポートや確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり1時間 (実時間数45分) の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書： 使用しない。	
参考書	参考書1：「神経内科学テキスト (改訂第5版)」江藤文夫、飯島節、伊東秀文 (南江堂) 参考書2：「神経疾患のリハビリテーション (初版)」江藤文夫、和田直樹 (南山堂)	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFj-207

講義科目名称： 精神医学

授業コード： 5P070

英文科目名称： Psychiatry

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
石井 良和	井田 逸朗		

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 精神医学とは 精神医学の定義・概念・歴史	石井 良和・井田逸朗
	第2回 精神障害の成因と分類 精神と精神症状の理解	石井 良和・井田逸朗
	第3回 精神疾患の診断と評価	石井 良和・井田逸朗
	第4回 脳器質性精神障害 (てんかんを含む) 症状性精神障害	石井 良和・井田逸朗
	第5回 統合失調症	石井 良和・井田逸朗
	第6回 気分障害・神経症・摂食障害・心身症等	石井 良和・井田逸朗
	第7回 精神作用物質 アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害	石井 良和・井田逸朗
	第8回 精神科医療 治療・薬の副作用・入院の種類	石井 良和・井田逸朗
	第9回 不安障害	石井 良和・井田逸朗
	第10回 睡眠障害	石井 良和・井田逸朗
	第11回 パーソナリティー障害	石井 良和・井田逸朗
	第12回 老年期の精神医学	石井 良和・井田逸朗
	第13回 発達障害	石井 良和・井田逸朗
	第14回 サイコオンコロジー	石井 良和・井田逸朗
	第15回 まとめと試験関連項目の詳説	石井 良和・井田逸朗
科目の目的	広汎な精神障害の概要を学び、将来理学療法士としての役割を学習する。	

到達目標	理学療法士として将来遭遇する症例の実像を理解できる。
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術
関連科目	内科学 小児科学
成績評価方法・基準	筆記試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義の該当ページを読んでおくこと。学習時間の目安は1コマあたり60分。
教科書	教科書：「標準理学療法学作業療法学 精神医学」編：上野武治（医学書院）
参考書	参考書：特になし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	単位取得後、「公益財団法人日本パラスポーツ協会」の所定の手続きをとることで、公認パラスポーツ指導員初級の申請が可能になる科目のひとつである。詳細は学生便覧「履修の手引き」を参照すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFj-208

講義科目名称： 小児科学

授業コード： 5P071

英文科目名称： Pediatrics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
秋元 かつみ			

授業形態	講義形式 (15コマ) 講義の前後にプレテスト、ポストテストを施行		担当者
授業計画	第1回	小児科学概論 成長発達、神経反射、小児と成人の相違（構造、生理）、健康診断	秋元 かつみ
	第2回	新生児、低出生体重児 低出生体重児、早産児の生理と合併症、マスキリーニング、母児感染	秋元 かつみ
	第3回	先天異常 染色体異常、遺伝子異常、代謝異常などの原因と診断と治療	秋元 かつみ
	第4回	神経、筋、骨疾患 てんかん、先天性の筋疾患や骨系統疾患の診断と治療	秋元 かつみ
	第5回	循環器 先天性の構造異常、川崎病、不整脈などの病態と診断と治療	秋元 かつみ
	第6回	感染症 小児期に罹患しやすい感染症の特徴と治療と予防法、ワクチン	秋元 かつみ
	第7回	血液、腫瘍 小児の白血病などの血液疾患と固形腫瘍の特徴と治療と予後	秋元 かつみ
	第8回	自己免疫疾患、アレルギー アトピー性皮膚炎、喘息、食物アレルギーなどの最近の知見をふまえた病因や治療	秋元 かつみ
	第9回	消化器 先天性の構造異常や炎症性腸疾患の診断と治療	秋元 かつみ
	第10回	外科疾患 先天性消化器、生殖器疾患などの病態や脳腫瘍など後天性疾患の治療、整形外科疾患の診断と治療	秋元 かつみ
	第11回	呼吸器疾患 感染症やアレルギーを基礎にした疾患と先天性構造異常疾患などの病態と診断および治療	秋元 かつみ
	第12回	腎・泌尿器疾患 先天性や遺伝性腎泌尿器疾患、ネフローゼ症候群やIgA血管炎などの後天性疾患の診断と治療	秋元 かつみ
	第13回	代謝、内分泌 低身長や性分化疾患などの内分泌異常やウイルソン病などの代謝異常の診断と治療	秋元 かつみ
	第14回	精神疾患 自閉症スペクトラム、ADHD、トウレット症候群、神経性やせ症などの概要と診断	秋元 かつみ
	第15回	脳性麻痺、医療的ケア児、在宅医療 脳性麻痺の病態と診断、在宅医療を含めた医療的ケア児の治療	秋元 かつみ
科目の目的	小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として正常な新生児から思春期の成長発達や先天異常などの疾患を持つ小児の特有の病態を学び理解することで理学療法の実践の考え方や技術を深める。将来の医療スタッフと業務の上で協調できる能力を持つことも目的の一つとする。		
到達目標	1) 小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。 2) 個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を理解し学習することを目標とする。 3) 患者の問題点について深く考え、医療チームで発言できるスキルを身につける。 4) 授業中にわからないことがあれば積極的に質問する姿勢を身につける		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	運動器解剖学・臓器解剖学、生理学Ⅰ・Ⅱ、人間発達学、内科学、精神医学		
成績評価方法・基準	定期試験100%だがリアクションペーパーも考慮		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配布された資料を前日までに目を通しておくこと。1コマの授業に1時間ほどかけて要点を理解し疑問点を列記しておくこと。		
教科書	教科書：使用しない		
参考書	「標準理学療法学・作業療法学小児科学(第6版)」奈良勲/鎌倉矩子 2023年1月発行 医学書院 病気が見える vol.15小児科 第1版 2022年10月発行 メディックメディア		

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業開始5分後までは出席扱い。その後は遅刻とします。
アクティブ・ラーニングの実施	症例をグループで検討しポイントや問題点の理解を深める。
ナンバリング	PFj-209

講義科目名称： リハビリテーション医学

授業コード： 5P072

英文科目名称： Rehabilitation Medicine

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
宗宮 真			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション診療の概要 障害学、病期別リハビリテーション、診察、評価、検査、治療について学ぶ。</p> <p>第2回 障害の病態生理と評価・治療 (1) 廃用症候群について学ぶ。</p> <p>第3回 障害の病態生理と評価・治療 (2) 循環機能障害、呼吸機能障害について学ぶ。</p> <p>第4回 障害の病態生理と評価・治療 (3) 運動障害、歩行障害について学ぶ。</p> <p>第5回 障害の病態生理と評価・治療 (4) 摂食・嚥下障害について学ぶ。</p> <p>第6回 障害の病態生理と評価・治療 (5) 高次脳機能障害について学ぶ。</p> <p>第7回 障害の病態生理と評価・治療 (6) 老化による障害 (老年症候群)、発達障害について学ぶ。</p> <p>第8回 疾患とリハビリテーション (1) 脳血管障害について学ぶ。</p> <p>第9回 疾患とリハビリテーション (2) 脊髄損傷について学ぶ。</p> <p>第10回 疾患とリハビリテーション (3) 神経筋疾患について学ぶ。</p> <p>第11回 疾患とリハビリテーション (4) 骨関節疾患について学ぶ。</p> <p>第12回 疾患とリハビリテーション (5) 切断と義肢について学ぶ。</p> <p>第13回 疾患とリハビリテーション (6) 呼吸器疾患、循環器疾患について学ぶ。</p> <p>第14回 疾患とリハビリテーション (7) 内部障害、悪性腫瘍について学ぶ。</p> <p>第15回 疾患とリハビリテーション (8) 小児疾患 (脳性麻痺など) について学ぶ。</p>	宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真
科目の目的	<p>1. 運動障害、廃用症候群、循環・呼吸機能障害、嚥下障害、高次脳機能障害、老年症候群、発達障害などの病態生理・評価・リハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>2. 脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患、骨関節疾患、切断と義肢、呼吸器疾患、循環器疾患、内部障害、悪性腫瘍、小児疾患などの疾患の病態とリハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p>	
到達目標	リハビリテーションの対象となる障害や疾患の病態生理・評価およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、解剖学演習、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生理学演習、病理学、薬理学、臨床薬学、臨床検査・画像診断学演習、臨床医学関連領域論、内科学、整形外科学、神経内科学、小児科学	
成績評価方法・基準	定期試験 (筆記試験 80%)、授業内レポート (15%)、授業中の質問や確認問題への回答 (5%)。授業内レポートや確認問題については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。1コマあたり、4時間 (実時間数180分) の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書	教科書：使用しない。	
参考書	参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PFj-210

講義科目名称： 救急・免疫・感染症学

授業コード： 5P073

英文科目名称： Critical Care Medicine, Immunology, and Infectious Diseases 対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満	萩原 英子	高橋 あゆ子	
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	PFj-301		

講義科目名称： リハビリテーション概論

授業コード： 5P074

英文科目名称： Introduction to Rehabilitation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満	竹原 敦	石山 寿子	

授業形態	講義 (8回)	担当者
授業計画	<p>第1回 リハビリテーションの定義とその変遷 歴史の変遷、定義と目的、健康、生活、自分らしく生きる</p> <p>第2回 病気と障害 健康とは、病気と障害との関係、国際疾病分類 (ICD)、国際障害分類 (ICDH)</p> <p>第3回 障害のとらえ方と分類の難しさ、リハビリテーション医療の流れ 国際生活機能分類 (ICF)、急性期・回復期・生活期・予防的リハビリテーション</p> <p>第4回 リハビリテーションの諸領域 医学的・社会的・職業的・教育的リハビリテーション</p> <p>第5回 人間の活動と発達 発達とは、ライフサイクル、ノーマライゼーション、発達障害</p> <p>第6回 障害と社会制度 国際障害者権利条約、障害者基本法、身体障害者福祉法、障害手帳、介護保険、地域資源</p> <p>第7回 社会参加、社会につながるために 就労支援、インクルーシブ教育</p> <p>第8回 生活、人生を考える 社会参加、社会貢献、生活の意味、人生100年時代の課題</p>	<p>佐藤 満</p> <p>佐藤 満</p> <p>佐藤 満</p> <p>竹原 敦</p> <p>石山 寿子</p> <p>石山 寿子</p> <p>石山 寿子</p> <p>竹原 敦</p>
科目の目的	本講義では、リハビリテーションの理念と原則を踏まえて、包括的なリハビリテーション、ならびに障害学の基本概念を習得することを目標とする。リハビリテーションスタッフとして必要な障害学の内容と評価・治療方法の要点、国際生活機能分類 (ICF)、リハビリテーションのプロセス、リハビリテーションチーム医療のあり方、さらには保健・福祉行政における社会的資源とリハビリテーションの関わり等についての基礎知識を理解する。	
到達目標	<p>リハビリテーションの基本理念と原則を理解し、障害の概念と分類、リハビリテーションの領域とその過程、障害と心理、さらにはリハビリテーション障害学の基礎、そして保健医療福祉制度・関係法規とリハビリテーションとの関連について獲得する。具体的には下記の通りである。</p> <p>①リハビリテーションの概念および定義を説明することができる。</p> <p>②リハビリテーションの歴史を説明することができる。</p> <p>③国際生活機能分類 (ICF)を説明できる。</p> <p>④リハビリテーションの多職種連携の重要性を説明できる。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	理学療法概論、チーム医療とリハビリテーション、地域リハビリテーション学、障害と理学療法	
成績評価方法・基準	定期試験 (100%) : 到達目標の達成程度を確認する筆記試験を行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は各回の項目について配布資料・その他各種メディアを通じて自分なりの問題意識を抱き、復習は講義内容のレビューを行い疑問点を解消して自分の言葉で平易に正しく説明できるようにすること。必要な学習時間の目安は予習と復習で概ね180分程度である	
教科書	教科書：特に定めず、講義資料を活用する。 その他講義内容により資料等配布有り。	
参考書	参考書：中村隆一編「入門リハビリテーション概論 (第7版補訂)」 (医歯薬出版)	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブ・ラーニングは視聴覚教材等の使用により、発見学習を提供している	
ナンバリング	PFk-101	

講義科目名称： チーム医療とリハビリテーション

授業コード： 5P075

英文科目名称： Team Approach to Health Care and Rehabilitation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡崎 大資	浅田 春美・加茂 智彦	村田 和香・馬場 順子・松寄 由莉	石山 寿子・遠藤 俊介・酒井 哲郎

授業形態	講義（3）、演習（5）		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション 総論（講義） チーム・アプローチの必要性、保健医療チームの特徴、チームのタイプ	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤・酒井・松寄
	第2回	リハビリテーション・チームの役割（講義） 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の役割	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤・酒井・松寄
	第3回	グループ・ワークについて（講義） グループ課題情報共有、グループ分け	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤・酒井・松寄
	第4～7回	グループワーク（演習4回） 課題を担当するグループを決定し、グループでの役割分担、情報収集、分析、ディスカッション、発表準備を行う。	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤・酒井・松寄
	第8回	グループ発表（演習） グループ・ワークの結果をまとめ、その学習成果をポスター等により発表し、ディスカッションを行う。	岡崎・浅田・加茂・村田・馬場・石山・遠藤・酒井・松寄
科目の目的	リハビリテーション学部のディプロマ・ポリシーで謳われている「多様化する地域社会の諸問題を理解し、多職種と連携してリハビリテーションを実践できる能力」を目指し、リハビリテーション学部の3学科の学生が共に学ぶ機会を得ることにより、お互いを尊重する姿勢を学ぶ。「リハビリテーション概論」の学修に基づき、学科横断的に編成するグループによる課題解決の過程を通して、チームの概念、チームワークの難しさと効果、リーダーシップ、他者理解の上での交流の在り方、組織管理について学修する。		
到達目標	①チーム医療の意味を説明できる。 ②リハビリテーション・チームの役割を説明できる。 ③グループ・ワークに積極的参加することができる。 ④他者の意見を聞くこと、自らの意見を話すことができる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	多職種理解と医療コミュニケーション、リハビリテーション概論、理学療法概論、地域リハビリテーション学		
成績評価方法・基準	グループ・ワークの発表（50%）およびディスカッションを含めた課題をレポートにまとめる（50%）。 レポートのフィードバックは学科担当教員が行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容、およびグループでの作業を理解し、積極的にグループ・ワークに参加すること。 準備学習に必要な時間の目安は180分程度である。		
教科書	特に定めない。		
参考書	特に定めない。		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		

国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	
アクティブ・ラーニングの実施	5回の演習では、グループに分かれ与えられた課題を基に、能動的にグループワークを実施する。
ナンバリング	PFk-102

講義科目名称： 臨床心理学

授業コード： 5P076

英文科目名称： Clinical Psychology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
伊藤 栞			

授業形態	(一部ワークやグループワークを行う) 講義 (15回)		担当者
授業計画	第1回	こころとは何か? key ward: 心理学, 臨床心理学	伊藤 栞
	第2回	臨床心理学とは key ward: 科学性, 援助対象と領域, アセスメント	伊藤 栞
	第3回	臨床心理学の基礎理論 key ward: 生物・心理・社会モデル, 正常と異常, 疾病と障害, 受容	伊藤 栞
	第4回	アセスメントの理論と技法 key ward: アセスメント, 面接法, 観察法	伊藤 栞
	第5回	アセスメントの理論と技法 key ward: アセスメント, 心理検査, 信頼性と妥当性	伊藤 栞
	第6回	精神医学とその状態を捉える心理検査 key ward: 精神医学と心身医学, 心理検査	伊藤 栞
	第7回	援助の方法と過程: 力動的アプローチ key ward: 精神分析療法, 欲求不満, 葛藤, 防衛機制, リビドー	伊藤 栞
	第8回	援助の方法と過程: 力動的アプローチ key ward: 分析心理学, 交流分析	伊藤 栞
	第9回	援助の方法と過程: 人間論的アプローチ key ward: 来談者中心療法, 非指示的アプローチ, 自己理論, 聴き手の態度	伊藤 栞
	第10回	援助の方法と過程: 人間論的アプローチ key ward: フォーカシング, フェルトセンス	伊藤 栞
	第11回	援助の方法と過程: 認知行動論的アプローチ key ward: 行動療法, 学習理論	伊藤 栞
	第12回	援助の方法と過程: 認知行動論的アプローチ key ward: 認知療法, 認知行動療法	伊藤 栞
	第13回	援助の方法と過程: システム論的アプローチ key ward: 家族療法, ブリーフセラピー	伊藤 栞
	第14回	援助の方法と過程: コミュニティアプローチ key ward: コミュニティ生態学的モデル	伊藤 栞
	第15回	援助の方法と過程: 日本発祥の心理療法 key ward: 森田療法, 動作法, 内観療法	伊藤 栞
科目の目的	臨床心理学とは、こころをより良い状態へと導くために、心理学の理論や知識そして心理学的技法を用いて専門的援助を行う心理学の応用的な一分野である。本授業では、臨床心理学の基本概念、研究法、心理検査、心理療法および障害受容などについて学び、臨床心理学的視点が対象者理解および介入にどのように役立つかを学び、対象者を身体的側面・心理的側面・社会的側面の相互作用から理解し、支援するための基礎的態度と考え方を身につけることを目指す。		
到達目標	1. 臨床心理学の基本概念を説明できる。 2. 臨床心理学で用いられる基本的な心理支援の理論と方法を説明することができる。 3. 臨床心理学で対象となる悩みや障害について、その特徴や心理支援について説明することができる。 4. 臨床場面における対象者の心理と対象者やその家族とのコミュニケーションの方法について理解を深め、良好な関係を築けるようになる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	【教養・共通基盤科目群】心理学, 教育学, 生命倫理, 哲学, 人間と宗教, 家族社会学, 生活文化と医療, 多職種理解と医療コミュニケーション 【専門基礎科目群】生涯発達心理学, 学習・認知心理学, 心理測定法		
成績評価方法・基準	成績評価は次のように行う。①授業時の小レポート (30%) , ②期末レポート (70%) なお、小レポートに対するフィードバックは、講義の冒頭に行う。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書の該当章を読み、どのような内容について学ぶのか事前におさえておく。不明な点や気になる点があれば、授業時に理解がすすむようにノートなどにまとめるなど準備しておく。準備学習時間は1.5時間程度。		
教科書	山口加代子・植田幸彦・久保義郎 (2024) . 最新リハビリティーション基礎講座 臨床心理学 医歯薬出版株式会社		
参考書	内山靖・藤井浩美・立石雅子 (編) (2020) 「リハベーシック心理学・臨床心理学」 医歯薬出版株式会社		

オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	特になし
アクティブ・ラーニングの実施	双方向アンケート（リアクションペーパーによるコミュニケーション）
ナンバリング	PFk-201

講義科目名称： 医療統計学

授業コード： 5P077

英文科目名称： Medical Statistics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
木村 朗	富田 浩		

授業形態	講義1-15コマと演習1-15コマ すべて講義と演習の併用		担当者
授業計画	第1回	計学のあらし データと集め方 統計学を学ぶ意味、データと集め方を理解する。医療における統計学の必要性について説明する。	木村 朗
	第2回	1変数 医療データを用いた1つの事柄を分析するための方法を理解する。平均・中央値・最頻値を理解する。	富田 浩
	第3回	分布の散布度 医療データを用いた分布の散布度、不偏分散を理解する	富田 浩
	第4回	母集団での平均値の推定 割合 医療データを用いた母集団での平均値の推定、正規分布、割合2グループの母割合、母平均の差の検定	富田 浩
	第5回	2グループの母割合、母平均の差の検定 医療データを用いた2グループの母割合、母平均の差の検定を理解する。	富田 浩
	第6回	母集団での平均値の推定 割合 医療データを用いた母集団での平均値の推定、正規分布、割合2グループの母割合、母平均の差の検定	富田 浩
	第7回	母分散が等分散しないときの母平均の差の検定 医療データを用いた母分散が等分散しないときの母平均差の検定を理解する。	富田 浩
	第8回	2変数についての解析 相関図 回帰直線と相関係数 順位データの相関係数 医療データを用いた2変数についての解析 相関図 回帰直線と相関係数 順位データの相関係数を理解する	富田 浩
	第9回	クロス表 医療データを用いたクロス表とカイ二乗値を理解する。	富田 浩
	第10回	分散分析 医療データを用いた分散分析 いくつかの要素の効果を判定するための方法を理解する。	富田 浩
	第11回	その他の分析方法 ノンパラメトリックによる検定 多変量解析 医療データを用いてノンパラメトリックによる検定 多変量解析のあらしを理解する。	富田 浩
	第12回	医療・疫学統計データの理解 コンピュータを使った医療統計 医療データを使った演習1 分割表による検査と疾患データを用いた感度、特異度、尤度のあらしを理解する。	木村 朗
	第13回	コンピュータによる平均値および頻度に関する検定 コンピュータによる平均値および頻度に関する検定 JASPを用いて経験する。	木村 朗
	第14回	コンピュータによる重回帰分析の経験 医療データを使った演習3 JASPを用いて重回帰分析を経験する。	木村 朗
	第15回	コンピュータによる医療統計分析の実際 研究論文を例にどのように医療統計を行っているのかを経験する。統計学の知識がなかった場合に間違った解釈をすることを理解する。	木村 朗
科目の目的	医療に携わる者として、大学教養レベルの統計学の基本的な知識を身につけ、医療に関連する課題に対する正しい統計手法の適応について理解し、生涯にわたり医療における不確実な課題に統計学を応用できる態度を滋養すること。 DPに則した知識・理解に関して医療統計学の基本を学び「多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している」ようになるための知識と能力を身につけること。DP:倫理観と幅広い教養、基本的知識と技術、地域リハビリテーションの理解・問題解決力、自己研鑽・探求力と関連する。		
到達目標	1. 学生はデータの概念を説明できるようになること。 2. 学生は主な統計手法について説明できるようになること。 3. 学生は医療の課題で用いられる代表値と記述統計について統計検定3級程度の問題が解けるようになること。 4. 学生は分散分析、点推定、区間推定、検定について医療研究において頻出する適応例を挙げるができるようになること。 5. 学生は統計ソフトウェアRの基本的な操作をアシスタントツールの操作経験をすること。		

「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力
関連科目	情報処理、基礎統計学、公衆衛生学、卒業研究
成績評価方法・基準	期末時筆記テスト100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・シラバスに示された、初めて聞く単語について、書き出し、ネット等で可能な範囲で内容を理解できるようにしておくこと。予習にかかる目安の時間は微積・統計を高校で履修した者は予習120分、履修していない者は180分程度、授業中にPC操作が完了した者の復習目安時間は120分、それ以上かかった者は本人の能力に応じて120分から180分。
教科書	教科書：ナースのための統計学. 医学書院
参考書	参考サイト：kimuakilabo（JASPとあなたと統計と）、早稲田大学向後研究室統計学集サイト、統計学入門 東大出版会
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	この授業では必ずPC（WindowsでもMACでもよい）、ルート付き電卓（ただし関数電卓の使用は禁止：統計検定試験に準じている）を持参すること。コンピュータの演習ではWifi接続が可能なように準備をしておくこと。
アクティブ・ラーニングの実施	発見学習：実データを用いた統計解析演習を通じて、適切な検定手法を選択する。学生の回答を整理して授業中にフィードバックする。
ナンバリング	PFk-202

講義科目名称： 社会福祉・地域サービス論

授業コード： 5P078

英文科目名称： Social Welfare and Community Services

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
魚屋 真佐江	坂井 勉		

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 社会福祉とは ガイダンス：授業目的、今後の授業の進め方、テキスト説明など 社会福祉の捉え方、社会福祉分野で使われる用語の整理、歴史的系譜、福祉の措置から契約へ (テキストP2からP12まで)</p> <p>第2回 社会福祉の歩み 日本の社会福祉の歩み、欧米の社会福祉の歩み (テキストP13からP28まで)</p> <p>第3回 社会保障制度と社会福祉を展開する組織 社会保障制度の体系、社会保険、公的扶助、社会福祉を展開する組織、社会保障制度をめぐる今後の課題 (テキストP29からP45まで)</p> <p>第4回 子ども家庭福祉 少子化対策、子どもにかかわる法と施策、児童福祉関連施設と専門機関、母子保健、児童虐待、子どもの貧困 (テキストP48からP69まで)</p> <p>第5回 障害者福祉 障害者福祉の考え方、障害者福祉に関する法律、「障害者総合支援法」、障害者虐待 (テキストP70からP88まで)</p> <p>第6回 高齢者福祉 高齢者を取り巻く状況、高齢者を対象とした法制度、高齢者福祉の課題 (テキストP89からP103まで)</p> <p>第7回 介護福祉と介護保険制度 介護保険制度創設の背景、介護保険制度の概要、介護保険制度を支えるケアマネジメントとケアマネージャー、チームアプローチ (テキストP104からP120まで)</p> <p>第8回 低所得者福祉 貧困とは、生活保護制度、生活保護と関連事業、低所得者対策、現状と今後の課題 (テキストP121からP134まで)</p> <p>第9回 地域福祉 地域福祉とは、地域共生社会の実現と地域福祉、地域福祉の推進組織と担い手、地域福祉の推進方法 (テキストP135からP150まで)</p> <p>第10回 医療福祉・精神保健福祉 医療保険制度の概要、保険診療の仕組み、医療機関の機能、医療福祉と専門職、地域医療連携から地域連携へ、医療ソーシャルワーカー、精神保健の定義とおもな精神疾患、精神保健を取り巻く状況、「精神保健福祉法」の概要、「医療観察法」、「障害者雇用促進法」、自殺防止対策、認知症高齢者の現状 (テキストP151からP178まで)</p> <p>第11回 社会福祉施設の役割・社会福祉を担う人々 社会福祉施設の体系、社会福祉施設の推移、社会福祉施設の枠組み、施設の今後の課題、社会福祉従事者の現状と人材確保、社会福祉従事者のおもな職種 (社会福祉専門職・その他の専門職)、社会福祉従事者による連携・協働 (テキストP180からP199まで)</p> <p>第12回 社会福祉の実践事例 他職種連携を基調とした医療ソーシャルワーカーの実践事例から病院における医療ソーシャルワーカーの必要性、実践事例の紹介と考察、他職種連携の必要性と医療ソーシャルワーカーの役割 (テキストP212からP221まで)</p>	<p>魚屋 真佐江</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>坂井 勉</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>坂井 勉</p> <p>坂井 勉</p> <p>魚屋 真佐江</p> <p>坂井 勉</p> <p>魚屋 真佐江</p>

	第13回	相談援助の目的と方法 ―ソーシャルワークの視点から― 社会福祉における相談援助の目的と対象、社会福祉における相談援助者の基本的態度、相談援助の展開方法 (テキストP200からP211まで)	坂井 勉
	第14回	保健医療福祉に関する諸問題 保健医療福祉に関する諸問題の例、保健医療福祉従事者に期待されるおもな役割 (テキストP222からP229まで)	魚屋 真佐江
	第15回	学習内容の振り返りとまとめ 社会福祉について これまでの授業で学習した内容を振り返るとともに、重要事項を再確認する。	魚屋 真佐江
科目の目的	人々の生活を支え健康を守るために、保健医療専門職に求められる「社会福祉の基本的知識」を理解する。具体的には、社会福祉の捉え方や歴史、社会福祉の法や制度・担い手、児童福祉・障害者福祉・高齢者福祉・地域福祉・精神保健福祉等の福祉の各分野についてや、介護保険制度と地域包括システム、相談援助・医療ソーシャルワーク等について学ぶ。それらを通して、保健医療福祉サービスにおける、地域連携・他職種連携など「連携」の意義についても理解を深める。		
到達目標	1. 社会福祉全般について基本的な知識を理解する。 2. 福祉専門職と保健医療専門職の連携と協働の意義と必要性について考える。 3. 医療・介護・福祉サービスを利用する人々の生活と健康を地域で支える一員としての自覚を持つようになる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	多職種理解と医療コミュニケーション、教育学		
成績評価方法・基準	定期試験：全講義終了後に実施する筆記試験（85%） 授業内で記入するリアクションペーパー（15%）←内訳：魚屋10%、坂井5%（次回の授業の冒頭でフィードバック）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に教科書の該当ページを熟読しておく。講義後は教科書や配布資料をもとに学習内容の復習を行う。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマあたり4時間。		
教科書	「コメディカルのための社会福祉概論 第5版（講談社出版）」		
参考書	授業内で随時紹介する		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	Active Academy Advanceにて講義資料を配布する（4日前から当該日まで）。PCにダウンロードして授業に持参すること。		
アクティブ・ラーニングの実施	「本日の授業を通しての学び・疑問」等を授業内でリアクションペーパーに記入する。		
ナンバリング	PFk-203		

講義科目名称： 理学療法概論

授業コード： 5P079

英文科目名称： Introduction to Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義 (10回) ・ 演習 (5回)	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション・イントロ 講義概要の説明・理学療法を知ったきっかけを話題としたグループワーク (GW)	木村 朗
	第2回 理学療法とは1 「理学療法・士とは何か」理学療法の定義と歴史、ルーツの解説 「治らないものを治すとは？」ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第3回 理学療法とは2 理学療法の役割と職域、「理学療法に求められていることは何か」身近な話題からGW GWの結果は授業中に、ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第4回 理学療法とは3 理学療法の対象の理解・身体の不自由な人は、どのように社会と歴史を生きてきたか (小説やドキュメンタリー、映画から感じる障害と考える障害を知る) ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第5回 理学療法とは4 「障害とは」 (社会の中の理学療法、リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第6回 理学療法と社会の関わり 各種理学療法技術の歴史・理学療法を作ってきた人々1・世界の理学療法1 GW GWの結果は授業中に、ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第7回 理学療法技術の歩み1 理学療法を作ってきた人々2・世界の理学療法2 GW GWの結果は授業中に、ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第8回 理学療法技術の歩み2 関連職種の法律と理学療法士法 (医師法・保助看法・理学療法士及び作業療法士法) ・公衆衛生と理学療法	木村 朗
	第9回 理学療法と法律 理学療法の法規 理学療法の実際 (関連施設、学内の理学療法士と語る)	木村 朗
	第10回 理学療法と管理・チームワーク 理学療法士に求められる倫理観 (劇画、映像等) を基に語るGW GWの結果は授業中に、ジャーナルとしてAAAアンケートにこの回の課題をキーワードを挙げて記述させるもの又は感想をもとめる。この結果は次回の授業冒頭で学生のUPした回答の中で共通したメジャーな話題を取り上げフィードバックする。	木村 朗
	第11回 理学療法士のルーツ 1 理学療法 (学) の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。演習	木村 朗
	第12回 理学療法士のルーツ2 理学療法 (学) の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。演習	木村 朗
	第13回 理学療法士のルーツ3 理学療法 (学) の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。演習	木村 朗

	<p>第14回 理学療法士のルーツ4 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。演習</p> <p>第15回 理学療法の実際を知る（実践場面のPVを視聴する） 実践場面の視聴を通して感じたこと、考えたことを授業の最初に考えたことと比べ、話し合う 演習</p>	<p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p>
科目の目的	理学療法士を目指す学生にとって、理学療法の起源として歴史を知ること、および、なぜこのような医療技術かつリハビリテーションの中の行為として発展してきたのかを理解すること。また理学療法士の教育の変遷、職業としての現在、過去未来の我が国の理学療法像のみならず、世界の理学療法を理解することで、生涯にわたり障害のもつ人の課題に取り組む態度を滋養する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は理学療法の定義、対象、業務、歴史、保健医療福祉と社会的役割の点から理学療法を説明できるようになること。 2. 学生は理学療法技術の構成要素が言えるようになること。 3. 学生は今後の学習に必要な学習内容を説明できるようになること。 4. 学生はグループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができるようになること。 <p>学部カリキュラムポリシー1.2. PT学科ポリシー1.2. に含まれる学修であることを理解する。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権	
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法診断学、基礎理学療法診断学演習、日常生活活動学ほか	
成績評価方法・基準	ジャーナル（毎回の講義の振り返り）の提出（10%）、プレゼンテーション（20%）、授業内確認テスト（約70%）ジャーナルの提出後、次回の授業の初めにメジャーかつ共通する修正必要事項について全体的にフィードバックする。個別対応画が必要な場合および自身の回答のフィードバックを個別に欲しい場合、当該週のオフィスアワーにて実施する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各講義題目内容に対し、教科書・参考書の該当部分を読み、理解しづらい単語や概念をノートに記載し、調べておくこと。各回につき予習90分、復習90分程度を必要とする。	
教科書	教科書：理学療法概論テキスト（第4版） 細田多穂他 南江堂	
参考書	参考書：理学療法のルーツ 武富由雄 共同医書出版 参考書：理学療法原論 日本理学療法士協会 資料の配布は講義前にAAAなどでダウンロードするものについて告示する。	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	特になし	
アクティブ・ラーニングの実施	課題を提示するので、それまでに学習した内容を駆使して各自回答を仕上げるセッションを設ける。グループ・ディスカッションを通して理学療法の役割について多角的に討議する。	
ナンバリング	PS1-101	

講義科目名称： 障害と理学療法

授業コード： 5P080

英文科目名称： Disability and Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満			

授業形態	講義15回（探索型学習6回を含む）		担当者
授業計画	第1回	障害者と社会に理学療法ができること1（グループワーク） 提示された障害に関するテーマを社会との観点から討論する	佐藤 満
	第2回	障害者と社会に理学療法ができること2（グループワーク） 障害と社会の討論から理学療法は何ができるかを討論する	佐藤 満
	第3回	障害者と社会に理学療法ができること3（グループワーク） 障害と社会に貢献するためにどの科目での何を学ぶべきかを討論する	佐藤 満
	第4回	障害者と社会に理学療法ができること4（グループワーク） これまでの討論の経過を他者に伝えるという観点を集約する	佐藤 満
	第5回	障害者と社会に理学療法ができること5（グループワーク） これまでの討論の経過を他者に伝えるための視覚提示資料を作成する	佐藤 満
	第6回	障害者と社会に理学療法ができることの発表 討論成果を他者に伝達する。他者のプレゼンテーションを評価する。	佐藤 満
	第7回	疾病の帰結として見た障害・健康の構成要素から見た障害 障害の多面的なとらえ方（国際生活機能分類、国際障害分類、国際疾病分類）	佐藤 満
	第8回	医学モデルと社会モデル 個人の問題としての障害と社会の問題としての障害の観点を理解する	佐藤 満
	第9回	身体構造に関する生活機能と障害 生活機能としての身体構造（神経系、感覚器、発話、呼吸・循環・免疫系、消化器・代謝系、運動に関連した構造）	佐藤 満
	第10回	心身機能に関する生活機能と障害 生活機能としての心身機能（精神、感覚、発話、呼吸・循環・免疫、消化器・代謝系、神経筋骨格と運動に関連した機能）	佐藤 満
	第11回	活動に関する生活機能と障害 生活機能としての活動を理学療法の観点から理解する	佐藤 満
	第12回	参加に関する生活機能と障害 生活機能としての参加を理学療法の観点から理解する（家庭生活、対人関係、生活領域、コミュニティライフ）	佐藤 満
	第13回	環境因子と生活機能および障害 生活機能の背景因子としての環境を理学療法の観点から理解する	佐藤 満
	第14回	個人因子と生活機能および障害 生活機能の背景因子としての個人的因子を理学療法の観点から理解する（興味、価値、自己効力感、コーピング）	佐藤 満
	第15回	ICFを用いた理学療法評価と課題設定 ICFコアセットの概念と理学療法の観点から見た活用方法を理解する	佐藤 満
科目の目的	障害の概念をICF（国際生活機能分類）で理解するために、理学療法の対象者として代表的な疾患群（骨関節障害・神経系障害・呼吸循環代謝系障害）での障害をICFの第2レベル、第3レベルの分類、およびICFコアセットから学ぶ。		
到達目標	1. ICFの生活機能各ドメインと因子の概念図の関係性を説明できる 2. ICFの生活機能各ドメインと因子と内容と特徴を説明できる 3. 心身機能、身体構造、活動と参加、環境因子の第2レベル分類を用いて模擬症例の状態を説明できる 4. ICFコアセットを用いて模擬症例の状態を説明できる		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権		
関連科目	基礎となる科目・・・理学療法概論 将来繋がる科目・・・全ての専門科目		
成績評価方法・基準	定期試験（70%）と授業内課題（30%）で評価する。課題は授業中に模範解答を、プレゼンテーションはフィードバックを提示する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ICFテキストの各回該当部分の復習と事前学習（あわせて180分程度）		
教科書	教科書；ICF国際生活機能分類－国際障害分類改訂版．障害者福祉研究会（編）、中央法規出版		

参考書	特になし
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	特になし
アクティブ・ラーニングの実施	実施している（障害者やそれらの方への社会的支援に関する探索学習）
ナンバリング	PS1-102

講義科目名称： 理学療法総合演習

授業コード： 5P081

英文科目名称： General Practice of Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富田 浩			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-401	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	富田 浩（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）、鈴木 学（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、橋口 優（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）	
授業の概要	これまでの学習した理学療法の対象、評価法、介入法について、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ及びⅡでの経験を基に、理学療法の基礎、及び各専門分野の総合的な復習と、知識技術の統合を行う。また、今後職業として実践する理学療法について整理・統合するとともに、専門職としての理学療法のあり方、理学療法研究の意味を確認する。	

講義科目名称： 理学療法研究論

授業コード： 5P082

英文科目名称： Physiotherapy Research

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
加茂 智彦	田辺 将也		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-301	

講義科目名称： 障害者スポーツ・レクリエーション論

授業コード： 5P083

英文科目名称： Adapted Sports and Recreation Therapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
城下 貴司			

授業形態	講義（10コマ）、演習（5コマ）	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション、概論：障がい者スポーツとは（講義） 授業の紹介	城下 貴司
	第2回 概論：障がい者スポーツとは（講義）	城下 貴司
	第3回 障がい者スポーツに関する諸施策（講義） 関連法律、障害者手帳とその判定などの福祉制度と障がい者スポーツの位置づけ（障がい者スポーツに関する施策）とそれに関わる施策の動向について学ぶ。	城下 貴司
	第4回 障がい者スポーツの意義と理念（講義） 障がい者スポーツの定義や社会的役割を学ぶ上で、障がい者にとってのスポーツの意義と理念を理解する。	城下 貴司
	第5～7回 各障がいの理解（講義） 各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。	城下 貴司
	第8回 障がい者スポーツ推進の取り組み（講義） 障がい者スポーツ指導者制度を紹介し、資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等へ積極的に関わられるように、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。	城下 貴司
	第9回 全国障害者スポーツ大会概要（講義） 全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。	城下 貴司
	第10回 スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質（講義） ボランティアとは、その魅力、心得について学ぶ→障害者スポーツ指導者制度を紹介する	城下 貴司
	第11, 12回 障がいに応じたスポーツの工夫（演習） 障害に応じたスポーツの工夫を考え実技をする 例）車椅子に乗車してのボールパスなど	城下 貴司
	第13～15回 障がい者との交流（演習） シドニーパラリンピック銅メダリスト塚本京子さん上村知佳さんをゲストスピーカーに招聘し交流をする	城下 貴司
科目の目的	「障害のない人はスポーツをした方がよいが、障害がある人はスポーツをしなければならない」というHeinz Freiの言葉からも障害者にとってスポーツは必修である、その障害者のためのスポーツを理学療法の立場から、その基地知識を学ぶ。	
到達目標	各々の障害レベルに合わせたスポーツ指導を体験する	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	【教養科目群】心理学、生命倫理、スタディ・スキルズ、アカデミック・スキルズ、地域ボランティア活動論 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ、人間発達学、神経内科学、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、リハビリテーション概論、臨床心理学 【専門科目群】安全管理、運動機能系理学療法診断学演習、神経機能系理学療法診断学演習、内部機能系理学療法診断学演習、運動機能系理学療法治療学演習、脊髄疾患理学療法学、スポーツ理学療法学、神経機能系理学療法治療学、神経機能系理学療法治療学演習、内部機能系理学療法学演習、発達支援理学療法学、作業療法理論	
成績評価方法・基準	課題レポート100% 課題レポートはA, B, C判定をつけてフィードバックをする ただし、「公認パラスポーツ指導者」の資格所得のためには欠席すると認定できないので注意する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に1時間（実時間45分）程度の前回の授業の復習することを推奨する	

教科書	特になし
参考書	参考書：障害者スポーツ指導教本 初級・中級 新刊 株式会社ぎょうせい 参考書：全国障害者スポーツ大会競技規則集（解説付）公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	ボランティア体験をレポートとするため、ボランティアに参加する意思がないものは履修しないこと。実技がある動きやすい服装で望むこと。下記単位を取得し、かつ授業を全て出席した場合、「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」に「障がい者スポーツ指導員初級」を申請、登録費用を納めることにより資格取得が可能となる。 《取得要件科目》 科目名，開講学年・学期，必修・選択 科目名，開講学年・学期，必修・選択 「障害者スポーツ・レクリエーション論」，1学年・前期，選択 「コミュニケーション学入門」，1学年・前期，選択 「安全管理」，3学年・後期，必修 「脊髄疾患理学療法学」，3学年・前期，必修 「発達支援理学療法学」，3学年・前期，必修 「精神医学」，2学年・前期，必修
アクティブ・ラーニングの実施	各種の身体障害の障がい者スポーツを体験学習をする。
ナンバリング	PS1-103

講義科目名称： 生体計測工学

授業コード： 5P084

英文科目名称： Biomeasurement Engineering

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
富田 浩			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-302	

講義科目名称： 支援工学

授業コード： 5P085

英文科目名称： Wellbeing Science and Assistive Technology

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 満			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-303	

講義科目名称： 国際理学療法学

授業コード： 5P086

英文科目名称： International Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
富田 浩	黒川 望	橋口 優	

授業形態	講義と演習（発表）	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス 海外へ行こう	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第2回 World Physiotherapy について学ぼう1 理学療法の国際的組織について学ぶ	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第3回 World Physiotherapy について学ぼう2 理学療法の国際的組織について学ぶ	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第4回 自分と自国，そして他国を知る1 海外で，自分や自国の紹介をする．相手国の概要を知る．	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第5回 自分と自国，そして他国を知る2 海外で，自分や自国の紹介をする．相手国の概要を知る．	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第6回 自分と自国，そして他国を知る3 海外で，自分や自国の紹介をする．相手国の概要を知る．	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第7回 理学療法世界地図を作ろう1 理学療法各分野の歴史や地域性について調べる	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
	第8回 理学療法世界地図を作ろう2 理学療法各分野の歴史や地域性について調べる	富田 浩・ 橋口 優・ 黒川 望
科目の目的	大学の一つの目的「国際社会へ貢献できる人材育成」に基づき、世界に通じる豊かな人間性と幅広い教養、国際的諸問題への関心と国際的に通じる専門知識、また異文化、他言語でのコミュニケーション能力の向上に資するために海外研修プログラムが組まれている。現地の学生や教師と直接交流するプログラムでは、たとえ片言の英語でも専門用語を使ってコミュニケーションを図ることが肝心で、それを実現するために科目「国際理学療法」を設けた。	
到達目標	1. 他国で自己紹介および自国の紹介ができる。 2. 訪問国についてその国とその国の医療・保健・福祉の特徴およびリハビリテーション・理学療法について調べることができる。 3. 世界における理学療法の展開について説明することができる。 4. 基本的な解剖学・運動学・理学療法の用語（英語）が使える。 5. 翻訳ソフトなどを利用し、英語でのプレゼンテーションができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目	英語リーディング、医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話	
成績評価方法・基準	成果物（プレゼンテーション資料・スライド・その他の課題），および，授業内での発表内容について教員が評価する（100%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習（授業準備）、復習（課題の実施）を合わせて180分程度の時間が必要である。	
教科書	適宜，資料を共有する（WEB上）。	
参考書	「リハビリテーション英会話」三木貴弘、他 メディカルビュー	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	

履修条件・履修上の注意	授業資料や課題の作成・共有，教員への課題提出は，すべてWEB上で行います．授業中にも作業を行うため，授業にはパソコン（またはタブレット端末）を必ず持参してください．
アクティブ・ラーニングの実施	作成した資料（スライド）を用い，日本語および英語による発表を行い，学生同士でコメントし合う．
ナンバリング	PS1-201

講義科目名称： 行動科学とりハビリテーション

授業コード： 5P087

英文科目名称： Behavioral Science and Rehabilitation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
岡崎 大資			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-304	

講義科目名称： 事例研究法

授業コード： 5P088

英文科目名称： Case Study Methods

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
村田 和香			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-305	

講義科目名称： 理学療法研究演習

授業コード： 5P089

英文科目名称： Physiotherapy Research Seminar

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡崎 大資			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-306	

講義科目名称： 卒業研究

授業コード： 5P090

英文科目名称： Graduation Studies

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PS1-402	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	木村 朗（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、鈴木 学（理学療法士）、富田 浩（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、橋口 優（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）	
授業の概要	卒業後、自ら研究する姿勢と能力を養うことを目的に、専門科目担当教員の指導の下、テーマを定めて研究に取り組む。具体的には、研究の必要性の理解、研究課題の設定、文献検索、具体的研究テーマと目的の設定、研究方法の選択（実験研究、臨床研究）、倫理的配慮、研究計画書の作成、データの収集・集計・分析・考察、論文作成して発表する。	

講義科目名称： 理学療法管理学

授業コード： 5P091

英文科目名称： Physiotherapy Management

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 学	江口 勝彦		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSm-301	

講義科目名称： 安全管理

授業コード： 5P092

英文科目名称： Safety Management

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
田代 尚範			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	単位取得後、「公益財団法人日本パラスポーツ協会」の所定の手続きをとることで、公認パラスポーツ指導員初級の申請が可能になる科目のひとつである。詳細は学生便覧「履修の手引き」を参照すること。	
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSm-302	

講義科目名称： 理学療法診断学

授業コード： 5P093

英文科目名称： Physiotherapy Diagnostics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
加茂 智彦	黒川 望	橋口 優	

授業形態	講義3回、演習12回	担当者
授業計画	<p>第1回 【講義】 理学療法診断の概念・目的</p> <p>第2回 【講義】 理学療法における診断の種類（時期と対象）、問題解決のための評価過程 講義</p> <p>第3回 【講義】 一般的評価項目、意識障害</p> <p>第4回 【演習】 バイタルサイン、形態計測 血圧、脈拍、形態測定</p> <p>第5回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）1</p> <p>第6回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）2</p> <p>第7回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）3</p> <p>第8回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）4</p> <p>第9回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）5</p> <p>第10回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）1</p> <p>第11回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）2</p> <p>第12回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）3</p> <p>第13回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）4</p> <p>第14回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）5</p> <p>第15回 【演習】 関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）6</p>	<p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦・黒川望・橋口優</p> <p>加茂 智彦・黒川望・橋口優</p> <p>黒川 望</p> <p>黒川 望</p> <p>黒川 望</p> <p>黒川 望</p> <p>加茂 智彦・黒川望・橋口優</p> <p>加茂 智彦・黒川望・橋口優</p>
科目の目的	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。</p> <p>2. 一般的評価事項および形態測定、関節可動域測定の知識と技術を取得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学療法ゴールを決定する方法や課程を理解している。 ・体格、四肢長、四肢周径の計測方法、関節角時計を用いた関節可動域検査法を実施できるようにすること。 	
到達目標	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、その過程を言及できる。</p> <p>2. 理学療法評価の基礎的知識、技術を理解することができる。</p> <p>3. 形態測定、関節可動域測定を中心とした検査測定および評価項目が実施できる。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、運動学、臨床運動学、理学療法概論、表面解剖学と触診法、基礎理学療法診断学演習、基礎運動療法、運動機能系理学療法診断学演習・治療学演習、神経機能系理学療法診断学演習・治療学演習、内部機能系理学療法診断学演習・治療学演習、見学実習、評価学実習、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験（40%）、授業内筆記試験（20%）、授業内実技試験（40%）	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	身体ランドマーク、関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域を演習実施までに全て暗記すること。 各演習前には必ず実技の予習を、各演習後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。 必要な学習時間の目安は、1コマあたり60分。
教科書	「理学療法評価学第6版補訂」松澤正、江口勝彦著（金原出版）
参考書	特に指定しない。理学療法評価に関する書籍全般。
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	演習時は測定しやすい・されやすい服装、測定器具を準備する。
アクティブ・ラーニングの実施	実施なし
ナンバリング	PSn-101

講義科目名称： 基礎理学療法診断学演習

授業コード： 5P094

英文科目名称： Elementary Practice in Physiotherapy Diagnostics of Motor Function

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
黒川 望	浅田 春美	加茂 智彦	林 翔太
授業形態	講義（4回）、演習（11回）		
担当者			
授業計画	<p>第1回 【講義1】 総論1 理学療法における記録方法と情報収集/筋力測定の意義と目的</p> <p>第2回 【講義2】 総論2 骨格筋の運動生理</p> <p>第3回 【講義3】 総論3 徒手筋力検査法の基礎知識</p> <p>第4回 【演習1】 各論1 徒手筋力検査測定演習：基礎知識の確認、実技の導入</p> <p>第5回 【講義4】 総論4 臨床で求められるセラピストとしての接遇</p> <p>第6回 【演習2】 各論2 徒手筋力検査測定演習：股関節</p> <p>第7回 【演習3】 各論3 徒手筋力検査測定演習：股関節・膝関節</p> <p>第8回 【演習4】 各論4 徒手筋力検査測定演習：足関節・足指</p> <p>第9回 【演習5】 各論5 徒手筋力検査測定演習：体幹・骨盤、胸腰部</p> <p>第10回 【演習6】 各論6 徒手筋力検査測定演習：前半のまとめ</p> <p>第11回 【演習7】 各論7 徒手筋力検査測定演習：肩関節</p> <p>第12回 【演習8】 各論8 徒手筋力検査測定演習：肘関節・前腕</p> <p>第13回 【演習9】 各論9 徒手筋力検査測定演習：手関節・手指</p> <p>第14回 【演習10】 各論10 徒手筋力検査測定演習：肩甲帯・頭頸部</p> <p>第15回 【演習11】 各論11 徒手筋力検査測定演習：後半のまとめ</p>		
科目の目的	解剖学・運動学で学んだ知識を再確認しながら、筋力検査の方法について理論と技術を学ぶ。評価技術の基本となる筋力検査として徒手筋力検査(MMT)を中心に学習し、1年時に学習した基本的な検査・測定技術を再確認し、確実に習得することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理学療法の記録や患者オリエンテーションの内容を臨病的に適切な言動や態度で説明できる。 2. 筋力検査の目的・意義・代表的な測定方法を説明できる。 3. MMTを実施できる（注意点や代償運動を説明できることを含む）。 4. 形態測定・関節可動域測定・筋力測定を他者に実施できる。 		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	運動器解剖学、表面解剖学と触診法、生理学Ⅰ・Ⅱ、生理学演習、運動学、運動学演習、理学療法概論、理学療法診断学、運動機能系理学療法診断・治療学演習、神経機能系理学療法診断・治療学演習、内部機能系理学療法診断・治療学、見学実習、評価学実習、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験(7割)及び実技試験(3割)とする。筆記試験を成績判定の基礎とするが、そのためには実技試験の合格が前提となる。		

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習が始まるまでに作用する筋の起始・停止、神経支配、髄節を全て復習しておくこと。各演習の前には必ず実技の予習を行うこと。授業後、予習と合わせて復習も行うこと。（予習・復習の目安：1コマあたり1時間） 講義の部分においては、アクティブアカデミーにより資料を事前配付する（配付期間：前回授業翌日から当該日まで）。各自印刷あるいはPCにダウンロードの上、授業に持参すること。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「理学療法評価学 第6版補訂版」松澤 正著（金原出版株式会社） ・「図解 運動の神経生理学」藤原勝夫・清田直恵 編著（北國新聞社） ・「新・徒手筋力検査法 原著第10版」Dale Avers, Marybeth Brown 著，津山直一・他訳（協同医書出版社）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「PT・OTのための測定評価DVD series3 MMT-頭部・頸部・上肢 第2版」伊藤 俊一監修（三輪書店） ・「PT・OTのための測定評価DVD series4 MMT-体幹・下肢 第2版」伊藤 俊一監修（三輪書店）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	演習時は検査しやすい・されやすい服装を準備すること。詳細は初回講義にて説明する。
アクティブ・ラーニングの実施	アクティブアカデミーアドヴァンスを用いて授業後に復習ポイントを提示する。
ナンバリング	PSn=201
実務経験のある教員による授業	
実務経験	黒川 望（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）
授業の概要	対象者の問題を解決するための理学療法的前提は的確な理学療法診断がなされることであり、理学療法ゴールと方針が導かれる礎となるものである。演習では、理学療法評価を含む記録方法について学び、適切な評価項目の選定も含め科学的な評価の考え方を理解する。技術としては、人間の動きを生み出す力源である筋力の測定方法について重点的に学ぶ。具体的には徒手筋力検査法及び筋力検査機器による測定方法を習得する。

講義科目名称： 運動機能系理学療法診断学演習

授業コード： 5P095

英文科目名称： Practice in Physiotherapy Examination of Musculoskeletal Function

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
城下 貴司	田辺 将也		
授業形態	講義（6コマ）、演習（9コマ）		
授業計画	担当者		
第1回	オリエンテーション 運動機能系理学療法診断学の概念（講義） 科目の概要・講義スケジュール ボディーチャートの使い方、運動器疾患とその評価法、		城下 貴司
第2回	外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷、腱損傷、筋損傷）のメカニズムと理学療法診断の概論 外傷疾患の基本的なメカニズムと理学療法診断学の概論について講義する		田辺 将也
第3回	運動機能系理学療法診断学の総論、主観的評価と客観的評価（講義）＋上肢の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり ボディーチャートを中心に実技と講義を行う、下肢に対する機能診断学の演習を行う。 ボディーチャートを中心に実技と講義を行う、下肢に対する機能診断学の演習を行う。 ボディーチャートを中心に実技と講義を行う、上肢に対する機能診断学の演習を行う。 ボディーチャートを中心に実技と講義を行う、下肢に対する機能診断学の演習を行う。 ボディーチャートを中心に実技と講義を行う、下肢に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第4回	運動機能系理学療法診断学の総論、主観的評価と客観的評価（講義）＋上肢の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら上肢に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第5回	上肢の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら上肢に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第6回	痛みのメカニズムと理学療法 講義 痛みのメカニズムについて、生理学的メカニズムを基本に理学療法診断学を講義する		城下 貴司
第7回	下肢の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら下肢に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第8回	下肢の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら下肢に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第9回	下肢の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら下肢に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第10回	末梢神経損傷の概論 末梢神経損傷概論について解剖学から講義する		田辺 将也
第11回	脊柱の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら脊柱に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第12回	脊柱の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら脊柱に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第13回	関節リウマチ(RA)の理学療法診断学概論 関節リウマチ(RA)の理学療法診断学について概論		田辺 将也
第14回	脊柱の運動機能系理学療法機能診断学 実技 事前課題あり 課題についてフィードバックしながら脊柱に対する機能診断学の演習を行う。		城下 貴司
第15回	学修を深めるための演習問題（中間テスト）（演習） 今までの課題から記述問題を作成し、課題の再々復習を促す。		田辺 将也
科目の目的	レントゲンやMRIといった画像診断等を手掛かりにした病態診断は医師が担当する、理学療法士は運動機能系の基礎を理解した機能診断を担当する。本授業は基本的な運動器疾患に対する理学療法機能診断学を学ぶことを目的とする。		
到達目標	運動機能診断学の基礎を理解し、基本的な症状ごとの理学療法機能診断が遂行できる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、表面解剖学と触診法、生理学ⅠおよびⅡ、運動学、臨床運動学、運動学演習、整形外科学、理学療法診断学、基礎理学療法診断学演習、運動機能系理学療法治療学演習、脊髄疾患理学療法、スポーツ理学療法学、障害者スポーツ・レクリエーション論		

成績評価方法・基準	定期試験80%、中間試験10%、課題レポート10% 定期試験は100点満点で実施するが80点満点に換算する、中間試験は100点満点で実施するが10点満点に換算する、課題はすべて期限内に提出されていれば10点満点とする。合算したのちに100点満点に換算して成績評価を行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学修に1時間（実時間45分）程度は必要となる。
教科書	教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 上肢編 2版 ブイツーツリビューション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 下肢編 2版 ブイツーツリビューション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 脊柱編 2版 ブイツーツリビューション 星雲社 教科書：井樋 栄・津村 弘：標準整形外科学 16版 医学書院 教科書：中村隆一ほか 基礎運動学 医歯薬出版 教科書：金子丑之助 日本人体解剖学 上巻 南山堂 教科書：金子丑之助 日本人体解剖学 下巻 南山堂 教科書：林 典雄 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス上肢 改定第2版 メジカルビュー社 教科書：林 典雄 運動療法のための機能解剖学的触診技術 動画プラス下肢 改定第2版 メジカルビュー社
参考書	参考書：松澤 正ほか 理学療法評価学改訂第6版（金原出版株式会社） 参考書：「新・徒手筋力検査法 原著第8版」Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著，津山直一・他訳（協同医書出版社）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	授業範囲は広範となる、独自に授業ノートを作成し知識を整理しておくこと。 講義資料があるときは講義の前日までに603研究室前引出しにあるので週番が取りに来て全員に配布しておくこと。実技練習を複数回実施する、実技の出来る服装で臨むこと。
アクティブ・ラーニングの実施	第2回から13回まで授業は反転授業形式を基本とする。
ナンバリング	PSn-202
実務経験のある教員による授業	
実務経験	城下 貴司（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）
授業の概要	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系（骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織）の疾患・障害の理学療法評価学を学ぶ。具体的には、筋力検査や関節可動域検査などの基本的な運動器の検査技術の理解の上に立ち、運動器系疾患・障害に固有な検査・測定方法、患者立脚型機能評価質問票、日本整形外科学会の判定基準、骨・関節や筋及び軟部組織のX線やMRI及び超音波による画像による評価技術を講義と実技を通じて学ぶ。

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習（30分）：次回扱う検査や解剖学的知識について、配布資料を用いて①領域の分類、②評価対象、③判定の目安、④解剖学的名称などを確認する。</p> <p>復習（30分）：授業で扱った検査について、配布資料を用いて①使用物品や下位項目、②判定方法、③結果の解釈などを確認する。</p>
教科書	「イラストでわかる 中枢神経障害理学療法」上杉雅之（監）、医歯薬出版株式会社 「病気がみえる Vol.7 脳・神経 第2版」尾上尚志（監）、メディックメディア パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定
参考書	「標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学」森岡周（編）、医学書院 「脳卒中治療ガイドライン 2021【改訂2025】」、日本脳卒中学会（編）、株式会社協和企画 「図解 理学療法技術ガイド 理学療法臨床の場で必ず役立つ実践のすべて」、市橋則明（編）、文光堂
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	演習時は測定しやすい・されやすい服装、測定器具を準備する。
アクティブ・ラーニングの実施	グループディスカッション、問題解決学習（PBL）
ナンバリング	PSn-203
実務経験のある教員による授業	
実務経験	林 翔太（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）
授業の概要	中枢神経系疾患および末梢神経疾患に生じる障害を評価する検査法と、検査結果を如何に統合解釈し、問題点の抽出、目標設定していくかを学習する。具体的には、片麻痺機能テスト、筋緊張検査、深部腱反射検査、病的反射検査、感覚検査、バランス検査、協調性検査、高次脳機能検査、脳画像検査などを取り上げ、それらの検査の意義、正常と異常の違いなどを学習する。さらに各種検査所見を統合し、その結果から問題点の抽出、目標設定を行う能力を養う。

講義科目名称： 内部機能系理学療法診断学演習

授業コード： 5P097

英文科目名称： Practice in Physiotherapy Examination of Cardiovascular...

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
田代 尚範	木村 朗		
授業形態	講義10回 演習3回 実技2回		
担当者			
授業計画	<p>第1回 呼吸器疾患の現状、呼吸器の概要、呼吸器系解剖学 社会における呼吸器疾患の位置づけを疫学的視点から考察し、呼吸リハビリテーションの必要性を説明する。 呼吸に關与する骨・筋、肺の形態、構造を理解し、その機能から呼吸のメカニズムを的確に把握する。</p> <p>第2回 呼吸器系の運動生理学、呼吸不全 呼吸器の解剖学的・生理学的知識を学び、胸郭の構造と胸郭運動の特徴から呼吸のしやすさ・しにくさを運動学的に理解する。さらに、換気やガス交換の意味とメカニズム、血液ガスの正常値とその異常によって生じる病態、呼吸不全の定義とガス交換障害と換気障害の違い、呼吸不全を呈する代表的な呼吸器疾患の発生機序や身体症状、そして呼吸困難の症状や呼吸困難感について理解する。</p> <p>第3回 呼吸リハビリテーションにおける評価① 呼吸リハビリテーションにおける評価の目的を理解し、必要な情報収集の内容を把握する。フィジカルアセスメントの内容を理解し適切に実施する。</p> <p>第4回 呼吸リハビリテーションにおける評価② 呼吸不全患者に適したADL・QOLの評価法や、運動負荷試験の意義・目的、適応について理解する。呼吸困難感の評価スケールについて理解する。呼吸器疾患の胸部X線画像やCT画像などの画像所見の基本を理解する。</p> <p>第5回 呼吸リハビリテーションにおける評価③(演習) 肺気量分画を理解し、呼吸機能検査を適切な手順で実施、その結果を正しく解釈する。</p> <p>第6回 吸引(実技) 吸引の手技を理解する。</p> <p>第7回 循環器系の運動生理学 心不全を呈する疾患とその病態の特徴を把握し、循環器系理学療法の目的を理解する。</p> <p>第8回 循環器系の理学療法の評価① フィジカルアセスメント(実技)</p> <p>第9回 循環器系の理学療法の評価② 臨床心電図の読解①、運動負荷試験(演習)</p> <p>第10回 循環器系の理学療法の評価③ 臨床心電図の読解②</p> <p>第11回 循環器系の理学療法の評価④ 臨床心電図の読解③および基本的な治療のあらまし</p> <p>第12回 代謝系の代表疾患 糖尿病 糖尿病の疫学、合併症 糖尿病の病態の特徴を把握し、代謝系理学療法の目的を理解する。</p> <p>第13回 代謝系の理学療法の評価① 血糖コントロールのあらまし 食事と運動・身体活動、PTと強く関連する臨床検査、薬物療法</p> <p>第14回 代謝系の理学療法の評価② 自己血糖測定のあらまし(演習)</p> <p>第15回 代謝系の理学療法の評価③ 糖尿病の運動処方、運動療法の目的、意義、方法について概要を理解する。</p>		
科目の目的	本科目は、患者に対し、内部機能系疾患に対する治療およびリハビリテーションにおいて必要な評価項目を選択し、適切に実施できる能力を身に付ける。		
到達目標	呼吸・循環・代謝を運動学、解剖学、生理学の知識で理解し、その運動を構造的側面、機能的側面で説明することができる。 内部機能系疾患患者に対する運動療法・リハビリテーションの標準的な検査測定・評価法・リハビリテーションの適応と禁忌の判断、リスク管理、理学療法に対する効果判定を説明することができる。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		

ド	
関連科目	
成績評価方法・基準	成績評価は授業内で行う小テスト(10%)、定期試験(90%)とする。小テストはそれまでの学習の確認テストに位置付ける。試験範囲は事前に授業内で連絡する。定期試験の試験範囲は全ての範囲とする。また講義資料だけでなく、講義内容、教科書の指定範囲を含める。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	呼吸・循環・代謝に関する解剖学、生理学、内科学等の一般医学の復習、授業前後の予習・復習合わせて90分程度。 事前に各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていた内容について調べること、講義内で分からなかった用語については、講義後に適宜調べること。
教科書	教科書：内部障害理学療法学 高橋哲也 編著（医歯薬出版）
参考書	参考書：「標準理学療法 運動療法総論」（医学書院）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	なし
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習やグループディスカッションを中心に各課題が与えられる。
ナンバリング	PSn-204
実務経験のある教員による授業	
実務経験	田代 尚範（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）
授業の概要	呼吸・循環・代謝系の病態に対して、カルテ情報や画像情報・問診・観察によって標準的な理学療法の適応判断が求められる生理的機能、心理的影響等において理学療法士が行う診断学を学習する。内部疾患に対して病態改善のみならず、合併症として運動負荷によるリスクが生じる状況について固有の検査・測定技術・評価データの解釈、内部機能を改善する理学療法を学ぶ。

講義科目名称： 高次脳機能評価学

授業コード： 5P098

英文科目名称： Higher Brain Disfunction Assessment

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
竹原 敦			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSn-301	

講義科目名称： 基礎運動療法

授業コード： 5P099

英文科目名称： Basic Therapeutic Exercise

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
田辺 将也	加茂 智彦		

授業形態	講義12回、演習3回	担当者
授業計画	<p>第1回 【講義】オリエンテーション、運動療法の概念と実際 運動療法の概要</p> <p>第2回 【講義】関節可動域運動 関節可動域の異常</p> <p>第3回 【講義】関節可動域運動 関節可動域運動の種類</p> <p>第4回 【演習】関節可動域運動 関節可動域運動の実際（上肢、下肢の関節）</p> <p>第5回 【講義】ストレッチング ストレッチングの理論、注意点</p> <p>第6回 【演習】ストレッチング ストレッチングの実際</p> <p>第7回 【講義】筋力増強運動 随意運動のメカニズム</p> <p>第8回 【講義】筋力増強運動 筋力の異常・廃用症候群</p> <p>第9回 【講義】筋力増強運動 筋力増強運動および持久力運動</p> <p>第10回 【講義】バランスの獲得・改善 バランスの構成要素</p> <p>第11回 【講義】姿勢保持の改善 姿勢観察および異常姿勢の影響</p> <p>第12回 【講義】基本動作の獲得・改善 基本動作の獲得・改善の進め方</p> <p>第13回 【講義】協調性運動 協調性運動の概要</p> <p>第14回 【演習】バイタルチェック バイタル正常値理解および測定</p> <p>第15回 【講義】リスク管理 運動療法実施時の注意点など</p>	<p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也・加茂 智彦</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也・加茂 智彦</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p> <p>田辺 将也</p>
科目の目的	<p>運動療法の概念と基礎知識、運動の種類、基本的な運動療法の知識を習得し、基本的な運動療法の技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健医療専門職としての基本的知識と、社会人としての教養を身につけている。 多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。 自己研鑽に励み、わからないことを明らかにしようとする探求力を身につけている。 	
到達目標	<p>基本的な運動療法の種類と目的、実施上の注意点を説明でき、関節可動域運動・ストレッチング・筋力増強運動を目的に応じて選択できる。また、バイタルサイン等を踏まえて、安全に実施するための判断ができる。</p>	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	<p>専門知識と基本的技術</p>	
関連科目	<p>健康スポーツ理論、健康スポーツ実技、多職種理解と医療コミュニケーション、運動器解剖学、臓器解剖学、表面解剖学と触診法、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ、生化学、運動学、病理学、理学療法診断学、解剖学演習、生理学演習、臨床運動学、運動学演習、人間発達学、臨床検査・画像診断学演習、臨床医学関連領域論、内科学、整形外科学、神経内科学、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、臨床心理学、基礎理学療法診断学演習、運動機能系理学療法診断学演習、神経機能系理学療法診断学演習、内部機能系理学療法診断学演習、運動機能系理学療法治療学演習、神経機能系理学療法治療学、物理療法学、日常生活活動学、救急・免疫・感染症学、理学療法研究論、生体計測工学、支援工学、理学療法管理学、安全管理、高次脳機能評価学、脊髄疾患理学療法学、神経機能系理学療法治療学演習、内部機能系理学療法治療学演習、身体活動学、発達支援理学療法学、理学療法関連領域論、物理療法学演習、義肢装具学、スポーツ理学療法学、高齢者理学療法学演習、リハビリテーション栄養学、福祉機器論、作業療法理論、理学療法総合演習、見学実習、評価学実習、地域理学療法実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ</p>	

成績評価方法・基準	小テスト（20%）期末テスト（80%）※小テストは実施後に採点し、即時に自身の結果がわかるようにする
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回授業範囲の教科書内の内容を事前に読み、理解しておくこと。各演習の前には必ず実技の予習を、各演習の後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。必要な学習時間の目安は1コマあたり180分程度。
教科書	教科書： 「標準理学療法学専門分野運動療法学総論」吉尾雅春編集（医学書院） 「運動療法学」柳澤健編集（金原出版） 「基礎運動学」中村隆一、齋藤宏、長崎浩著（医歯薬出版）
参考書	参考書： 「理学療法ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学」柳澤健編（メジカルビュー社） 「Crosslink理学療法学テキスト」対馬栄輝編集（メジカルビュー社）
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	演習時は運動療法に適した服装を準備する。講義資料は前日までにAAAにて配布予定。印刷・ダウンロードは任意の方法でかまわない。
アクティブ・ラーニングの実施	双方向性の学習や体験学習を交えながら授業を展開する。
ナンバリング	PSo-201

講義科目名称： 運動機能系理学療法治療学演習

授業コード： 5P100

英文科目名称： Practice in Physiotherapy approach for Musculoskeletal Diseases

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
城下 貴司	青木 章乃		
授業形態	講義 (12.5コマ)、演習 (2.5コマ)		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション と 事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 外傷性骨盤骨折	城下 貴司
	第2回	外傷性股関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 外傷性股関節脱臼と脱臼骨折、大腿骨頭骨折	城下 貴司
	第3回	外傷性股関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 外傷性大腿骨頸部骨折、大腿骨転子部骨折	城下 貴司
	第4回	外傷性股関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 大腿骨転子下骨折+大腿骨疾患 (大腿骨骨幹部骨折 (小児込み))	城下 貴司
	第5回	外傷性膝関節および下腿部疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 大腿骨顆上・顆部骨折、膝蓋骨骨折、外傷性膝関節脱臼、外傷性膝蓋関節脱臼、膝関節部の骨軟骨骨折、脛骨近位端骨折、下腿骨折	青木 章乃
	第6回	外傷性足関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 果部骨折、脛骨天蓋骨折、外傷性足関節脱臼、距骨骨折と距骨の脱臼、踵骨骨折、Lisfranc関節の脱臼と脱臼骨折、中足骨折	城下 貴司
	第7回	外傷性肩関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 外傷性肩関節部の骨折と脱臼、肩甲骨骨折、外傷性肩関節脱臼、外傷性肩鎖関節脱臼、上腕骨近位端骨折、上腕骨骨幹部骨折	城下 貴司
	第8回	外傷性肘関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 上腕骨顆上骨折 (主に小児)、上腕骨外側顆骨折 (主に小児)、上腕骨内側上顆骨折	城下 貴司
	第9回	肩関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) インピンジメント、石灰性腱炎、腱板断裂、凍結肩、上腕二頭筋長頭腱炎	城下 貴司
	第10回	股関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 変形性股関節症、大腿骨頭壊死症	城下 貴司
	第11回	股関節の手術療法：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 大腿骨内反骨切り術 大腿骨外反骨切り術 臼蓋形成術 キアリ骨盤骨切り術 寛骨臼回転骨切り術人工股関節置換術 (THA)→セメント、セメントレス	青木 章乃
	第12回	膝関節疾患 (成長障害)：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 離断性骨軟骨炎 オスグット・シュラッター病 Sinding Larsen-Johansson ジャンパー膝 有痛性分裂膝蓋骨	青木 章乃
	第13回	膝関節疾患 (変形性膝関節症)：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 変形性膝関節症	青木 章乃
	第14回	足関節疾患：事前課題あり、その課題に対して詳細なフィードバックと講義と演習 (講義と一部演習) 成人期足部変形、変形性足関節症、外反母趾、内反小趾、強剛母趾、ハンマートゥー、マレットトゥー、クロウトゥー、種子骨障害、外脛骨、三角骨障害、Kohler病、フライバーク病、シーバー病、距骨無腐性壊死、腓骨筋腱脱臼、足根洞症候群	城下 貴司

	第15回 学修を深めるための演習問題（演習） 今までの講義の理解を深めるための総復習を行う	青木 章乃
科目の目的	理学療法士が担当する運動運動機能系の疾患は多岐に渡る。その一部を学習しても断片的な知識となり整理がつかない。本授業はそれらの疾患を幅広く学修することで、理学療法の根拠を裏付ける理論を学修し、理学療法に展開する基礎的な能力のきっかけとする。	
到達目標	理学療法士が運動運動機能系の疾患に対する科学的根拠に基づいた考え方を構築すること。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目	運動器解剖学、臓器解剖学、表面解剖学と触診法、生理学 I および II、運動学、臨床運動学、運動学演習、整形外科学、理学療法診断学、基礎理学療法診断学演習、運動機能系理学療法診断学演習、脊髄疾患理学療法、スポーツ理学療法学、障害者スポーツ・レクリエーション論	
成績評価方法・基準	定期試験80%、中間試験5%、課題レポート15% 定期試験は100点満点で実施するが80点満点に換算する、中間試験は100点満点で実施するが5点満点に換算する、課題はすべて期限内に提出されていれば15点満点とする。合算したのちに100点満点に換算して成績評価を行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学修に1時間（実時間45分）程度は必要となる。	
教科書	教科書：中村 利孝ほか：標準整形外科学 16版. 医学書院 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 上肢編 2版 ブイツーソリューション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 下肢編 2版 ブイツーソリューション 星雲社 教科書：城下貴司 運動機能系理学療法診断学 脊柱編 2版 ブイツーソリューション 星雲社	
参考書	参考書：林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 参考書：堀尾重治：骨・関節X線写真の撮りかたと見かた 第8版. 医学書院	
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	配付資料があるときは事前に連絡する、603研究室前に引出しにあるので代表者が取りに来て全員に配布しておくこと。	
アクティブ・ラーニングの実施	第2回から9回まで、第10回から15回まで反転授業形式を基本とする。各疾患の問題解決方法をまとめる必要がある。	
ナンバリング	PSo-202	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	城下 貴司（理学療法士）	
授業の概要	運動器系理学療法学の治療学に関して講義と演習を通じて理論と実践について学ぶ。具体的には、幅広い運動器系疾患の中から、大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、慢性関節リウマチ、切断、熱傷、骨盤底筋群不全を取り上げる。これらについて、講義に加え、一部問題解決型学習とデモンストラクションの演習を行い、運動器系疾患に対する理学療法士としての対応能力を修得する。	

講義科目名称： 脊髄疾患理学療法学

授業コード： 5P101

英文科目名称： Physiotherapy for Spinal Cord Disorders

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
田辺 将也	城下 貴司		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	単位取得後、「公益財団法人日本パラスポーツ協会」の所定の手続きをとることで、公認パラスポーツ指導員初級の申請が可能になる科目のひとつである。詳細は学生便覧「履修の手引き」を参照すること。	
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-301	

講義科目名称： 神経機能系理学療法治療学

授業コード： 5P102

英文科目名称： Physiotherapy for Neurological Function

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 学			

授業形態	講義・演習 15回（講義と演習を組み合わせる）。		担当者
授業計画	第1回	脳血管障害の病態 片麻痺の原因となる疾患	鈴木 学
	第2回	片麻痺の機能障害と回復過程 片麻痺の機能障害と回復の特徴	鈴木 学
	第3回	回復期と生活期の治療介入および中枢神経障害の治療の原則	鈴木 学
	第4回	回復期の評価1 回復期の評価項目抽出とその理由	鈴木 学
	第5回	回復期の評価2 片麻痺の異常動作と問題点抽出	鈴木 学
	第6回	能力障害への介入1 初期の体幹および上下肢近位部への介入	鈴木 学
	第7回	能力障害への介入2 側臥位保持と正常寝返り指導，座位保持と姿勢の修正・バランス練習，側臥位から片肘立て位までの起き上がり	鈴木 学
	第8回	能力障害への介入3 片肘立て位から端坐位までおよび長坐位までの起き上がり，四つ這い位保持，四つ這い位バランス練習	鈴木 学
	第9回	能力障害への介入4 座位から四つ這い位への変換，膝立て位保持練習・バランス，四つ這い位から膝立ち位までの変換	鈴木 学
	第10回	各能力障害への介入5 膝歩き練習，片膝立て位，膝立て位から片膝立て位への変換，床からの立ち上がり	鈴木 学
	第11回	機能障害への介入 分離運動の促通	鈴木 学
	第12回	各能力障害への介入5 椅子からの立ち上がり練習，平行棒内立位・歩行練習，杖歩行練習	鈴木 学
	第13回	片麻痺のADL指導1 移乗動作の物理学的理論，車椅子とベッドの移乗，車椅子操作	鈴木 学
	第14回	片麻痺のADL指導2 各種歩行練習，セルフケア，嚥下練習	鈴木 学
	第15回	生活期の理学療法介入と予後予測	鈴木 学
科目の目的	中枢神経系疾患、特に脳血管障害片麻痺に生じる障害の把握のための評価内容と評価結果から問題を抽出し、目標を設定して如何に治療介入していくかを学習する。具体的には、回復期における評価内容、治療の選択および進め方、治療技術の理論と実技を獲得させる。また生活期における機能維持、在宅での理学療法についても理解を深める。		
到達目標	1. 脳血管障害に生じる障害について説明できる。 2. 脳血管障害による片麻痺や四肢麻痺の回復期および生活期に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明および実践できる。 3. 脳血管障害に片麻痺や四肢麻痺の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	臓器解剖学 運動器解剖学 生理学Ⅰ・Ⅱ 生理学演習 運動学 精神医学 神経内科学 リハビリテーション医学 理学療法診断学 日常生活活動学 神経機能系理学療法診断学演習 神経機能系理学療法治療学演習 義肢装具学 地域理学療法学 見学実習 評価学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験 100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	神経系の解剖学, 生理学の予習および当該授業の復習 学修時間：45分		
教科書	「理学療法テキスト神経障害理学療法Ⅰ」石川朗 総編集（中山書店） 「神経内科学テキスト（改訂第3版）」江藤文夫、飯島節（南江堂）		

	パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定
参考書	「Steps to Follow」 P.M. デービス著 (シュプリンガー・フェアラーク東京) 「脳卒中理学療法理論と実技」原寛美、吉尾雅春 編 (メジカルビュー社) 「ここがポイント 脳卒中の理学療法」河村廣幸 編 (金原出版)
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である. 神経機能系理学療法診断学演習の内容が基礎となり神経機能系理学療法治療学演習Ⅱの内容と合わせて治療学が完結する. 講義資料は前週にActive academyにて配布し、PCまたは紙媒体で持参する.
アクティブ・ラーニングの実施	授業内演習にて治療技術学習のため知識とスキルの統合を推進する. 自ら分析し考察して技術の向上を目指す.
ナンバリング	PSo-203

講義科目名称： 神経機能系理学療法治療学演習

授業コード： 5P103

英文科目名称： Practice in Physiotherapy for Neurological Function

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 学	林 翔太		
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	PSo-302		

講義科目名称： 内部機能系理学療法治療学演習

授業コード： 5P104

英文科目名称： Practice in Physiotherapy Approach for Cardiovascular…

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
田代 尚範	木村 朗		
授業形態	担当者		
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）		
科目の目的			
到達目標			
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目			
成績評価方法・基準			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安			
教科書			
参考書			
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施			
ナンバリング	PSo-303		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	田代 尚範（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）		
授業の概要	呼吸・循環・代謝系疾患障害に対する病態の理解を深め、疾患特有の検査及び評価、リスク管理、理学療法介入を学習する。具体的には、心電図や血液データ、呼吸機能、運動耐容能などの検査・評価方法に加え、筋力トレーニングや有酸素運動、生活指導、生活習慣病や障害予防などについて、その考え方と対応、実践方法を学ぶ。		

講義科目名称： 身体活動学

授業コード： 5P105

英文科目名称： Physical Activity

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-304	

講義科目名称： 発達支援理学療法学

授業コード： 5P106

英文科目名称： Developmental Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
橋口 優			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意	単位取得後、「公益財団法人日本パラスポーツ協会」の所定の手続きをとることで、公認パラスポーツ指導員初級の申請が可能になる科目のひとつである。詳細は学生便覧「履修の手引き」を参照すること。	
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-305	

講義科目名称： 理学療法関連領域論

授業コード： 5P107

英文科目名称： Related Fields to Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
岡崎 大資	木村朗、鈴木	浅田春、加茂	田辺、酒井

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-306	

講義科目名称： 物理療法学

授業コード： 5P108

英文科目名称： Biophysical Agents

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
黒川 望	岡崎 大資		

授業形態	講義6回、実習2回		担当者
授業計画	<p>第1回 【講義1】 総論 物理療法の定義、位置付け、物理療法の原理、分類</p> <p>第2回 【講義2】 温熱療法 定義、熱力学、生理学的作用、治療の実際</p> <p>第3回 【講義3】 寒冷療法、水治療法 定義、分類、水の物理的特性、生理学的作用、治療の実際</p> <p>第4回 【講義4】 高周波療法 定義、原理、生理学的作用、治療の実際</p> <p>第5回 【講義5】 超音波療法 定義、原理、生理学的作用、治療の実際</p> <p>第6回 【講義6】 座学のまとめ、実習のポイント整理 講義1～5までのおさらい・ポイント整理、実習課題の理解、実際使用する道具・機器の確認</p> <p>第7回 【実習1】 グループ課題1 温熱・寒冷療法、水治療法をグループ単位で経験し、実際の方法を理解する。</p> <p>第8回 【実習2】 グループ課題2 高周波療法、超音波療法をグループ単位で経験し、実際の方法を理解する。</p>	<p>黒川 望</p> <p>黒川 望</p> <p>黒川 望</p> <p>岡崎 大資</p> <p>黒川 望</p> <p>岡崎 大資、黒川望</p> <p>岡崎 大資、黒川望</p> <p>岡崎 大資、黒川望</p>	
科目の目的	物理療法学は、運動療法学と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものである。本科目では物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の前半として、物理療法の総論と、温熱療法、寒冷療法、水治療法、高周波療法、超音波療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について、基本的事項の習得を目的とする。		
到達目標	<p>1. 物理療法の定義、歴史、分類を知り、各種治療法（温熱・寒冷療法、水治療法、高周波療法、超音波療法）について説明できる。</p> <p>2. 各種物理療法機器について適切な設定ができ、学生同士で実施ができる。</p>		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術		
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生理学演習、運動学、運動学演習、病理学、内科学、整形外科学、神経内科学、理学療法概論、障害と理学療法、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験（70%）、実習課題（30%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>教科書ならびに実習書の該当部分を熟読した上で参加すること。 （予習の目安：1コマあたり90分、復習の目安：1コマあたり90分） 講義の部分においては、アクティブアカデミーにより資料を事前配付する（配付期間：前回授業翌日から当該日まで）。 各自印刷およびPCにダウンロードの上、授業に持参すること。</p>		
教科書	・松澤正、江口勝彦・監修：物理療法学 改訂第3版。金原出版株式会社，2021.		
参考書	・Michelle H. Cameron・原著，渡部一郎・訳：EBM物理療法 原著第4版。医歯薬出版株式会社，2015.		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意	実習においては、動ける服装で参加すること。詳細は講義にて説明する。		
アクティブ・ラーニングの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク（実際の機器を用いた物理療法の実施） ・レポート課題（実習項目・内容についてのセルフチェック・振り返り） 		
ナンバリング	PSo-204		

講義科目名称： 物理療法学演習

授業コード： 5P109

英文科目名称： Practice in Biophysical Agents

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
黒川 望	岡崎 大資		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-307	

講義科目名称： 義肢装具学

授業コード： 5P110

英文科目名称： Prosthetics and Orthotics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
橋口 優	平井 正利		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-308	

講義科目名称： スポーツ理学療法学

授業コード： 5P111

英文科目名称： Physiotherapy in Sports

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
城下 貴司	青木 章乃		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-309	

講義科目名称： 日常生活活動学

授業コード： 5P112

英文科目名称： Activities of Daily Living

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美			

授業形態	講義 (7コマ) ・ 演習 (8コマ)	担当者
授業計画	第1回 講義：ガイダンス／ADLの概念と範囲 ADL, APDLなど言葉の定義, リハビリテーションにおける範囲について 生活機能からみたADLの位置づけ	浅田 春美
	第2回 講義：ADLの評価① ADL評価の目的・基準・尺度 ADL評価のポイント	浅田 春美
	第3回 講義：ADLの評価② 代表的なADL評価表について	浅田 春美
	第4回 演習：ADL評価の実際／セルフケアの構成要素① セルフケア (食事・排泄・入浴・更衣・整容) を細項目に分解する (グループワーク) 細目動作を各関節の運動で表現し, 表に記入する	浅田 春美
	第5回 演習：ADL評価の実際／セルフケアの構成要素② セルフケアの構成要素をグループごとに発表 (デモンストレーションを交えて行う) 講義終了時, 発表に使用した表をグループごとに1通提出	浅田 春美
	第6回 講義：基本動作① 基本動作の定義・意味／臥位・座位・立位姿勢	浅田 春美
	第7回 演習：基本動作② 臥位から立位までの正常動作の流れ／介助が必要な場合の介助法	浅田 春美
	第8回 演習：移動補助具 (杖・松葉杖・歩行器) ① 移動補助具の定義・種類・適応／杖の合わせ方・杖歩行 課題：T字杖歩行の指導用ハンドアウトの作成A4枚<患者さんまたは家族へ分かりやすく説明する> 次回の講義時提出／課題のフィードバックは, 返却時個人および全体へ行う	浅田 春美
	第9回 演習：移動補助具 (杖・松葉杖・歩行器) ② 松葉杖の合わせ方／松葉杖歩行／歩行器歩行 実技では患者さんへ松葉杖歩行を指導するよう, 分かりやすい言葉を用いて行う	浅田 春美
	第10回 講義：移動補助具 (車いす) ① 車いすの基本構造と名称・種類・適応	浅田 春美
	第11回 演習：移動補助具 (車いす) ② 車いすの合わせ方 (身体計測) ⇒自身に合った車いす寸法を計算できる／車いす操作 (自操・介助)	浅田 春美
	第12回 講義：リハビリテーション支援機器 移乗関連機器・自具	浅田 春美
	第13回 講義：ADL評価<FIM>1 FIMの理解と実践	浅田 春美
	第14回 演習：ADL評価<FIM>2 運動項目と認知項目を実践しながら理解を深める	浅田 春美
	第15回 演習：複合動作練習 (片麻痺を例に一連の流れのまとめ) 起き上がりから移乗 (車いす⇄ベッド・椅子) 動作とセルフケアの対処	浅田 春美
科目の目的	日常生活活動 (ADL) の概念とその範囲<起居・移動, 食事, 排泄, 入浴, 更衣, 整容>・より広い日常生活関連動作、QOLなどの概念との関係を理解する。またADL動作の分析・評価方法, また患者さんや家族への練習・指導方法などについて学習する。さらに日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具, 車いすなどの使用法, 適応などについて学ぶ。	
到達目標	1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的なADL 評価法の目的と活用法について説明できる。 3. 基本動作を含むADL を運動学的にとらえ, 模倣することができる。 4. 移動・移乗動作の指導・介助ができる。 5. 移動補助具の基本構造が説明でき, 適合・指導することができる。	
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	

関連科目	人間発達学, 障害と理学療法, 運動学, 臨床運動学, 理学療法診断学, 生活環境学, 地域理学療法学, 地域リハビリテーション学, 運動機能系理学療法診断学演習, 運動機能系理学療法治療学演習, 神経機能系理学療法診断学演習, 神経機能系理学療法治療学, 神経機能系理学療法治療学演習, 発達支援理学療法学, 高次脳機能評価学, 義肢装具学, 福祉機器論, 見学実習, 評価学実習, 地域理学療法実習, 総合臨床実習 I, 総合臨床実習 II
成績評価方法・基準	筆記試験(80%), 演習・課題への取り組みおよび提出(20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・授業前にテキストを読み、疑問点について調べる <解剖学・運動学等の復習> ・実技演習後のまとめ(教科書を参考に自筆ノートの作成など)、国家試験問題の解答などに取り組む。 1コマあたり4時間の予習・復習が必要。
教科書	1. 細田多穂監修, 河元岩男他編: シンプル理学療法学シリーズ日常生活活動学テキスト改訂第3版, 南江堂, 2023 2. 千野直一他: 脳卒中の機能評価 SIASとFIM, 金原出版株式会社, 2024
参考書	・勝平純司他著: 介助にいかすバイオメカニクス, 医学書院, 2011.
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照
履修条件・履修上の注意	実技演習の場合には、動きやすい服装で出席すること
アクティブ・ラーニングの実施	体験学習, グループワーク, 問題解決学習
ナンバリング	PSo-205

講義科目名称： 高齢者理学療法学演習

授業コード： 5P113

英文科目名称： Practice in Physiotherapy for Geriatrics

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
岡崎 大資	林 翔太		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-310	

講義科目名称： リハビリテーション栄養学

授業コード： 5P114

英文科目名称： Rehabilitation Nutrition

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
浅田 春美	棚橋 由佳		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-311	

講義科目名称： 福祉機器論

授業コード： 5P115

英文科目名称： Adaptation to Assistive Device Use

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
近藤 健	浅黄 真紀子	芝地 杏花	

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-312	

講義科目名称： 作業療法理論

授業コード： 5P116

英文科目名称： Theory of Occupational Therapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	専門知識と基本的技術	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-313	

講義科目名称： 災害保健学

授業コード： 5P117

英文科目名称： Disaster Response and Recovery

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
宮寺 寛子			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSo-314	

講義科目名称： 地域理学療法学

授業コード： 5P118

英文科目名称： Community-Based Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSp-301	

講義科目名称： 地域リハビリテーション学

授業コード： 5P119

英文科目名称： Community-Based Rehabilitation

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満	浅田 春美・青木 章乃	村田 和香・竹原 敦	宮寺 寛子・馬場 順子
	石山 寿子・岡野 由実		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSp-302	

講義科目名称： 生活環境学

授業コード： 5P120

英文科目名称： Living Environment Studies

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
佐藤 満	田辺 将也		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSp-303	

講義科目名称： 緩和医療学

授業コード： 5P121

英文科目名称： Palliative Medicine

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
木村 朗	田辺 将也		

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSp-304	

講義科目名称： 国際保健学

授業コード： 5P122

英文科目名称： Global Health

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
宮寺 寛子			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSp-401	

講義科目名称： 見学実習

授業コード： 5P123

英文科目名称： Clinical Clerkship

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
橋口 優			

授業形態	事前学内準備学習（2時間）、学外実習（1週間：40時間）、実習後まとめ・報告会（3時間）		担当者
授業計画	1	事前学内準備学習／オリエンテーション（2時間） 見学実習施設に関する情報収集、 見学実習の実習目的・実習内容等の説明、自己の目標設定など	プロパー教員
	2	学外臨床実習（40時間） 病院・施設等学外実習施設における見学実習（臨床実習）	各施設（学外）実習指導者
	3	事後学習（1時間） ポートフォリオのまとめ学習	プロパー教員
	4	実習後意見交換会（2時間） 見学実習で学んできたことについての振り返りと意見交換。自己目標に対するフィードバック	プロパー教員
科目の目的	病院・施設等における理学療法の臨床場面の見学を通し、社会人・専門職としての基本的態度を養い、また、見学施設での理学療法士の役割、理学療法業務、リハビリテーションの中での理学療法士の位置づけを理解することを目的とする。 3年次での評価学実習、4年次の総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに向けての導入・準備のための実習と位置づける。		
到達目標	1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。 2. 見学施設における理学療法士所属部署の位置づけ、他職種との関連を理解する。 3. 見学施設における理学療法の対象を理解する。 4. 見学施設における理学療法業務を理解する。		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進		
関連科目	2年次までの履修科目全般。評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	学外臨床実習成績（ルーブリック評価）20%、学内評価（事前準備学習、ポートフォリオ、報告会参加などのルーブリック評価）80%を総合して評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学内準備学習内容：医療面接、理学療法評価（バイタルチェック、形態計測、関節可動域測定）技術、移乗動作介助の復習など。		
教科書	指定なし（各学年、講義で使用した教科書）		
参考書	岡田慎一郎他：理学療法臨床実習サポートブック，医学書院，2015 その他、各講義で使用した教科書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照		
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照		
履修条件・履修上の注意			
アクティブ・ラーニングの実施	臨床実習（診療参加型実習）		
ナンバリング	PSq-201		
実務経験のある教員による授業			
実務経験	橋口 優（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）、鈴木 学（理学療法士）、富田 浩（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）		
授業の概要	学内で学んだ理学療法の基礎知識を基に、病院・施設での見学実習を通じて、理学療法の業務全般を体験して学ぶ。具体的には、理学療法の対象疾患、理学療法の流れ、理学療法評価、理学療法の治療法、リハビリテーションでの位置づけ等を体験する。		

講義科目名称： 評価学実習

授業コード： 5P124

英文科目名称： Bedside Assessment Practicum

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3学年	4単位	必修
担当教員	担当者		
橋口 優			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSq-301	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	橋口 優（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）、鈴木 学（理学療法士）、富田 浩（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）	
授業の概要	学内で学んだ理学療法の評価法の知識・技術を中心に病院・施設で実習する。理学療法の対象疾患である中枢神経疾患、整形外科疾患等の医療面接法、各種検査・測定、記録法等について、臨床実習指導者のもとで実体験する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にあてる。	

講義科目名称： 地域理学療法実習

授業コード： 5P125

英文科目名称： Practice in Community-Based Physiotherapy

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
田辺 将也			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSq-302	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	田辺 将也（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）、鈴木 学（理学療法士）、富田 浩（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、橋口 優（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）	
授業の概要	地域包括支援の方向にあって、地域での生活を支援するために必要な理学療法、多職種との連携、行政との関わりを理解することを目的とした実習を行う。通所でのリハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにて実務体験を通じて、多様な理学療法のありかたや多職種との連携を実践的に学ぶ。	

講義科目名称： 総合臨床実習 I

授業コード： 5P126

英文科目名称： Comprehensive Clinical Practicum I

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員	担当者		
加茂 智彦			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSq-401	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	加茂 智彦（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）、鈴木 学（理学療法士）、富田 浩（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、橋口 優（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）	
授業の概要	学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。とりわけ、治療プログラムの作成までを重視する。実習期間前後の合計5日間を事前事後指導にある。	

講義科目名称： 総合臨床実習Ⅱ

授業コード： 5P127

英文科目名称： Comprehensive Clinical Practicum II

対象カリキュラム： 2025年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
担当教員	担当者		
鈴木 学			

授業形態		担当者
授業計画	※今年度開講せず（2025年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
「ディプロマ・ポリシー」キーワード	人間の尊厳と基本的人権、探求力と問題解決力、専門知識と基本的技術、多職種協働と地域社会活動の促進	
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書		
参考書		
オフィス・アワー	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-オフィス・アワー」参照	
国家試験出題基準	「Active Academy Advance-Webフォルダ-教務課-国家試験出題基準」参照	
履修条件・履修上の注意		
アクティブ・ラーニングの実施		
ナンバリング	PSq-402	
実務経験のある教員による授業		
実務経験	鈴木 学（理学療法士）、佐藤 満（理学療法士）、木村 朗（理学療法士）、富田 浩（理学療法士）、岡崎 大資（理学療法士）、田代 尚範（理学療法士）、浅田 春美（理学療法士）、城下 貴司（理学療法士）、黒川 望（理学療法士）、橋口 優（理学療法士）、加茂 智彦（理学療法士）、田辺 将也（理学療法士）、林 翔太（理学療法士）、青木 章乃（理学療法士）	
授業の概要	学内で学んだ理学療法の知識、技術全般について、病院、施設で実習する。患者を対象として理学療法の流れに従って、理学療法評価、治療目標の設定、治療プログラムの作成、治療の実施、記録等を、臨床実習指導者の下で学ぶ。実習期間の前後合計5日間を事前事後指導にあてる。	